SHARP

取扱説明書

パーソナルコンピュータ

PC-WTシリーズ

この冊子以外の冊子や パソコン電子マニュアル（☞211 ページ）
にも情報がありますので、そちらもご覧ください。

安全にお使いいただくために

図記号について

この取扱説明書および商品には、安全にお使いいただくためにいろいろな表示をしています。その表示を無視して誤った取り扱いをすることによって生じる内容を、次のように区分しています。
内容をよく理解してから本文をお読みになり、記載事項をお守りください。

人が死亡または重傷を負うおそれがある内容を示しています。

人がけがをしたり財産に損害を受けるおそれがある内容を示しています。

図記号の意味（図記号の一例です）

記号は、気をつける必要があることを表しています。

記号は、してはいけないことを表しています。

記号は、しなければならないことを表しています。

⚠ 警告

電源は AC100V のコンセントを使用する

それ以外の電源で使用すると、火災の原因になります。
付属の電源コードは、AC100V 用(日本仕様)です。

タコ足配線をしない

タコ足配線は過熱し、火災の原因になります。

お客様による分解や修理・改造はしない

故障したときは、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、修理を依頼してください。

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない

感電の原因になります。

電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したりしない

また重い物を載せたり、引っ張ったり、ねじったり、無理に曲げたりすると電源コードをいため火災・感電の原因になります。

雷が鳴り始めたら、電源プラグを抜く

火災や感電の原因になります。

万一、発熱していたり、煙が出ている、変な臭いがするなどの異常が発生したら、すぐに電源を切り、電源プラグを抜く

そのまま使用すると火災・感電の原因になります。
修理を依頼してください。

⚠ 警告

風通しの悪い場所、ほこりや湿気の多い場所、油煙や湯気の当たる場所では使用しない
火災の原因になります。

電源プラグの刃や刃の付近に、ほこりや金属物が付いているときは、プラグを抜いて乾いた布で取り除く
そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。

混雑した場所(満員電車の中など)では、ワイヤレス LAN のアンテナを無効に設定する
電波により心臓ペースメーカーの動作に影響を与え、事故の原因となることがあります。

ワイヤレス LAN 機能を使うときは、心臓ペースメーカーの装着位置から 22cm 以上離す
電波により心臓ペースメーカーの動作に影響を与え、事故の原因となることがあります。

医療機関(病院など)の中や医療用電気機器の近くでは、ワイヤレス LAN のアンテナを無効に設定する
電波により医療用電気機器の動作に影響を与え、事故の原因となることがあります。

航空機内では、ワイヤレス LAN のアンテナを無効に設定する
電波により航空機の機器の動作に影響を与え、事故の原因となることがあります。
また、ワイヤレス LAN のアンテナを有効にすること、および航空機の離着陸時に本機を動作させることは、航空法違反となり処罰される場合があります。

⚠ 注意

本機を持ち運ぶ際は、しっかりと持ち、落とさないようにする

落とすと足をけがすることがあります。

電源プラグはゆるみのあるコンセントに接続しない

発熱して火災の原因となることがあります。お買いあげの販売店や電気工事店に交換の依頼をしてください。

電源プラグは、確実に差し込む

電源プラグはコンセントに根本まで確実に差し込んでください。差し込みが不完全ですと発熱したり、ホコリが付着して火災・感電の原因となることがあります。また、電源プラグの刃に触れると感電することがあります。

電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らない

電源コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

AC アダプターおよび電源コードを取り扱う場合は、次のことを守る

発煙、発火、火災の原因になります。

- 落下させたり衝撃を与えないでください。
- つけ根部分を無理に曲げないでください。
- 重いものを載せないでください。
- 布などでくるまないでください。
- 保温性のある場所（温風ファンの前やホームこたつ付近など）で使わないでください。
- AC アダプターにコードを巻きつけないでください。
- コードを結んだり、束ねたりしないでください。

本機を長期間使用しないときは、電源プラグを抜く

電源コードなどのケーブル類は、足などを引っかけないように整理する

ケーブル類を足などに引っかけたりすると、本機が落下して変形･故障の原因になったり、転倒してけがの原因になることがあります。

移動するときは、電源プラグを抜き、接続されているケーブルを外す

コードやケーブルが引っ掛かり、落ちたり、倒れたりしてけがの原因になることがあります。

⚠ 注意

バッテリーパックを取り扱う場合は、次のことを守る

バッテリーパックは誤った使い方をすると破裂や発火の原因になります。また、ショートして過熱したり他のものを傷つけることがあります。

- 指定の充電方法以外では充電しないでください。
- 金属小物(鍵、装飾品など)といっしょにポケットやカバンなどに入れないでください。
- 端子をショートさせないでください。
- 火の中に入れないでください。
- 分解や改造をしないでください。
- 衝撃を与えないでください。

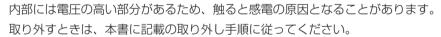
バッテリーパックから液が漏れて皮膚や衣服に付着したときは、ただちに水道水などのきれいな水で洗い流す

皮膚がかぶれたりする原因になる恐れがあります。また、漏れた液が目に入ったときは、こすらずにすぐに水道水などのきれいな水で十分に洗った後、ただちに医師の治療を受けてください。放置すると液により目に障害を与える原因となります。

小さな部品(カバー、キャップ、ネジ、バックアップ電池など)を取り外した場合は、幼児の手の届く所に置かない

小さな部品は飲み込むと、窒息の原因となったり、胃などに止まったりして大変危険です。飲み込んだ恐れがあるときは、ただちに医師と相談してください。

本書に記載の場合を除いて、本機のカバーなどを取り外さない

内部には電圧の高い部分があるため、触ると感電の原因となることがあります。
取り外すときは、本書に記載の取り外し手順に従ってください。

本機の開口部(通風孔やカードスロット)などから本機内部に異物(金属片、液体、燃えやすいものなど)を入れない

火災・感電の原因となることがあります。特にお子様にはご注意ください。

通風孔に付着したほこりやゴミをこまめに取り除く

通風孔にほこりをためたまま使用すると、火災や故障の原因となることがあります。

梱包で使用しているビニール袋は幼児の手の届く所に置かない

頭からかぶって鼻や口をふさぐと、窒息事故の原因となることがあります。

⚠ 注意

ぬれた手で使用したり、まわりに水など液体の入った容器を置かない

中に水が入ると、火災・感電の原因となることがあります。

本機をぐらついた台の上や不安定な場所に置かない

落ちたりして、けがの原因となることがあります。

目の健康のために、次のことを守る

- 連続して使用する場合は休憩を取り、目を休ませてください。
- 明暗の差が大きいところでは使用しないでください。
- 日光が画面に直接当たるところでは、使用しないでください。

密閉した箱に入れたり、じゅうたんや布団の上に置いたり、布などをかけたりしない

通風孔をふさぐと、熱がこもり、火災の原因になることがあります。

硬いものでこすったり、たたいたりしない

破損してけがの原因になることがあります。

長時間にわたり本機底面をひざの上などに直接触れて使用しない

低温やけどをおこす恐れがあります。また、通風孔およびその周辺は放熱のため熱くなることがありますので、持ち運び時などにはご注意ください。

ヘッドホンを使用するときは、音量を上げすぎない

耳を刺激するような大きな音量で長時間聴くと聴力に悪い影響を与える恐れがあります。呼びかけられても返事ができるくらいの音量で使いましょう。

ヘッドホンをしたまま電源を入れたり切ったりしない

刺激音により聴力に悪い影響を与える恐れがあります。

使用上のご注意

設置・保管するときのご注意

本機を次のようなところには設置・保管しないでください。

変色・変形・故障の原因になります。

- **直射日光の当たるところや暖房器具の近く**
- **温度が非常に高いところや低いところ**
- **湿度が高いところ**
- **ほこりの多いところ**
- **水などの液体がかかるところ**
- **振動や衝撃などを受けるところ**
- **不安定なところ**

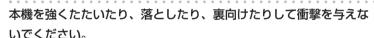
本機を立てて置かないでください。

バランスが崩れて倒れると変形・故障の原因になります。

お使いになるときのご注意

本機の上に重い物を載せたり、押さえ付けたりしないでください。

破損・故障の原因になります。

本機を強くたたいたり、落としたり、裏向けたりして衝撃を与えないでください。

本体およびハードディスクの故障の原因になります。
バッテリーパック交換時など、裏向ける必要がある場合は、衝撃を与えないよう静かに裏向けてください。

ディスプレイは傷が付きやすいので、先のとがったもの(シャープペンシル、ボールペンなど)でディスプレイ表面をたたいたり、ひっかいたりしないでください。

ハードディスクが故障したり、データが消失した場合に備えて、重要なデータは定期的に書き込み可能なCDやDVD、または外付けハードディスクなどに保存しておいてください

ACアダプターを温度の影響を受けやすい木製品や家具などの上に置かないでください。

本機を使用中、ACアダプターの温度が高くなる場合があり(故障ではありません)、置いた部分が変色・変形することがあります。

本機を寒い場所から暖かい場所に移動させたときや、暖房などで室温が急に上がったときなど、本機の表面や内部に結露(つゆつき)が起こる場合があります。結露が起きた場合は、結露がなくなるまで電源を入れないでください。

故障の原因となります。(結露を防ぐためには、徐々に室温を上げてください。)

持ち運ぶときのご注意

本機を持ち運ぶときは、次の注意を守ってください。

データが失われたり、ハードディスクの故障の原因になります。

- **電源を切る**
- **強い振動や衝撃を与えない**
- **CD などのディスクおよび PC カードなどのカード類を本機から取り出す**
- **本機に接続されている周辺機器やケーブル類はすべて取り外す**
- **ディスプレイを持たない**

ワイヤレス LAN に関するご注意

電波法に基づく適合証明について

本機は、電波法に基づく小電力データ通信システムの無線局の無線設備として、技術基準適合証明を受けています。したがって、製品を使用するときに、無線局の免許は必要ありません。

ただし、下記のことは行わないでください。法律により罰せられることがあります。

- 本機内蔵のワイヤレス LAN ユニットを分解、改造する
- 本機内蔵のワイヤレス LAN ユニットに貼ってある証明ラベルをはがす

使用上のご注意

- 本機に内蔵されているワイヤレス LAN は、日本国内での使用を目的に設計されています。海外では使用しないでください。

電波干渉に関するご注意

この表示のある無線機器は 2.4GHz を使用しています。変調方式として DS-SS 変調方式および OFDM 変調方式を採用し、与干渉距離は 40m です。

本機の使用する 2. 4GHz の周波数帯では電子レンジ等の産業・科学・医療機器のほか、他の同種無線局、工場の製造ライン等で使用される免許を要する移動体識別用構内無線局、免許を要しない特定の小電力無線局、アマチュア無線局等（以下「他の無線局」と略す）が運用されています。

1. この機器の使用前に、近くに「他の無線局」が運用されていないことを確認してください。
2. 万が一、この機器と「他の無線局」との間に電波干渉が発生した場合には、速やかにこの機器の使用 チャンネルを変更するか、使用場所を変えるか、または機器の運用を停止してください。
3. その他、何かお困りのことが起きたときは、「お客様サポートセンター」へお問い合わせください。

（「お客様サポートセンター」については、付属の サポートのご案内 をご覧ください。）

電波障害に関するご注意

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会 (VCCI) の基準に基づくクラス B 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

正しい取り扱いをしても、電波の状況によりラジオ、テレビジョン受信機の受信に影響を及ぼすことがあります。そのようなときには、次の点にご注意ください。

- この製品をラジオ、テレビジョン受信機から十分離してご使用ください。
- この製品とラジオ、テレビジョン受信機を別のコンセントに接続してください。
- 使用されるケーブルは指定のものを使用してください。

TFT カラー液晶パネルについて

TFT カラー液晶パネルは非常に精密度の高い技術で作られておりますが、画面の一部に点灯しない画素や常時点灯する画素がある場合があります。また、見る角度によって色むらや明るさむらが見える場合があります。これらは、故障ではありませんので、あらかじめご了承ください。

著作権等に関するご注意

本機種を利用して各種 CD・DVD、インターネットホームページ上の画像等著作権の対象となっている著作物を複製、編集等することは、著作権法上、個人的にまたは家庭内でその複製物や編集物を使用する場合に限って許されています。利用者自身が複製対象物について著作権等を有しているか、あるいは複製等について著作権者等から許諾を受けている等の事情が無いにもかかわらず、この範囲を越えて複製・編集や複製物・編集物を使用した場合には、著作権等を侵害することとなり、著作権者等から損害賠償等を請求されることとなりますので、そのような利用方法は厳重にお控えください。
また、本機種において写真の画像データを利用する場合は、上記著作権侵害にあたる利用方法は厳重にお控え頂くことはもちろん、他人の肖像を勝手に使用、改変等すると肖像権を侵害することとなりますので、そのような利用方法も厳重にお控えください。

コピーコントロール CD に関するご注意

このパソコンは、CD 規格(コンパクトディスクデジタルオーディオ)に準拠していない「コピーコントロール CD」などについて動作や音質を保証できません。通常の CD の再生時には支障がなく、上記の特殊なディスクのみに支障がある場合には、ディスクやパッケージ、印刷物などの表示をよくお読みの上、詳細については、ディスクの発売元へお問い合わせ願います。

OS のサポートに関するご注意

本機では、プリインストールされている OS（日本語版）のみをサポートしています。

Supported Operating System

The model only supports the pre-installed Japanese language operating system; other operating systems are not supported.

充電式電池のリサイクルご協力お願い

この商品のバッテリーパック（別売のバッテリーパックを含む）にはリチウムイオン電池を使用しています。この電池は、リサイクル可能な貴重な資源です。電池の交換、およびご使用済み商品の廃棄に際しては、リサイクルにご協力ください。

- ご使用済みの電池は、「当店は充電式電池のリサイクルに協力しています。」のステッカーを貼ったシャープ 商品取り扱いのお店へご持参ください。
- リサイクルのときは、次のことにご注意ください。
  - ・端子部にテープを貼る。
  - ・外装カバー（被覆・チューブなど）を剥がさない。
  - ・分解しない。

パソコンのリサイクルご協力お願い

使用済パソコンを有益な資源として再利用するためリサイクルにご協力ください。

ご使用済みパソコンを廃棄される場合は、サポートのご案内 を参照してください。

有寿命部品について

本製品の通常の使用において、製品の使用環境（温湿度など）や使用頻度、経過時間等により、劣化／磨耗が進行し、寿命が著しく短くなる可能性のある部品があります。これを「有寿命部品」と呼びます。

本製品には、下記の有寿命部品が含まれています。

ご使用状態によっては早期に部品交換（有料）が必要となる場合があります。

有寿命部品

キーボード、パッド型ポインティングデバイス、ハードディスクドライブ、CD/DVD ドライブ、バックライト、AC アダプター、コネクター／ケーブル類

※部品によっては、ユニット単位の交換になる場合があります。

ワイヤレス LAN 製品ご使用時におけるセキュリティに関するご注意
（お客様の権利（プライバシー保護）に関する重要な事項です！）

ワイヤレス LAN では、LAN ケーブルを使用する代わりに、電波を利用してパソコン等とワイヤレス LAN アクセスポイント間で情報のやり取りを行うため、電波の届く範囲であれば自由に LAN 接続が可能であるという利点があります。
その反面、電波はある範囲内であれば障害物（壁等）を越えてすべての場所に届くため、セキュリティに関する設定を行っていない場合、以下のような問題が発生する可能性があります。

・通信内容を盗み見られる
　悪意ある第三者が、電波を故意に傍受し、
　　ID やパスワード又はクレジットカード番号等の個人情報
　　メールの内容
　等の通信内容を盗み見られる可能性があります。

・不正に侵入される
　悪意ある第三者が、無断で個人や会社内のネットワークへアクセスし、
　　個人情報や機密情報を取り出す（情報漏洩）
　　特定の人物になりすまして通信し、不正な情報を流す（なりすまし）
　　傍受した通信内容を書き換えて発信する（改ざん）
　　コンピュータウイルスなどを流しデータやシステムを破壊する（破壊）
　などの行為をされてしまう可能性があります。

本来、ワイヤレス LAN カードやワイヤレス LAN アクセスポイントは、これらの問題に対応するためのセキュリティの仕組みを持っていますので、ワイヤレス LAN 製品のセキュリティに関する設定を行って製品を使用することで、その問題が発生する可能性は少なくなります。

ワイヤレス LAN 機器は、購入直後の状態においては、セキュリティに関する設定が施されていない場合があります。
従って、お客様がセキュリティ問題発生の可能性を少なくするためには、ワイヤレス LAN カードやワイヤレス LAN アクセスポイントをご使用になる前に、必ずワイヤレス LAN 機器のセキュリティに関する全ての設定をマニュアルにしたがって行ってください。
なお、ワイヤレス LAN の仕様上、特殊な方法によりセキュリティ設定が破られることもあり得ますので、ご理解の上、ご使用ください。
セキュリティの設定などについて、お客様ご自分で対処できない場合には、お客様サポートセンターまでお問い合わせください。（サポートのご案内 を参照してください）

※他社製のワイヤレス LAN 機器をお使いの場合は、各製品のマニュアルを参照してください。
　また、設定などについては、ご使用の機器のサポート先にお問い合わせください。

当社では、お客様がセキュリティの設定を行わないで使用した場合の問題を充分理解した上で、お客様自身の判断と責任においてセキュリティに関する設定を行い、製品を使用することをお奨めします。

社団法人 電子情報技術産業協会（JEITA）の無線 LAN のセキュリティに関するガイドラインについてはこちらをご参照ください。
http://it.jeita.or.jp/perinfo/committee/pc/wirelessLAN2/index.html

パソコンの廃棄・譲渡時のハードディスク上のデータ消去に関するご注意

最近、パソコンは、オフィスや家庭などで、いろいろな用途に使われるようになってきております。これらのパソコンの中のハードディスクという記憶装置に、お客様の重要なデータが記録されています。

従って、そのパソコンを譲渡あるいは廃棄するときには、これらの重要なデータ内容を消去するということが必要となります。

ところが、このハードディスク内に書き込まれたデータを消去するというのは、それほど簡単ではありません。「データを消去する」という場合、一般に

・データを「ゴミ箱」に捨てる
・「削除」操作を行う
・「ゴミ箱を空にする」コマンドを使って消す
・ソフトで初期化(フォーマット)する
・再インストールして、工場出荷状態に戻す

などの作業をすると思いますが、これらのことをしても、ハードディスク内に記録されたデータのファイル管理情報が変更されるだけで、実際はデータは見えなくなっているという状態なのです。つまり、一見消去されたように見えますが、Windows などの OS のもとで、それらのデータを呼び出す処理が出来なくなっただけで、本来のデータは残っているという状態にあるのです。

従いまして、市販のデータ回復のためのソフトウェアを利用すれば、これらのデータを読みとることが可能な場合があります。このため、悪意のある人により、このパソコンのハードディスク内の重要なデータが読みとられ、予期しない用途に利用される恐れがあります。

パソコンユーザーが、廃棄・譲渡等を行う際に、ハードディスク上の重要なデータが流出するというトラブルを回避するためには、ハードディスクに記録された全データを、ユーザーの責任において消去することが非常に重要となります。このパソコンにはハードディスクの全データを消去する機能が備わっています。この機能を使うとデータが復元されにくくなります。ただし、特殊な機器の使用によりデータを復元される可能性があります。より確実に消去するには、専用ソフトウェアあるいはサービス(共に有償)を利用するか、ハードディスク上のデータを金槌や強磁気により物理的・磁気的に破壊して、読めなくすることを推奨します。

本件に関して詳細は弊社メビウスのホームページ
http://support.sharp.co.jp/mebius/
をご覧になられるか、あるいは下記の窓口にお問い合わせくださるようお願い申し上げます。

●お客様サポートセンター
(サポートのご案内 を参照してください)
●パソコンを購入された販売店

また、本機の廃棄方法については、サポートのご案内 を参照してください。

なお、ハードディスク上のソフトウェア(OS、アプリケーションソフトなど)を削除することなくパソコンを譲渡すると、ソフトウェアライセンス使用許諾契約に抵触する場合があるため、十分な確認を行う必要があります。

お客様へのお願い

本パーソナル・コンピュータ「メビウスシリーズ」をご使用いただく前に、下記の契約書をよくお読みください。

このたびは、弊社パーソナル・コンピュータをお買いあげいただき、誠にありがとうございました。
お客様が購入された本パーソナル・コンピュータ「メビウスシリーズ」(以下「本製品」と記載します)にプリインストールまたは 添付されていますシャープオリジナルソフトウェア(以下「本ソフトウェア」と記載します)をご使用いただく前に下記の契約書をよくお読みください。本契約書にご同意いただけない場合には、本製品を未使用・本ソフトウェアの記録媒体のパッケージを未開封のまま本製品をお求めになった販売店にご返却ください。
お客様が本製品を使用された場合、または本ソフトウェアの記録媒体のパッケージを開封された場合には、下記契約書のすべてにご同意いただいたものといたします。本契約書にご同意いただいた方のみ、本ソフトウェアをご使用いただくことができます。

ソフトウェア使用許諾契約書

シャープ株式会社(以下「弊社」と記載します)は、お客様(法人または個人のいずれであるかを問いません)に、本製品にプリインストールまたは添付されている「本ソフトウェア」を使用する権利を下記条項に基づき許諾します。お客様が本製品を使用された場合、または本ソフトウェアのパッケージを開封された場合には、下記契約書のすべてにご同意いただいたものといたします。

1. 著作権

(1) お客様は、本契約の条項にしたがって本ソフトウェアを日本国内で使用する、非独占的な権利を本契約に基づき取得します。
(2) お客様は、本ソフトウェアを、本製品のみでご使用いただけます。
(3) お客様は、本ソフトウェアのバックアップまたは保存の目的においてのみ本ソフトウェアの全部または一部を一部数に限り複製することができます。ただし、本ソフトウェアの複製物を記録した媒体(フロッピーディスク、CD-ROM 等)が本製品に添付されている場合には、お客様は、本ソフトウェアを複製することはできません。この場合、お客様は本ソフトウェアのバックアップまたは保存の目的で、本製品に添付された当該複製物を取り扱うものとします。

2. 権利の許諾

(1) 本ソフトウェアに関する著作権等の知的財産権は、弊社に帰属 又は 第三者から正当なライセンスを得たものであり、本ソフトウェアは日本の著作権法その他関連して適用される法律等によって保護されています。したがってお客様は、本ソフトウェアを他の著作物と同様に扱わなければなりません。
(2) 本ソフトウェアとともにお客様に提供されるマニュアルおよび取扱説明書等の関連資料(以下「関連資料」と記載します)の著作権は、弊社に帰属し、これら関連資料は日本の著作権法その他関連して適用される法律等によって保護されています。お客様はこれら関連資料を複製することはできません。

3. 制限事項

(1) お客様は、本ソフトウェアのリバースエンジニアリング、逆コンパイルまたは逆アセンブルをすることはできません。
(2) お客様は、本契約書に明示的に許諾されている場合を除いて、本ソフトウェアの使用、全部または一部を複製、改変等をすることはできません。
(3) お客様は、本ソフトウェアおよび関連資料に付されている著作権表示およびその他の権利表示を除去することはできません。上記(2)に基づき本ソフトウェアを複製する場合には、本ソフトウェアに付されている著作権表示およびその他の権利表示も同時に複製するものとします。
(4) お客様は、本ソフトウェアを第三者に使用許諾、貸与またはリースすることはできません。

4. 本ソフトウェアの譲渡

お客様は、下記のすべての条件を満たした場合に限り、本ソフトウェアの本契約に基づく使用権を第三者に譲渡することができます。

i) お客様が本契約書、本ソフトウェアを含む本製品、本ソフトウェアのすべての複製物およびその記録媒体、ならびに関連資料を含む本製品のすべてを譲渡し、これらを一切保持しないこと。
ii) 譲受人が本契約に同意していること。

5. 限定保証

（1） 弊社は、本ソフトウェアに関していかなる保証も行いません。したがって、本ソフトウェアに関して発生するいかなる問題も、お客様の責任および費用負担により解決されるものとします。

（2） 上記（1）にかかわらず、お客様が必要事項を記入した 別添のユーザー登録／愛用者カードまたはオンラインユーザー登録を弊社まで返送された場合において、最初にご購入されたお客様が本製品をご購入された後 1 年以内に、弊社が本ソフトウェアの誤り（バグ）を修正した場合には、弊社はお客様に対して、修正されたソフトウェア、修正のためのソフトウェア（以下、これらのソフトウェアを「修正ソフトウェア」と記載します）、またはこのような修正に関する情報を提供いたします。ただし、修正ソフトウェアまたはこのような修正に関する情報の提供の必要性、提供時期、提供方法等に関しては、すべて弊社の裁量により決定させていただきます。お客様に提供された修正ソフトウェアは本ソフトウェアとみなします。

（3） 本ソフトウェアの記録媒体に物理的欠陥（ただし、プログラムおよび／またはデータの読み出しが不可能な場合に限ります）があり、弊社が当該欠陥を自己の責によるものと認めた場合、最初のお客様が本製品を購入された日から 14 日以内に本製品の保証書を添えてお求めになった販売店に当該記録媒体を返却された場合には、弊社は無償で当該記録媒体を同等の記録媒体と交換するものとします。

本項の規定をもって本ソフトウェアの記録媒体に関する弊社の保証のすべてといたします。

6. 責任の制限

（1） 弊社は、いかなる場合も、お客様の逸失利益、特別な事情から生じた損害（損害発生につき弊社が予見し、または予見し得た場合を含みます）および第三者からお客様になされた損害賠償等の請求による損害について、一切責任を負いません。

（2） いかなる場合においても、本契約に基づく弊社の責任はお客様が実際にお支払いになった本製品の代金のうち本ソフトウェアの代金相当額をその上限とします。

7. 契約の期間

本契約は、お客様が本製品を使用されたとき、または 本ソフトウェアの記録媒体のパッケージを開封されたとき発効し、下記 8. により本契約が終了するまで有効であるものとします。

8. 契約の終了

（1） お客様は、書面により事前に弊社まで通知することにより、いつでも本契約を終了させることができます。

（2） 弊社は、お客様が本契約のいずれかの条項に違反したときは、お客様に対し何らの通知・催告を行うことなく直ちに本契約を終了させることができます。

（3） 上記（2）の場合、弊社は、お客様によって被った損害をお客様に請求することができます。

（4） お客様は、本契約が終了したときは、直ちに本ソフトウェアおよびそのすべての複製物ならびに関連資料を破棄するものとします。

9. その他

（1） お客様は、いかなる方法および目的によっても、本ソフトウェアおよびその複製物を日本国外に輸出してはなりません。

（2） 本契約に関連または起因する紛争は、大阪地方裁判所を第一審の専属的合意管轄裁判所として解決するものとします。

シャープ株式会社　情報通信事業本部
〒 639-1186
奈良県大和郡山市美濃庄町 492 番地

はじめに

このたびは、シャープパーソナルコンピュータをお買いあげいただき、まことにありがとうございます。
この製品は厳重な品質管理と製品検査を経て出荷しておりますが、万一故障や不具合がありましたら、お買いあげの販売店までご連絡ください。
付属の「保証書」の定めるところによって修理を行います。

ご使用前のおことわり

- この製品を正しくお使いいただくために、この取扱説明書をよくお読みになってからご使用ください。またこの取扱説明書は、いつも手元に置いてご使用ください。ご使用中にわからないことや、具合の悪いことがおきたとき、きっとお役に立ちます。
- 当社は、この製品の使用誤り、使用中に生じた故障、その他の不具合によって受けられた損害については、法令上賠償責任が認められる場合を除き、一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
- 当社は、この製品においてソフトウェアを使用された結果に関して、いかなる保証も致しかねますのであらかじめご了承ください。
  なお、ソフトウェアのご使用に際しては、そのソフトウェアの提供者の使用条件が明示されているときは、必ずそれらの使用条件をご確認ください。
- お客様または第三者が、この製品の使いかたを誤ったときや静電気・電気的ノイズの影響を受けたとき、また故障・修理のときや電池交換の方法を誤ったときは、記憶内容が変化・消失する恐れがあります。
  重要な内容は、必ず書き込み可能なCDやDVD、または外付けハードディスクなどの記録媒体に記録し保管してください。
- 本書の内容の全部または一部を、当社に無断で転載、あるいは複製することはお断りします。
- この製品は付属品を含め、改良のため予告なく変更することがあります。

- この製品にインストールまたは付属のソフトウェアのご使用条件もあわせてお読みください。
- 巻頭の「安全にお使いいただくために」には、この製品を安全にお使いいただくための重要な情報が記載されています。内容をよくお読みになった上で、この製品をお使いください。

この製品をご使用になった場合は、これらの使用条件をご承認いただいたものとみなします。
ご承認いただけない場合は、ご使用になる前に購入先に返品をお申し入れください。

商標、登録商標

・Microsoft 、Windows、Windows Media、Outlook は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
・ AMD、AMD Athlon、AMD Sempron、AMD Turion ならびにその組み合わせ、AMD PowerNow! は、Advanced Micro Devices, Inc. の商標です。
・ HyperTransport は、HyperTransport Technology Consortium の許諾商標です。
・ ATI、Radeon、Catalyst Control Center は、ATI Technologies Inc. の商標または登録商標です。
・ ShadowProtect Restore は、米国およびその他の国における StorageCraft Technology Corporation の商標です。
・ MBRINST は、日本およびその他の国における株式会社 ネットジャパンの商標です。
・ Roxio, Roxio Easy Media Creator は、Sonic Solutions の商標です。
・ Ulead、DVD MovieWriter、DVD ムービーライターは、Ulead Systems, Inc. またはユーリードシステムズ株式会社の登録商標です。
・ WinDVD は、InterVideo, Inc. の商標です。
・ AOSS は、株式会社バッファローの商標です。
・ Liquid Surf は、米国 Portrait Displays, Inc. 社の商標です。
・ Memory Stick、メモリースティック、メモリースティック デュオ、メモリースティック PRO デュオは、ソニー株式会社の商標です。
・xD-Picture Card は、富士写真フィルム株式会社の商標です。
・ TRENDMICRO、ウイルスバスターは、トレンドマイクロ株式会社の登録商標です。
・ アイフィルターは、デジタルアーツ株式会社の登録商標です。
その他、製品名などの固有名詞は各社の商標、または登録商標です。

当社は国際エネルギースタープログラムの参加事業者として、本製品が国際エネルギースタープログラムの対象製品に関する基準を満たしていると判断します。

この製品は、クラス 1 レーザー機器を使用しています。

この説明書の読み方

この説明書は目的別構成になっています。電源を入れた後は、操作したい内容の章からお読みください。

操作のしかたを確かめよう［基本編］

このパソコンの基本的な操作を知りたい、というときにお読みください。AC アダプタ ーを外して使用するときは、「パソコンをバッテリーで使う」を必ずお読みください。

通信機能を使ってみよう［通信編］

インターネットや他のパソコンに接続したい、というときにお読みください。ケーブルやワイヤレス LAN を使ったネットワーク接続など、いろいろな方法があります。

周辺機器を接続しよう［周辺機器編］

周辺機器と接続してパソコンを活用したい、というときにお読みください。プリンターに接続して印刷したり、PC カードなどを使って機能を拡張する方法などを紹介しています。

セキュリティを強化しよう［万一に備えて］

万一に備えてセキュリティを強化したい、というときにお読みください。コンピュータウイルス、盗難、不正使用からパソコンやデータを守る方法、パソコン廃棄・譲渡時のデータ消去などについて説明しています。インターネットに接続するときは、「コンピュータウイルスを予防する・駆除する」を必ずお読みください。

困ったときは

操作中にパソコンが動作しなくなったり、思った結果にならないときは「故障かな？と思ったら」をお読みください。また、ハードディスクの内容をご購入時の状態に戻す方法も紹介しています。

付録

セットアップユーティリティの設定内容やパソコンに関する補足情報などについて紹介しています。また「さくいん」から、操作説明を探すこともできます。

この説明書の表記方法

この説明書で使用している記号について

記号	説明
⚠注意	無視すると、使用者が損害を負う可能性のある注意事項を記載しています。
	パソコンや周辺機器の故障の原因になる注意事項を記載しています。
	参考情報や関連事項、操作上の制限事項などを記載しています。
メビウス活用ガイド	別冊の説明書を示します。(左は「メビウス活用ガイド」の例です。)
☞	この説明書の参照ページや、参照する他の説明書を示します。

キーの表示について

キーボードのキーを押す操作では、キーを枠で囲んでいます。

また、あるキーを押しながら他のキーを押すときは、「＋」でつないで表記しています。

例）Fn ＋ F7（▲☼）

記載の画面について

この説明書に記載の画面は実際の画面と異なる場合があります。

また、操作状況やパソコンの状態によって表示が異なる項目などは「XXXXXX」で表しています。

例） 残り:XXX時間 (XX%)
12:00

画面上のボタンについて

画面に表示されるボタン（ OK など）は、[ ]で囲んで表記しています。

例）[OK]をクリックします。

画面上のメニュー項目などについて

メニュー項目や、画面やアイコンの名称などは、「 」で囲んで表記しています。

例）● 「コントロールパネル」をクリックします。
- 「画面のプロパティ」画面が表示されます。

文字入力について

キーボードを使って文字を入力する内容は、太字または「 」で囲み、小文字で表記しています。特に指定がない限り半角文字を入力してください。

例）**c: ￥mnmanual ￥sample.bmp** と入力します。

コントロールパネルの表示について

コントロールパネルの表示にはカテゴリの表示とクラシック表示があります。
この説明書では、カテゴリの表示で説明しています。

「カテゴリの表示」画面

ここをクリックすると「クラシック表示」画面に切り替わります。

「クラシック表示」画面

ここをクリックすると「カテゴリの表示」画面に切り替わります。

※ 画面は一例です。表示されるアイコンの種類や数は実際の画面と異なる場合があります。

基本編（操作のしかたを確かめよう）

通信編（通信機能を使ってみよう）

周辺機器編（周辺機器を接続しよう）

万一に備えて（セキュリティを強化しよう）

困ったときは

付録

基　本　編

操作のしかたを確かめよう

バッテリーやキーボードの使い方、ディスプレイの調整など、この章ではパソコンの基本的な操作について説明しています。たくさんの機能がありますが、全部通して読む必要はありません。必要な項目からお読みください。

各部の名称

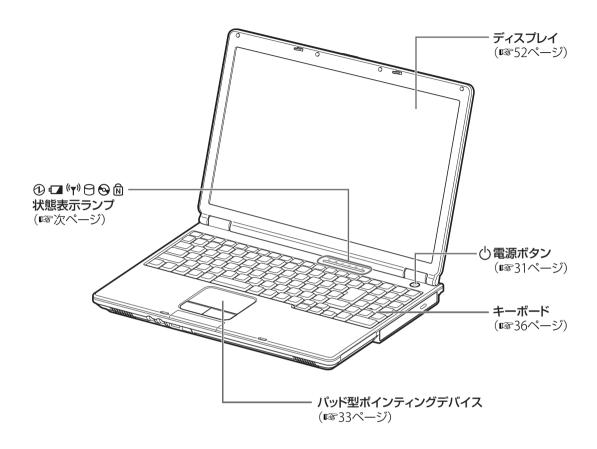
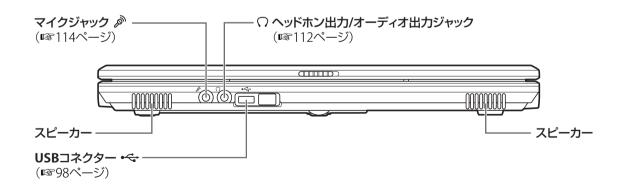
前面

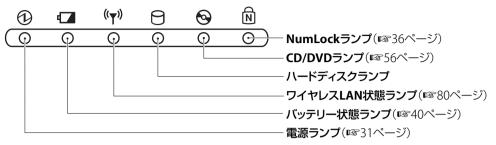
ディスプレイ
(☞52ページ)

状態表示ランプ
(☞次ページ)

電源ボタン
(☞31ページ)

キーボード
(☞36ページ)

パッド型ポインティングデバイス
(☞33ページ)

状態表示ランプ

電源のオン／オフ、バッテリーの充電状態、ワイヤレス LAN のアンテナの有効／無効がわかります。また、ハードディスク、CD/DVD ドライブへアクセス中はアイコンの下のランプが点灯します。

ご注意

- 、 ランプが点灯中は、次のことはしないでください。データが失われたり、故障の原因になります。
  - ・電源を切る
  - ・パソコン本体を動かす

電源ランプ	緑点灯	電源が入っている。(電源ボタンが青点灯)
	緑点滅	スタンバイ状態。(電源ボタンが青点滅)
	消灯	休止状態または電源が切れている。
バッテリー状態ランプ	**AC アダプターを接続しているとき**	
	緑点灯	バッテリーが満充電されている。
	オレンジ点灯	バッテリーを充電中。
	オレンジ点滅	バッテリーの充電が正常に終了しなかった。(☞40 ページ)
	AC アダプターを接続していないとき(電源オン状態)	
	赤点滅	バッテリー残量が非常に少ない。同時に警告音が鳴ります。
	消灯	バッテリー残量がある。
	AC アダプターを接続していないとき(電源オフ状態)	
	消灯	常に消灯状態になります。
ワイヤレス LAN 状態ランプ	緑点灯	アンテナが有効になっている。
	消灯	アンテナが無効になっている。
ハードディスクランプ	緑点灯	ハードディスクドライブにアクセスしている。
	消灯	ハードディスクドライブにアクセスしていない。
CD/DVD ランプ	緑点灯	CD/DVD ドライブにアクセスしている。
	消灯	CD/DVD ドライブにアクセスしていない。
NumLock ランプ	緑点灯	テンキーで数字と演算記号が入力できます。(数字キーロックオン状態)
	消灯	テンキーがカーソルコントロールキーとして動作します。(数字キーロックオフ状態)

右側面

DVDスーパーマルチドライブ
（☞54ページ）
以下CD/DVDドライブと表記します。

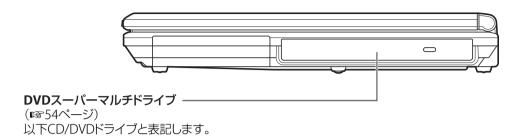
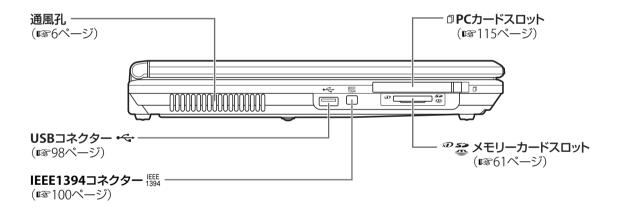
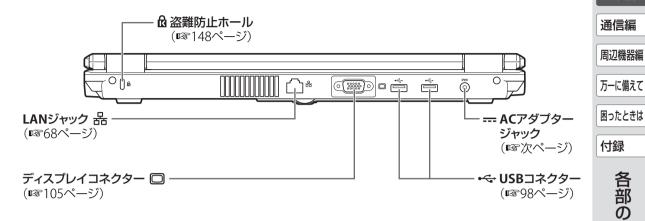
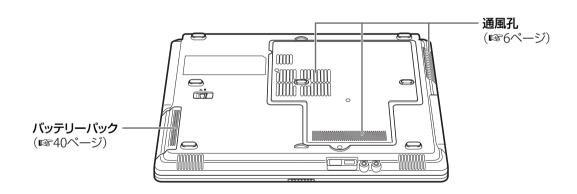
左側面

通風孔
（☞6ページ）
PCカードスロット
（☞115ページ）
USBコネクター
（☞98ページ）
IEEE1394コネクター
IEEE 1394
（☞100ページ）
メモリーカードスロット
（☞61ページ）

後面

盗難防止ホール
(☞148ページ)
LANジャック
(☞68ページ)
ACアダプター
ジャック
(☞次ページ)
ディスプレイコネクター
(☞105ページ)
USBコネクター
(☞98ページ)

底面

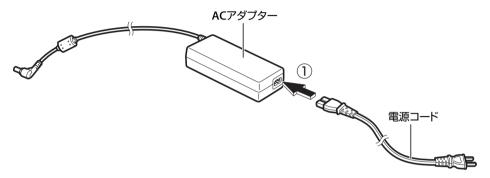
通風孔
(☞6ページ)
バッテリーパック
(☞40ページ)

電源の入れ方・切り方

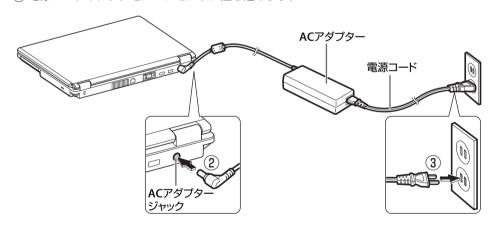
基本的な電源の入れ方と切り方を確認しましょう。
初めて電源を入れるときは、はじめにお読みください を参照してください。

電源を入れる

1 **パソコンを電源コンセントに接続します。**

下図のように、付属の電源コードと AC アダプターを使って接続します。

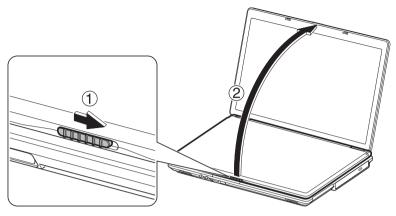
① 電源コードを、AC アダプターに接続します。

② AC アダプターのコネクターを、パソコンの AC アダプタージャックに「カチッ」と音がするまで差し込みます。

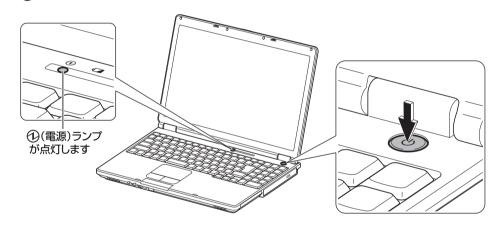
③ 電源コードのプラグを、コンセントに差し込みます。

ご注意

- ① ② ③ の各接続部はしっかりと奥まで差し込んでください。
- AC アダプター（EA-WE1V）および電源コードは、必ずこのパソコンの付属品を使用してください。付属品以外のものを使用すると、故障の原因になります。

2 ディスプレイを開きます。

① レバーを右側へスライドします。

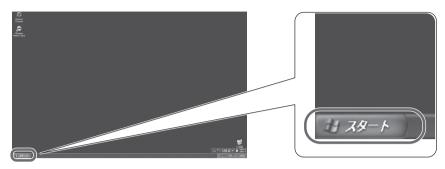
② レバーをスライドさせた状態で、ディスプレイをゆっくりと開きます。

3 電源ボタンを押します。

⏻（電源）ランプが緑色、電源ボタンが青色に点灯し、Windows が起動します。

ご注意

- 電源を入れてパソコンが起動するまでは、必要なとき以外はキーボードやパッド型ポインティングデバイスに触らないでください。正常に起動できなくなる場合があります。

ご参考

- 複数のユーザーアカウントが設定されているときは、ようこそ画面で使用するユーザーアカウントをクリックして選択してください。
- 一定時間パソコンを操作しないでいると、省電力機能が働いて画面の表示が消えます。何らかのキーを押すか、パッド型ポインティングデバイスを操作すると、再び表示されます。

電源を切る

1 [スタート]をクリックします。

スタートメニューが表示されます。

2 「終了オプション」をクリックします。

3 「電源を切る」をクリックします。

パソコンの電源が切れ、⏻ランプが消えます。

ご参考

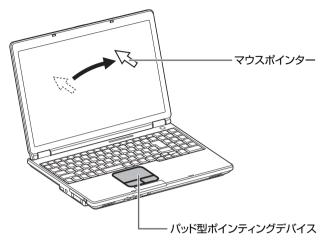
- 「ほかの人がこのコンピュータにログオンしています」と表示されたときは、[いいえ]をクリックし、ほかのユーザーアカウントの作業を終了してください。

4 ⏻ランプが消えていることを確認後、「カチッ」と音がするまでディスプレイをゆっくりと閉じます。

ご注意

- 再び電源を入れるときは、必ず10秒以上の間隔をおいてください。連続して電源を切ったり入れたりすると、故障の原因になります。

パッド型ポインティングデバイスを使う

Windows では、パッド型ポインティングデバイスで画面操作ができます。
はじめはマウスポインター（ ）が思いどおりに動かないものですが、ゆっくり操作しながら慣れましょう。

ご注意

- 必ず指で操作してください。先のとがったもの（シャープペンやボールペンの先）で操作すると、パッドを傷めてしまいます。
- 濡れた手や汗をかいた手で操作しないでください。マウスポインターが思わぬ方向に動いてしまうだけでなく、故障の原因にもなります。

パッド部とボタンで操作する

ポイントする

マウスポインター（矢印マーク）を目的のアイコンやボタンの上に移動することです。

パッドに指を触れて、移動したい方向に動かします。
パッドの端で指を動かす場所がなくなったら、いったん指を上げて元の位置へ戻して、再度指を動かしてください。

クリックする

画面上のボタンを押したり、メニューを選ぶ操作です。

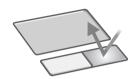
マウスポインターの位置を確かめて、左ボタンを「カチッ」と 1 回押します。

ダブルクリックする

ソフトウェアを起動したり、ファイルを開くときの操作です。

マウスポインターの位置を確かめて、左ボタンを「カチカチッ」とすばやく 2 回押します。

右クリックする

関連するメニューを表示するときなどに使う操作です。

マウスポインターの位置を確かめて、右ボタンを「カチッ」と 1 回押します。

ドラッグする

ファイルやフォルダを移動する操作です。

マウスポインターの位置を確かめて、親指で左ボタンを押したまま、人差し指をパッド上で動かします。
目的の位置まできたら、親指を左ボタンから離します(ドロップする)。
人差し指はそのあと離してかまいません。
一連の動作をドラッグ＆ドロップと呼びます。

パッド部だけで操作する

左ボタンのかわりにパッド部を「トン」と指でたたいて、クリックやダブルクリックをすることもできます。

クリックする

マウスポインターの位置を確かめて、パッドを「トン」と 1 回たたきます。

ダブルクリックする

マウスポインターの位置を確かめて、パッドを「トントン」とすばやく 2 回たたきます。

ドラッグする

マウスポインターの位置を確かめて、パッドを「トントン」とすばやく2回たたき、指をパッドにのせたまま動かします。
目的の位置まで動かしたら、指を離します（ドロップする）。
一連の動作をドラッグ＆ドロップと呼びます。

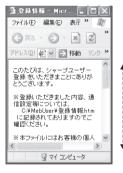
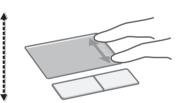
画面をスクロールする

パッド部で指を動かして、画面をスクロールすることができます。
画面のスクロールは、対応したソフトウェアでのみ動作します。

上下にスクロールする

パッドの右端に指を触れて、前後に動かします。指を前に動かすと画面が上にスクロールされ、後ろに動かすと画面が下にスクロールされます。

左右にスクロールする

パッドの下部に指を触れて、左右に動かします。指を右に動かすと画面が右にスクロールされ、左に動かすと画面が左にスクロールされます。

上下にスクロール

左右にスクロール

その他の機能の確認や設定は

- 「マウスのプロパティ」画面を参照してください。画面を表示するには、以下の手順に従って操作してください。
  ① [スタート]をクリックし、「コントロールパネル」をクリックします。
  「コントロールパネル」画面が表示されます。
  ② 「プリンタとその他のハードウェア」をクリックします。
  ③ 「マウス」をクリックします。

キーボードを使う

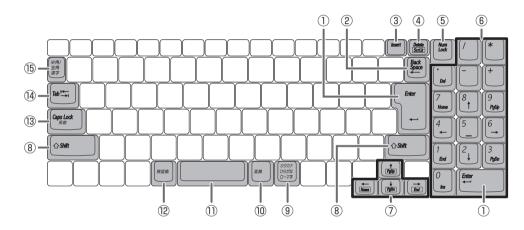
キーボードを使うと、文字を入力したり、特定の機能を働かせたりすることができます。ここでは、それぞれの役割に使うキーをまとめて紹介します。

ご参考

- Windows やソフトウェアで割り当てられているその他の機能については、下記のものを参照してください。
  ・[スタート]をクリックし、「ヘルプとサポート」をクリックして表示されるヘルプ画面
  ・Microsoft IME（日本語入力システム）のヘルプ
  ・お使いのソフトウェアの説明書、ヘルプ

文字を入力する

下記のキーを使って入力モードの変更や、文字変換をします。

① [⏎]（エンター）キー

日本語入力システムがオンのときに、入力した文字を確定します。
文字確定後、および日本語入力システムがオフのときは、改行になります。

② [Back Space]（バックスペース）キー

カーソル位置の左側の 1 文字、または選択した範囲の文字を消します。

③ [Insert]（インサート）キー

文字を入力するときに、挿入するか、上書きするかを切り替えます。機能は、使用するソフトウェアによって異なります。

④ [Delete]（デリート）キー

カーソル位置の右側の 1 文字、または選択した範囲の文字を消します。

⑤ [Num Lock]（数字キーロックキー）キー

[Num Lock] キーを押すと、N (Num Lock) ランプが消灯し、テンキーの数字キーロックモードが解除され、もう一度押すと、Nランプが点灯し、数字キーロックモードになります。

⑥ **テンキー**

Nランプ点灯中（数字キーロックオン状態）は、数字が入力できます。Num Lock キーを押すと、Nランプが消灯し（数字キーロックオフ状態）、キー下段に刻印されている機能（↑、↓、←、→、Home など）が働きます。⏎ キーと演算記号は、数字キーロックがどちらの状態でも入力できます。

⑦ **↑ ↓ ← →（カーソル）キー**

カーソルを上下左右に移動します。

⑧ **Shift（シフト）キー**

Shift キーを押しながら文字キーを押すと、キーの上段に刻印されている文字や記号、アルファベットの大文字が入力できます。

⑨ **カタカナ・ひらがな キー**

Shift キーを押しながら カタカナ・ひらがな（ローマ字）キーを押すと、カタカナモードになります。ひらがなモードに戻るには、カタカナ・ひらがな（ローマ字）キーだけを押します。

ローマ字 キー

日本語入力システムがオンのときは、Alt キーを押しながら
カタカナ・ひらがな（ローマ字）キーを押すたびに、かな入力／ローマ字入力が切り替わります。

⑩ **変換 キー**

日本語入力システムがオンのときに、入力した文字を変換します。
もう１度 変換 キーを押すと、他の候補リストを表示します。
スペースキーを押して変換することもできます。（ご購入時の設定）

⑪ **スペースキー**

スペース（空白）を入力します。

⑫ **無変換 キー**

日本語入力システムがオンのときに、入力した文字を、全角／半角のカタカナや数字に変換できます。

⑬ **Caps Lock・英数 キー**

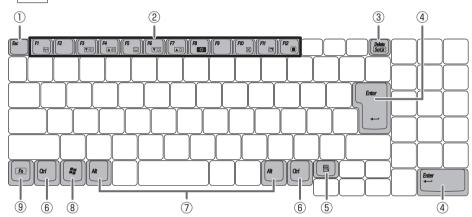
Shift キーを押しながら Caps Lock・英数 キーを押すと、アルファベットの大文字が入力できる状態になります。モードを解除するには、もう一度 Shift キーを押しながら
Caps Lock・英数 キーを押します。また、日本語入力システムがオンのときに
Caps Lock・英数 キーを押すと、英数字モードになります。

⑭ **Tab（タブ）キー**

タブ位置まで入力位置が移動します。

⑮ 半角/全角（漢字）キー
日本語入力システムのオン／オフを切り替えます。（ご購入時の設定）

特定の機能を働かせる

キーボードからパソコンを動作させるためには、特定の機能を割り当てたキーを押す方法と、Fn や Ctrl キーなどを押しながら他のキーを押す操作(ショートカット)があります。

① Esc（エスケープ）キー
現在の操作を取り消して、1つ前の操作に戻るときなどに押します。

② F1 ～ F12（ファンクション 1 ～ 12）キー
使用するソフトウェアによって、いろいろな機能が割り当てられます。

③ Delete（デリート）キー
選択したファイルやアイコンなどを削除します。

ScrLk（スクロールロック）キー
Fn キーを押しながら Delete（ScrLk）キーを押すと、スクロールロックモードになります。機能は、使用するソフトウェアによって異なります。モードを解除するには、もう一度 Fn キーを押しながら Delete（ScrLk）キーを押します。

④ ↵（エンター）キー
設定画面の破線で囲まれたボタンや、反転している項目を選択します。

⑤ ▤（アプリケーション）キー
使用するソフトウェアによって、いろいろな機能が割り当てられます。通常は、右クリックと同じ働きをします。

⑥ **Ctrl（コントロール）キー**

Ctrl キーを押しながら他のキーを押すと、いろいろな操作ができます。機能は、使用するソフトウェアによって異なります。

⑦ **Alt（オルト）キー**

Alt キーを押しながら他のキーを押すと、いろいろな操作ができます。機能は、使用するソフトウェアによって異なります。Alt キーを押しながら緑色で刻印されたキーを押すと、その機能が働きます。

⑧ **（Windows）キー**

Windows の「スタート」メニューを表示します。

⑨ **Fn（ファンクション）キー**

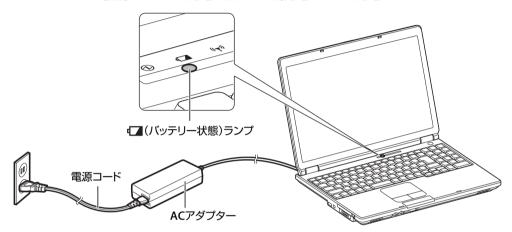
Fnキーを押しながら枠囲みで刻印されているキーを押すと、枠囲みの機能が働きます。
枠囲みでアイコンが刻印されているキーの機能は、次のとおりです。

Fn＋F1（ ）：内蔵ワイヤレス LAN のアンテナの有効／無効を切り替えます。
Fn＋F3（ ）：音量を下げます。
Fn＋F4（ ）：音量を上げます。
Fn＋F5（ ）：外部ディスプレイを使用しているとき、表示先を切り替えます。
Fn＋F6（ ）：内蔵ディスプレイを暗くします。
Fn＋F7（ ）：内蔵ディスプレイを明るくします。
Fn＋F8（ ）：内蔵ディスプレイを最大の明るさにします。もう一度押すと、元の明るさに戻ります。
Fn＋F10（ ）：音を消します。もう一度押すと元の音量に戻ります。
Fn＋F11（ ）：ディスプレイのオン／オフを切り替えます。
Fn＋F12（ ）：パソコンをスタンバイ、休止状態または電源オフにします。

パソコンをバッテリーで使う

AC アダプターを接続していないときは、パソコンの電源は内蔵のバッテリーパックから供給されます。
バッテリーパックを上手に使いこなすために、充電や残量確認の方法、バッテリー切れの警告などについて知っておきましょう。

バッテリーパックを充電する

バッテリーパックを充電するといっても、特別な操作は必要ありません。
AC アダプターを接続するだけで充電が始まり、満充電になると充電が止まります。

充電中の状態は

(バッテリー状態)ランプで確認できます。

オレンジ点灯	充電中
緑点灯	満充電

ご参考

- バッテリーを充電しながらパソコンを使用中、CPU が多くの処理をしているときや周辺機器を使ったために電力消費が大きくなった場合に、ランプ(オレンジ色)が消えることがありますが、故障ではありません。また、充電中にバッテリーパックの温度が上がり過ぎた場合にも、安全のため充電が一時中止され、ランプ(オレンジ色)が消えます。バッテリーパックの温度が下がると充電が再開されます。
- ランプがオレンジ色に点滅しているときは、バッテリーパックが正しく装着されていない可能性があります。パソコンの電源を切り、いったん、AC アダプターとバッテリーパックを取り外し、バッテリーパックを装着し直してから、再度 AC アダプターを接続してみてください。それでも同じなら、バッテリーパックの寿命、劣化、故障、またはパソコンの故障が考えられます。点検を依頼してください。

充電時間および満充電時の使用時間は

仕様一覧 の「バッテリー充電時間」および「バッテリー駆動時間」を参照してください。

バッテリーの残量を確かめる

バッテリーの残量は画面で確認できます。

バッテリーの残量を画面で確認する

タスクバーの（ ）の上に、マウスポインターを移動します。
バッテリーの残量がパーセント表示されます。

残り:X:XX時間 (XX%)
12:00

- ：ACアダプターを外して、バッテリーで使用しているとき
- ：ACアダプターを接続して使用しているとき（バッテリーは充電中）
- ：ACアダプターを接続して使用しているとき（バッテリーは満充電）
  このときは、バッテリーの残量は表示されず、「AC電源オン」と表示されます。

（ 、 ）をダブルクリックして、「バッテリメーター」画面で確認することもできます。

ご参考

- バッテリーの残量表示は概算によるものです。使用状況によって誤差が生じますので目安としてお使いください。
- スタンバイまたは休止状態から復帰したとき、およびACアダプターを抜き差ししたときは、しばらく残量表示が正しくないことがあります。
- バッテリーの残量表示と実際の使用時間の差が大きくなったときは、バッテリーパックを初期化してください。（☞43ページ）

タスクバーに（ 、 ）が表示されていないときは

次のように操作して、表示させてください。

1 **[スタート]をクリックし、「コントロールパネル」をクリックします。**
「コントロールパネル」画面が表示されます。

2 **「パフォーマンスとメンテナンス」をクリックします。**

3 **「電源オプション」をクリックします。**
「電源オプションのプロパティ」画面が表示されます。

4 「詳細設定」タブをクリックし、「アイコンをタスクバーに常に表示する」をクリックしてチェックマークを付け、[OK]をクリックします。

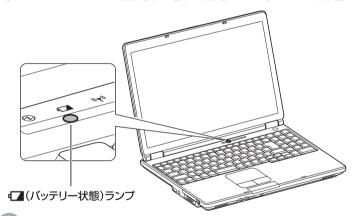
5 画面右上の ☒ をクリックして「パフォーマンスとメンテナンス」画面を閉じます。

バッテリー切れを警告するタイミングや動作を設定する

警告音を鳴らすタイミングや、警告後の動作を設定します(アラーム設定)。

(バッテリー状態)ランプ

ご注意

- バッテリー残量がわずかになると、アラーム設定の内容にかかわりなく、 ランプが赤く点滅し、警告音が鳴ります。すぐにデータを保存して電源を切るか、ACアダプターを接続してください。そのまま使い続けると、パソコンの電源が切れ、保存していないデータは失われてしまいます。

ご参考

- Fn + F10 キーでミュート(消音)に設定しているとき、および音量調節画面で「ミュート」にチェックマークを付けているときは、バッテリー切れの警告音は鳴りません。

1 [スタート]をクリックし、「コントロールパネル」をクリックします。

「コントロールパネル」画面が表示されます。

2 「パフォーマンスとメンテナンス」をクリックします。

3 「電源オプション」をクリックします。

「電源オプションのプロパティ」画面が表示されます。

4 「アラーム」タブをクリックし、各項目のつまみをドラッグします。

「バッテリ低下アラーム」:「バッテリ切れアラーム」より大きい値に設定してください。
「バッテリ切れアラーム」: 5%以上の値に設定してください。

5 それぞれの項目の[アラームの動作]をクリックします。

「バッテリ残量低下のアラームの動作」または「バッテリ切れのアラームの動作」画面が表示されます。

6 「アラーム後のコンピュータの動作」をクリックしてチェックマークを付け、動作内容を設定し、[OK]をクリックします。

7 [OK]をクリックして「電源オプションのプロパティ」画面を閉じます。

8 画面右上の ☒ をクリックして「パフォーマンスとメンテナンス」画面を閉じます。

バッテリーパックを初期化する

バッテリー残量表示と実際の使用時間の差が大きくなったときや、新しいバッテリーパックと交換したときは、以下の手順でバッテリーパックを初期化してください。

1 Fn + F8 (☼)キーを押して画面の明るさを最大にし、いったんパソコンの電源を切ります。

2 AC アダプターを接続して、満充電になるまで充電します。

満充電になると、 ランプが緑色に点灯します。

3 パソコンの電源を入れます。

4 「<F2> to enter System Configuration Utility」と表示されたらすぐに、F2 キーを押します。

セットアップユーティリティ画面が表示されます。

5 AC アダプターを外して、バッテリーの残量が完全になくなって電源が切れるまで放置します。

満充電からバッテリーの残量が完全になくなるまで約 2 時間かかります。

6 AC アダプターを接続して、満充電になるまで充電します。

約 3 時間かかります。

ランプが緑色に点灯して満充電になるまでパソコンの電源は入れないでください。

ご参考

- バッテリーパックは消耗品です。充放電を繰り返すうちにバッテリーが劣化し、使用時間が極端に短くなります(常温で約 300 回が目安です)。バッテリーの劣化は、使用状況や動作環境によって異なります。初期化しても極端に使用時間が短くなったときは、新しいバッテリーパックと交換してください。

バッテリーパックを交換する

バッテリーで長時間使用するときなどは、予備のバッテリーパックを準備して交換することもできます。

新しいバッテリーパックをお求めのときは

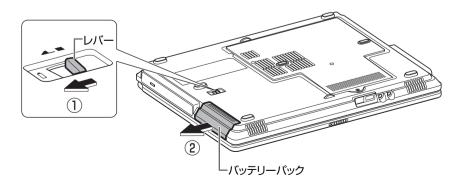
パソコンをお買いあげの販売店または修理相談窓口(☞ サポートのご案内)にお問い合わせください。ただし、販売店によってはお取り扱いがない場合もあります。

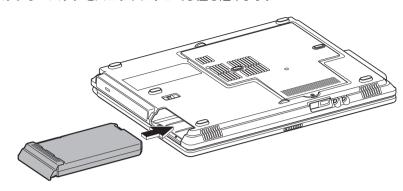
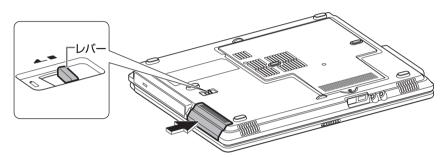
1 パソコンの電源を切り、AC アダプターを外します。

2 ディスプレイを閉じて、パソコンを裏返します。

3 バッテリーパックを取り外します。

① レバーを矢印の方向にスライドします。

② レバーをスライドしたまま、バッテリーパックを引き出します。

新しいバッテリーパックを取り付けます。

① バッテリーパックをスロットにゆっくり差し込みます。

② 「カチッ」と音がし、レバーが完全に元に戻るまで、バッテリーパックを押し込みます。

消費電力を節約する

省電力機能は、コントロールパネルの「パフォーマンスとメンテナンス」の「電源オプション」で設定することができます。
省電力機能は、AC アダプターで使用しているときと、バッテリーで使用しているときのそれぞれについて設定できます。

CPU の速さを調節して消費電力を節約する

このパソコンには、AMD PowerNow! テクノロジが搭載されています。この機能を使うと、CPU（中央演算ユニット）の処理速度を調節して、CPU で消費する電力を節約することができます。

ご注意

- 通信中やデータを読み書きしているときは、次ページの表で CPU の処理速度が「常に最高の処理速度で動作」になる項目に設定してください。

1 **[スタート]をクリックし、「コントロールパネル」をクリックします。**
「コントロールパネル」画面が表示されます。

2 **「パフォーマンスとメンテナンス」をクリックします。**

3 **「電源オプション」をクリックします。**
「電源オプションのプロパティ」画面が表示されます。

4 **「電源設定」欄で、CPU の処理速度を設定します。**
次ページの表を参考にお好みの処理方法に設定してください。通常はご購入時の状態のまま「自宅または会社のデスク」をお使いください。

5 **[OK]をクリックして「電源オプションのプロパティ」画面を閉じます。**

6 画面右上の ☒ をクリックして「パフォーマンスとメンテナンス」画面を閉じます。

「電源設定」欄の設定項目	（上段）AC アダプターで動作時 （下段）バッテリーで動作時
自宅または会社のデスク	常に最高の処理速度で動作 常に最低の処理速度で動作
ポータブル／ラップトップ	CPU 利用状況に応じて処理速度を制御 常に最低の処理速度で動作
プレゼンテーション	CPU 利用状況に応じて処理速度を制御 常に最低の処理速度で動作
常にオン	常に最高の処理速度で動作 常に最低の処理速度で動作
最小の電源管理	CPU 利用状況に応じて処理速度を制御 常に最低の処理速度で動作
バッテリの最大利用	CPU 利用状況に応じて処理速度を制御 常に最低の処理速度で動作

ご参考

- 設定項目は、上記以外の名前に変えて保存することができます。名前を変えたい設定項目を選択し、[名前を付けて保存]をクリックしてください。「電源設定の保存」画面が表示されますので、保存名を入力して[OK]をクリックしてください。
- USB 接続のスピーカーやヘッドホンで音声にノイズが発生するときは、「常に最高の処理速度で動作」になる項目に設定してください。
- バッテリー動作時の CPU の動作周波数は約 800MHz になります。
- 使用しているソフトウェアによっては、そのソフトウェアに応じた「電源設定」の項目が追加されます。

ご注意

- 設定項目は必要に応じて削除することができますが、いったん削除してしまうと再インストール（ご購入時の状態に戻す）以外の方法で復帰できません。誤って削除しないように注意してください。

操作しないときスタンバイまたは休止状態にする

一定時間操作しない状態が続いたとき、スタンバイまたは休止状態にすることができます。

スタンバイ	現在の状態をメモリーに保存し、ほとんどの電源供給を停止します。スタンバイに移行すると、⏻（電源）ランプが緑点滅します。操作を再開すると、元の状態に復帰します。
休止状態	現在の状態をハードディスクに保存し、電源を切ります。休止状態に移行すると、⏻ ランプが消灯します。電源ボタンを押すと、元の状態に復帰します。

ご注意

- スタンバイおよび休止状態へ移行または復帰する際には、誤動作やデータの損失を防ぐため、必ず次の事項を守ってください。
  - ・移行するときは、通信、印刷、および動画や音楽の再生は、いったん終了してください。
  - ・移行または復帰中に、パソコンや周辺機器に触れたり、周辺機器の取り付け／取り外しをしないでください。
  - ・編集中のデータは、スタンバイに移行する前に保存してください。スタンバイは現在のデータを一時記憶するだけです。スタンバイのまま放置してバッテリーが切れると、保存していないデータは消えてしまいます。

ご参考

- 復帰後にようこそ画面が表示されたときは、使用するユーザーアカウントをクリックしてください。

スタンバイまたは休止状態になるまでの時間を設定する

1 [スタート]をクリックし、「コントロールパネル」をクリックします。

「コントロールパネル」画面が表示されます。

2 「パフォーマンスとメンテナンス」をクリックします。

3 「電源オプション」をクリックします。

「電源オプションのプロパティ」画面が表示されます。

4 「システムスタンバイ」と「システム休止状態」欄で、それぞれの状態に移行するまでの時間を設定します。

ご参考

- 一定時間操作しない状態が続いたときに、ディスプレイまたはハードディスクへの電源供給を停止することもできます。上記画面の「モニタの電源を切る」または「ハードディスクの電源を切る」欄でそれぞれの状態に移行するまでの時間を設定してください。

5 [OK]をクリックして「電源オプションのプロパティ」画面を閉じます。

6 画面右上の ☒ をクリックして「パフォーマンスとメンテナンス」画面を閉じます。

今すぐスタンバイまたは休止状態にする

席を外すときなどに、パソコンをスタンバイまたは休止状態にしておくことができます。

「コンピュータの電源を切る」画面でスタンバイまたは休止状態にする

1 [スタート]をクリックし、「終了オプション」をクリックします。

「コンピュータの電源を切る」画面が表示されます。

2 スタンバイにするときは、「スタンバイ」をクリックします。

Shift キーを押すと「スタンバイ」が「休止状態」に変わります。

休止状態にするときは、Shift キーを押しながら「休止状態」をクリックしてください。

特定の操作でスタンバイまたは休止状態にする

「電源オプションのプロパティ」画面で設定すると、次の操作をしたときも、スタンバイまたは休止状態にすることができます。

- ディスプレイを閉じる
- 電源ボタンを押す
- Fn ＋ F12（Ⅱ）キーを押す

1 [スタート]をクリックし、「コントロールパネル」をクリックします。

「コントロールパネル」画面が表示されます。

2 「パフォーマンスとメンテナンス」をクリックします。

3 「電源オプション」をクリックします。

「電源オプションのプロパティ」画面が表示されます。

4 「詳細設定」タブをクリックし、必要な項目を設定します。

「ポータブルコンピュータを閉じたとき」：
ディスプレイを閉じたときの動作を、何もしない／スタンバイ／休止状態から選択します。
「コンピュータの電源ボタンを押したとき」：
電源ボタンを押したときの動作を、何もしない／入力を求める／スタンバイ／休止状態／シャットダウンから選択します。
「コンピュータのスリープボタンを押したとき」：
Fn ＋ F12（Ⅱ）キーを押したときの動作を、何もしない／入力を求める／スタンバイ／休止状態／シャットダウンから選択します。

5 [OK]をクリックして「電源オプションのプロパティ」画面を閉じます。

6 画面右上の ☒ をクリックして「パフォーマンスとメンテナンス」画面を閉じます。

「入力を求める」を選択したときは

- 手順 **4** で「入力を求める」を選択したときは、電源ボタンまたは Fn ＋ F12（Ⅱ）キーを押すと、「コンピュータの電源を切る」画面が表示されます。

音量を調節する

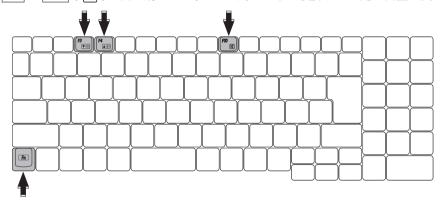
パソコンのスピーカーやヘッドホン出力／オーディオ出力ジャックの音量を調節する方法について説明します。

ご参考

- キーボード操作での音量調節と Windows での音量調節は連動しています。
- Fn + F10 キーでミュート(消音)に設定しているとき、および音量調節画面で「ミュート」にチェックマークを付けているときは、バッテリー切れの警告音は鳴りません。
- 音量を最大にすると、スピーカーの音割れが発生する場合がありますので、音量を調節してください。

キーボード操作で調節する

Fn キーを押しながらファンクションキーの F3 (▼🔉)、F4 (▲🔊)または F10 (🔇)キーを押して、調節します。

Fn ＋ F3 (▼🔉)：音量を下げます。
Fn ＋ F4 (▲🔊)：音量を上げます。
Fn ＋ F10 (🔇)：音を消します(ミュート)。もう一度押すと、元の音量に戻ります。

Windows で調節する

1 タスクバーの 🔊 をクリックします。

音量を調節する画面が表示されます。

タスクバーに 🔊 が表示されていないときは

- タスクバーに表示されるアイコンが多くなると、自動的に隠れることがあります。そのときはタスクバーの ‹ をクリックすると隠れているアイコンが表示されます。

2 音量つまみを上下にドラッグして音量を調節します。

3 音量を調節する画面以外のところをクリックします。

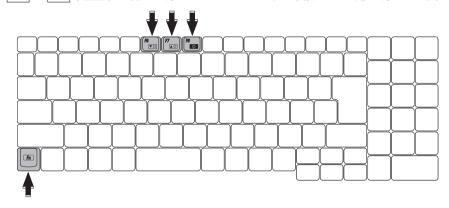
音量を調節する画面が閉じます。

ディスプレイの表示を変える

ディスプレイが明るくて目が疲れると感じたときや、暗くて見づらいと感じたときは、明るさを調整してください。また、ディスプレイの解像度や色数を変えることもできます。
ご購入時は、最大の明るさになっています。

明るさを変える

Fn キーを押しながらファンクションキーの F6（▼☼）、F7（▲☼）または F8（☼）キーを押して、調節します。

Fn ＋ F6（▼☼）：ディスプレイを暗くします。
Fn ＋ F7（▲☼）：ディスプレイを明るくします。
Fn ＋ F8（☼）：最大の明るさにします。もう一度押すと、元の明るさに戻ります。

解像度や色数を変える

パソコンのディスプレイは、解像度や色数を変更することができます。
通常はご購入時の設定のままお使いください。

1 **[スタート]をクリックし、「コントロールパネル」をクリックします。**
「コントロールパネル」画面が表示されます。

2 **「デスクトップの表示とテーマ」をクリックします。**

3 **「画面解像度を変更する」をクリックします。**
「画面のプロパティ」画面が表示されます。

4 解像度を変えるときは､｢画面の解像度｣のつまみをドラッグして動かします。色数を変えるときは､｢画面の色｣の をクリックして、メニューから色数を選びます。

5 [OK]をクリックして｢画面のプロパティ｣画面を閉じます。

変更した項目(色または解像度)の確認メッセージが表示されます。
メッセージに従って操作してください。

6 画面右上の をクリックして｢デスクトップの表示とテーマ｣画面を閉じます。

設定可能な解像度と色数

解像度(ドット)※1	800 × 600、1024 × 768、1280 × 768、1280 × 800
色数※2	65536 色、約 1677 万色

※ 1 接続している外部ディスプレイの表示能力により、外部ディスプレイのみに表示したときの解像度は、最大 2048 × 1536 まで設定できます。

※ 2 ディザリング機能により最大で約 1677 万色を表示できます。

ご参考

- ｢画面の色｣の設定と表示の色数は以下のとおりです。
  中(16 ビット)　：65536 色
  最高(32 ビット)　：約 1677 万色
- 1280 × 800 以上の解像度(最大 2048 × 1536)に設定できますが、ディスプレイには、領域のうち 1280 × 800 ドットが表示されます。隠れている部分を見るには、その部分がある方向の画面の端にマウスポインターを動かすと画面がスクロールして見えるようになります。

CD・DVD を使う

CD や DVD に保存されているデータの読み出し、市販のソフトウェアのインストール、CD や DVD へのデータの書き込みなどができます。

このパソコンには、DVD スーパーマルチドライブ(以下 CD/DVD ドライブと表記します)が搭載されています。

使用可能なディスク

使用できるディスクは以下のとおりです。
ご使用のディスクによっては、読み出し／書き込みできない場合があります。

(－:ディスクの規格により不可)

ディスクの種類	読み出し	書き込み	書き換え
CD-ROM※1 音楽 CD	○	－	－
CD-R	○	○	－
CD-RW High Speed CD-RW Ultra Speed CD-RW	○	○	○
DVD-ROM DVD-VIDEO	○	－	－
DVD-R(1 層)	○※2	○※3	－
DVD-R(2 層)	○※2	○※4	－
DVD-RW	○※2	○※5	○※5
DVD+R(1 層)	○※2	○	－
DVD+R(2 層)	○※2	○※4	－
DVD+RW High Speed DVD+RW	○※2	○	○
DVD-RAM※6	○	○※7	○※7

※1 CD-ROM には、ビデオ CD およびフォト CD を含みます。
※2 市販の DVD 作成ソフトや DVD レコーダーで作成したディスクを使用するときは、作成したソフトまたは機器でファイナライズ処理してください。
※3 DVD-R(1 層)に書き込む場合は、DVD-R for General Ver.2.0 に準拠したディスクをご使用ください。
※4 DVD-R(2 層)に書き込む場合は、DVD-R for DL Ver.3.0 ／ 4×-SPEED DVD-R for DL Revision 1.0 に準拠したディスクをご使用ください。DVD+R(2 層)に書き込む場合は、DVD+R Double Layer 2.4X または 8X に準拠したディスクをご使用ください。書き込んだ DVD+R(2 層)、DVD-R(2 層)ディスクの読み出し(再生)は、対応したドライブを搭載しているパソコンや機器をご使用ください。
※5 DVD-RW に書き込む場合は、DVD-RW Ver.1.1 または Ver.1.2 に準拠したディスクをご使用ください。
※6 カートリッジ式の DVD-RAM は使用できません。DVD-RAM を使用される場合は、カートリッジなしのタイプか、もしくは取り外し可能なカートリッジ(Type2 または Type4)からディスクを取り出してご使用ください。片面 2.6GB および両面 5.2GB の DVD-RAM には、書き込みできません。
※7 DVD-RAM に書き込む場合は、DVD-RAM Ver.2.0、Ver.2.1 または Ver2.2(Rev.2.0)に準拠したディスクをご使用ください。

ご参考

- 8cm のディスクも使用することができます。
- 音楽 CD および DVD ビデオを再生するときは、メビウス活用ガイド の「音楽や映像を楽しむ」を参照してください。
- 書き込んだディスクは、各ディスクの種類に対応したドライブを搭載しているパソコンや機器で読み出し(再生)できます。

動作確認済みディスク（2006 年 8 月現在）

CD や DVD にデータを書き込むときは、下記の動作確認済みディスクを使用してください。動作確認済みディスク以外では、正しく書き込めないことがあります。

- CD-R ：太陽誘電製、三菱化学製、日立マクセル製
- CD-RW、High Speed CD-RW ：三菱化学製、リコー製
- Ultra Speed CD-RW ：三菱化学製
- DVD-R（1 層） ：松下電器産業製、太陽誘電製
- DVD-R（2 層） ：三菱化学製
- DVD-RW ：日本ビクター製、三菱化学製
- DVD+R（1 層） ：三菱化学製、リコー製
- DVD+R（2 層） ：三菱化学製
- DVD+RW、High Speed DVD+RW ：リコー製
- DVD-RAM ：松下電器産業製、日立マクセル製

書き込みタイプのディスクについて

ここでは、市販されている書き込みタイプの CD や DVD について概略を説明します。

CD-R ／ CD-RW について

CD-R は、保存したデータの書き替えができません。（追記のみ可能）
CD-RW は、データの書き替えが可能です。

データの書き替えができないタイプ

約700MB（フロッピーディスク約500枚分）のデータ保存が可能。データのバックアップやオリジナル音楽CDの作成に向いている。

データの書き替えができるタイプ

データの保存容量はCD-Rと同じ。一度書き込んだデータを消去して書き換えることができる（約1000回）。

※ ディスクに空き容量があるときは、データを追加して書き込むこと（追記）ができます。ただし、書き込み時に「ディスクを閉じる」設定をした場合、データの追記はできません。また、音楽 CD を作成したときも、ディスクが閉じられるためデータを追記できません。

DVD-R ／ DVD-RW ／ DVD+R ／ DVD+RW について

DVD-R と DVD+R は、保存したデータの書き替えができません。（追記のみ可能）
DVD-RW と DVD+RW は、データの書き替えが可能です。

データの書き換えができないタイプ ※1、※2

データのバックアップやDVDビデオの作成に向いている。DVD-R（1層）は市販のDVDプレーヤーで再生できるなど、互換性が高い。

データの書き換えができるタイプ ※1、※2、※3

DVD-Rの特性に加え、一度書き込んだデータを消去して書き換えることができる（約1000回）。

※ 1 DVD-R ／ DVD-RW ／ DVD+R ／ DVD+RW へのデータ書き込みには、ファイルの管理領域などにも割り当てられるため、実際に書き込めるデータ容量は、ディスクに記載されている容量よりも少なくなる場合があります。

※ 2 ディスクに空き容量があるときは、データを追加して書き込むこと（追記）ができます。ただし、書き込み時に「ディスクを閉じる」設定をした場合、データの追記はできません。また、Ulead DVD MovieWriter 4 SE（付属ソフト）を使用して DVD ビデオを作成する場合、DVD-R および DVD+R には、データを追記できません。

※ 3 旧機種の DVD プレーヤー、DVD-ROM ドライブで再生できない（互換性がない）場合があります。

DVD-RAM について

DVD-RAM は、データの書き込み、追記、消去ができます。DVD-RAM にはカートリッジ式と非カートリッジ式があります。

非カートリッジ式 ※1	
	片面約4.7GBのデータ保存が可能

カートリッジ式 ※1、※2	
	片面約4.7GBのデータ保存が可能
	片面約4.7GB、両面約9.4GBのデータ保存が可能※3

※1 DVD-RAM へのデータ書き込みには、ファイルの管理領域などにも割り当てられるため、実際に書き込めるデータ容量は、ディスクに記載されている容量よりも少なくなります。

※2 カートリッジ式の DVD-RAM を使用するときは Type2、または Type4（カートリッジから DVD-RAM が取り出せるタイプ）を使用し、カートリッジから DVD-RAM を取り出して、CD/DVD ドライブにセットしてください。

※3 両面を同時に使用できません。ディスクの両面にデータを書き込む場合は、片面の書き込み終了後に DVD-RAM を取り出し、裏返してから再度 CD/DVD ドライブにセットし、データを書き込んでください。

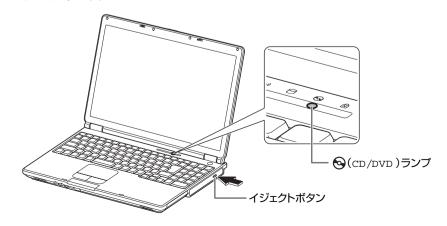
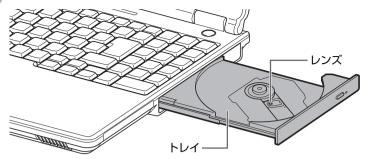
ディスクをセットする／取り出す

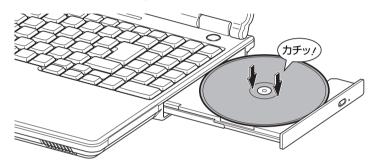
ご注意

- CD/DVD にデータ書き込み中、CD/DVD 再生中は、イジェクトボタンを押さないでください。データの書き込みに失敗したり、再生が途中で停止するなど、誤動作の原因となります。
- レンズに手を触れないでください。レンズが汚れると、故障の原因になります。

ディスクをセットする

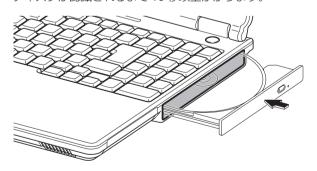
1 **（CD/DVD）ランプが消えていることを確認し、イジェクトボタンを押します。**

トレイが少し出てきます。

2 トレイを、止まるまでゆっくり引き出します。

3 ラベル面(文字が印刷されている面)を上にして、ディスクをトレイに置きます。

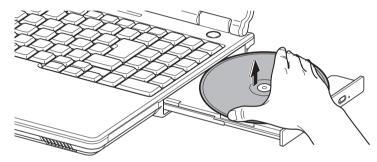
ディスクの中央を「カチッ」と音がするまで押さえてセットします。

ご参考

- 両面が再生できる DVD ビデオなどをセットする場合は、再生面の表記(Side A など)がある面を上にしてセットしてください。

4 「カチッ」と音がするまでトレイを押し込みます。

ディスクが認識されるまで 10 秒以上かかります。

ディスクをセットした後に以下のような画面が表示されたときは、Windows が実行する動作をクリックして選択し、[OK] をクリックします。
表示される画面は、ディスク内のデータによって異なります。

ディスクを取り出す

ディスクをセットするの手順 ***3*** で、ディスクの両端を持って取り出します。

データを書き込む

書き込みタイプの CD や DVD にデータを書き込むときは、以下の付属ソフトを使用します。
詳しくは、メビウス活用ガイド の「**音楽 CD や DVD を作る**」および「**パソコンのデータを管理する**」を参照してください。

CD-R ／ CD-RW にデータを書き込むには

Roxio Easy Media Creator（付属ソフト）を使用します。

 Windows 標準の CD 書き込み機能

- Windows 標準の CD 書き込み機能を使用して、CD-R または CD-RW にデータを書き込みたいときは、次の手順に従って、CD 書き込み機能を有効にしてください。書き込み方法については、Windows のヘルプを参照してください。
  ① [スタート] をクリックし、「マイコンピュータ」をクリックします。
  ② 「DVD-RAM ドライブ」アイコンを右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
  ③ 「書き込み」タブをクリックし、「このドライブで CD 書き込みを有効にする」をクリックしてチェックマークを付けます。
  ④ [OK] をクリックします。
  ⑤ 画面右上の ☒ をクリックして「マイコンピュータ」画面を閉じます。
- CD 書き込み機能を使用しないときは、上記手順③で「このドライブで CD 書き込みを有効にする」のチェックマークを外しておいてください。CD 書き込み機能が有効な場合、DVD-RAM にデータを書き込みできません。

DVD-R ／ DVD-RW ／ DVD+R ／ DVD+RW にデータを書き込むには

Roxio Easy Media Creator（付属ソフト）または Ulead DVD MovieWriter 4 SE（付属ソフト）を使用します。

DVD-RAM にデータを書き込むには

DVD-RAM には、ハードディスクやメモリーカードにデータを保存するのと同じ要領でデータの保存が可能です。また、Ulead DVD MovieWriter 4 SE（付属ソフト）を使うと、DVD-RAM に映像を書き込むことができます。

ご参考

- 新しい DVD-RAM を使用するときは、ディスクをフォーマットしてください。また、Ulead DVD MovieWriter 4 SE を使用してデータを書き込むときは、「ユニバーサルディスクフォーマット(UDF2.0)」でフォーマットしてください。詳しくは、メビウス活用ガイド の「**パソコンのデータを管理する**」−「**DVD-RAM のデータ保存と消去**」を参照してください。

ディスクの取り扱い

ディスクに記録されているデータやプログラム、ドライブを保護するために、次の注意をお守りください。使用禁止のディスクを CD/DVD ドライブに挿入すると、ディスクが取り出せなくなったり、故障の原因になります。

ディスクを持つときは、両端を持つか、縁と中央の穴をはさむようにして持ち、ディスクの表面に手を触れたり、傷を付けないでください。

直射日光の当たるところや暖房器具の近く、ほこりの多いところなどでの使用・保管は避けてください。

CD-R などのラベル面に文字を書くときは、先の硬い筆記用具を使わないでください。傷が付くと、データが読めなくなります。

落としたり、上に重いものを載せたり、曲げたりして、衝撃を与えないでください。

シールやテープなどは貼らないでください。また、はがしたあとがあるものは使わないでください。

特殊形状（ハート形や八角形など）のディスクは使わないでください。

お手入れのしかた

信号面に汚れが付いたときは、ほこりの出ない乾いた柔らかい布で、中央から縁に向けてまっすぐに軽く拭きとってください。矢印と反対の方向に拭いたり、レコード盤のようにまわしながら拭くと傷がつくことがあります。

書き込みタイプのディスクをお使いのときは

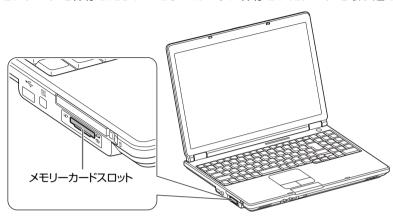
記録面に傷やほこりが付かないように注意してください。
傷やほこりが付くと、データの書き込みが正しくできなくなります。ほこりが付いたときは、カメラ用の清掃用ブロワーを使って吹き飛ばしてください。

ご注意

次のものは使用しないでください。ディスクを傷める恐れがあります。

- アルコール、ベンジン、シンナーなどの化学薬品
- 研磨剤を含むクリーナー
- レコード用のスプレーやクリーナー
- 静電防止剤

メモリーカードを使う

メモリーカードスロットに SD メモリーカード、メモリースティック、xD- ピクチャーカードを差し込むと、データを保存したり、メモリーカードに保存されたデータを取り込むことができます。

このパソコンで使えるメモリーカード

- SD メモリーカード、miniSD カード
- メモリースティック、メモリースティック PRO、メモリースティックデュオ、メモリースティック PRO デュオ
- xD ピクチャーカード(TypeM、TypeH にも対応)

ご注意

- mimiSD カード、メモリースティックデュオおよびメモリースティック PRO デュオを使用するときは、市販の専用アダプターが必要です。アダプターを装着せずにこれらのメモリーカードを差し込むと、カードが取り出せなくなったり、故障の原因になります。

ご参考

- SD メモリーカードおよびメモリースティックの著作権保護機能、高速転送機能には対応していません。
- メモリーカードは、データをやりとりする相手の機器でフォーマットしたものをお使いください。
- SD I/O カード(PHS 通信カードなど)、SDHC メモリーカード、SD スピードクラス Class2 以上には対応していません。

「コンピュータの管理者」のアカウントでログオンしてください

メモリーカードスロットを使用するときは、必ず「コンピュータの管理者」のアカウントでログオンしてください。「制限付きアカウント」でログオンすると、安全にメモリーカードを取り出すことができません。

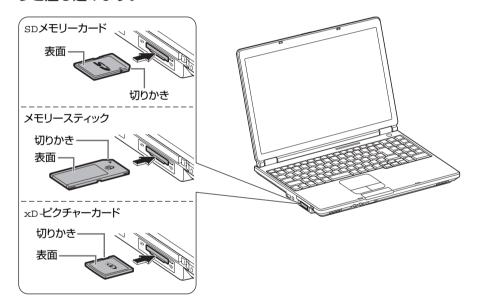
メモリーカードを差し込む

ご参考

- 電源を入れた状態で、メモリーカードを差し込むことができます。
- 同時に複数のメモリーカードを差し込むことはできません。

1 **データを書き込むときは、メモリーカードの書き込み禁止スイッチを解除位置にして、書き込みできる状態にします。**

データを読み取るだけのときは、書き込み禁止スイッチが LOCK 位置にあっても読み取ることができます。書き込み禁止スイッチについては、メモリーカードの説明書を参照してください。

2 **メモリーカードの表面を上にして、メモリーカードスロットに奥までしっかりと差し込みます。**

ご注意

- メモリーカードは、必ずイラストどおりの向きで差し込んでください。間違った向きで無理に差し込むと故障の原因になります。

メモリーカードを差し込んだ後に以下のような画面が表示されたときは、Windows が実行する動作をクリックして選択し、[OK]をクリックします。
表示される画面は、メモリーカード内のデータによって異なります。

メモリーカードの内容を表示したいときは

上記の画面で「フォルダを開いてファイルを表示する」を選択して[OK]をクリックするか、「マイコンピュータ」画面で次のアイコンをダブルクリックします。

SD メモリーカードの場合	メモリースティックの場合	xD- ピクチャーカードの場合
SD 記憶装置デバイス	Memory Stick または Memory Stick PRO	xD ピクチャーカード

※表示される名称は、使用環境によって異なります。

メモリーカード内のデータが画像データの場合

- メモリーカード内のデータが画像データの場合は、下記のように画像が表示されます。
  次の画像を見るときは、 をクリックし、一つ前の画像を見るときは をクリックします。
  スライドショーを見るときは、「画像のタスク」欄の「スライドショーを表示する」をクリックします。

メモリーカードを取り出す

ご注意

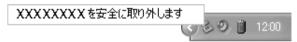
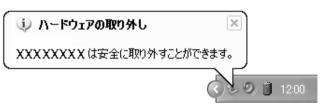
- 必ず下記の手順どおりに操作してメモリーカードを取り出してください。正しく操作して取り出さないと、パソコンが正常に動作しなくなったり、メモリーカードやデータが破損したりすることがあります。

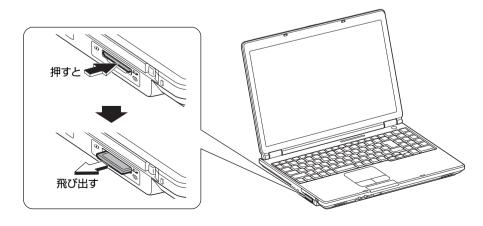
1 タスクバーの をクリックします。

2 表示されるメニューから、「XXXXXXXX －ドライブ(F:)を安全に取り外します」をクリックします。

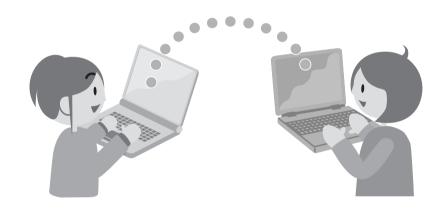
「XXXXXXXX」の箇所には、取り付けられているメモリーカードによって、それぞれ下記のように表示されます。

- SD メモリーカードの場合　：Secure Digital Storage Device
- メモリースティックの場合　：Ricoh Memory Stick Disk Device
- xD- ピクチャーカードの場合：Ricoh xD-Picture Card Disk Device

(F:)の下線部分「F」の箇所は、USB コネクターや IEEE1394 コネクターに周辺機器が接続されているときは、「F」以外の文字が表示されることがあります。

次の画面が表示されます。

3 スロットのくぼみから見えている部分を「カチッ」と音がするまで押し込みます。

メモリーカードが少し出てきます。

4 メモリーカードをゆっくりと取り出します。

通　信　編

通信機能を使ってみよう

このパソコンで作ったデータを、もう一台のパソコンに移したい。ネットワークにつないで活用したい ... この章では、そんなとき必要な通信のしかたについての様々な方法を紹介します。

インターネットに接続する

インターネットに接続するには、さまざまな通信方法があります。このパソコンでは、ADSL や CATV 、FTTH など、ブロードバンド時代の高速インターネットサービスに対応しています。

[入門ガイド～パソコンの基礎] もあわせて参照してください

- 電子マニュアルの [入門ガイド～パソコンの基礎] では、インターネットのしくみ、インターネットへの接続方法、ホームページの見かたや電子メールの送受信の方法など、インターネットに関する基本を詳しく説明しています。[入門ガイド～パソコンの基礎] を起動するには、[スタート] をクリックし、「すべてのプログラム」－「パソコン冊子マニュアル PDF」－「入門ガイド～パソコンの基礎」をクリックします。
- このパソコンにはモデムは内蔵していません。

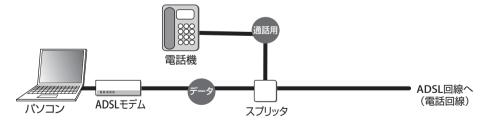
インターネットに接続するには ....

いろいろな通信方法がありますが、ここでは、ADSL、CATV 、FTTH、ISDN 回線について説明します。

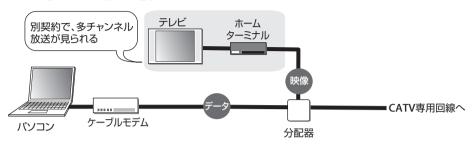
ADSL、CATV、FTTH、ISDN 回線をご利用の場合

- 各機器とパソコンとの接続方法およびインターネット接続の設定方法などについては、各機器の説明書、および、ご利用のプロバイダー、ADSL 接続事業者、CATV 局などから送られてくる説明書を参照してください。
- パソコンの LAN ジャックついては、「**ネットワーク(LAN) に接続する**」(☞68 ページ)を参照してください。
- パソコンの USB コネクターついては、「**USB 機器を使う**」(☞98 ページ)を参照してください。

ADSL

ADSL は、一般電話回線(アナログ)を使って、インターネットに高速で常時接続するサービスです。ADSL を利用するためには、ADSL 接続サービスを提供している会社(ADSL 接続事業者)への申し込みが必要です。

必要な機器：ADSL モデム、スプリッタなど

CATV（ケーブルテレビ）

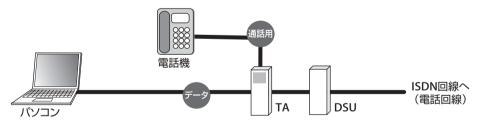
CATV は、電話回線を使用しないで、ケーブルテレビの専用回線を利用してインターネットに接続します。CATV を利用するためには、CATV インターネット接続サービスを提供している CATV 局への申し込みが必要です。

必要な機器：ケーブルモデム、分配器など

FTTH（光ファイバー）

FTTH は、光ファイバーケーブルを各家庭に引き込んでインターネットに接続します。FTTH を利用するためには、FTTH に対応しているプロバイダーへの申し込みが必要です。

必要な機器：回線終端装置など

ISDN 回線

ISDN 回線は、一般電話回線よりもノイズなどの影響を受けにくく安定した通信ができる電話回線です。ISDN 回線を利用するためには、NTT への ISDN 回線の申し込みと、ISDN 回線に対応しているプロバイダーへの申し込みが必要です。

必要な機器：DSU およびターミナルアダプター（TA）など
DSU を内蔵した TA も発売されています。

ネットワークに接続する(LAN)

このパソコンを自宅で 2 台目としてお使いになる場合などパソコン同士でデータをやりとりするときは、ネットワークを利用すると便利です。
使用する環境に応じた方法で接続し、ネットワークの設定をしてください。

パソコンをネットワークに接続する

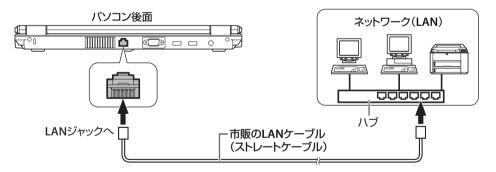
ご注意　LAN ジャックにモデムケーブルを差し込まないでください

- LAN ケーブルとモデムケーブルは、形状が似ているので、よく確かめてから差し込んでください。誤って LAN ジャックにモデムケーブルを差し込むと、故障の原因になります。

LAN ケーブルでハブを経由してネットワークに接続する

市販の LAN ケーブル(ストレートケーブル)を使ってパソコンの LAN ジャックとハブを接続します。
10BASE-T の LAN に接続する場合　：カテゴリー 3 以上のケーブル
100BASE-TX の LAN に接続する場合：カテゴリー 5 以上のケーブル

1 パソコンの電源を切ります。

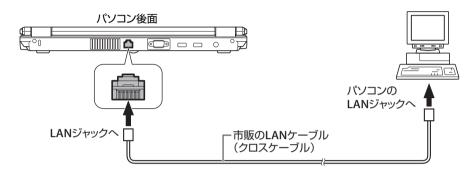
2 パソコンをハブに接続します

3 パソコンの電源を入れます。

LAN ケーブルで 2 台のパソコンを直接接続する

市販の LAN ケーブル(クロスケーブル)を使って、このパソコンの LAN ジャックともう一台のパソコンの LAN ジャックを接続します。

1 **パソコンの電源を切ります。**

接続先のパソコンも電源を切ってください。

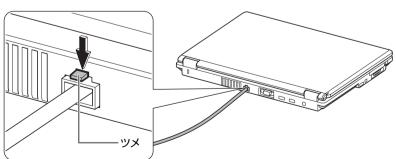
2 **このパソコンともう一台のパソコンを接続します。**

3 **両方のパソコンの電源を入れます。**

LAN ケーブルを取り外す

ご注意

- LAN ケーブルをパソコンから取り出すときは、必ず LAN ケーブルのツメを押しながら取り外してください。無理に引き抜くとツメが折れるので注意してください。

1 **パソコンの電源を切ります。**

2 **LAN ケーブルのコネクターのツメを押しながら、まっすぐに引き抜きます。**

ネットワークを設定する

ネットワークを設定するには、ネットワークの環境によっていろいろな方法があります。ここでは、次の場合を例に説明します。

- インターネットに接続していない 2 台のパソコンを LAN ケーブルで接続する場合
- 接続する先のパソコンの OS は Windows XP、Windows Me、Windows 98
- ネットワークの設定に「ネットワークセットアップウィザード」を使用

ネットワークを設定する前に

「LAN ケーブルで 2 台のパソコンを直接接続する」(☞ 前ページ)を参照してパソコン同士を接続し、それぞれ電源を入れておいてください。

このパソコンのネットワークを設定する

1 **[スタート]をクリックし、「すべてのプログラム」ー「アクセサリ」ー「通信」ー「ネットワークセットアップウィザード」をクリックします。**

ネットワークセットアップウィザード画面が表示されます。

2 **[次へ]をクリックします。**

3 **[次へ]をクリックします。**

「ネットワークハードウェアの接続が切断されていることが検出されました」と表示されたときは

- 「接続」欄に「ローカルエリア接続」が表示されているときは、[キャンセル]をクリックしてネットワークセットアップウィザードをいったん終了した後、接続先のパソコンの電源が入っているか、LAN ケーブルが接続されているか確認して、もう一度手順 ***1*** からやり直してください。
- 「接続」欄に「ワイヤレスネットワーク接続」が表示されているときは、「接続されていないネットワークハードウェアを無視する」をクリックしてチェックマークを付け、[次へ]をクリックしてください。

4 **「その他」をクリックして選択し、[次へ]をクリックします。**

5 **「インターネットに接続していないネットワークに属している」をクリックして選択し、[次へ]をクリックします。**

「このコンピュータの説明と名前を入力してください。」と表示されたときは、手順 ***9*** へ進んでください。

6 **「ネットワークへの接続を選択する」をクリックし、[次へ]をクリックします。**

7 **「ローカルエリア接続」のみにチェックマークが付いている状態にします。**

「ワイヤレスネットワーク接続」や「1394 接続」が表示されているときはクリックしてチェックマークを外してください。

8 **[次へ]をクリックします。**

9 **「コンピュータの説明」欄にコンピュータの説明を、「コンピュータ名」欄にコンピュータの名前を入力し、[次へ]をクリックします。**

「コンピュータ名」は、ネットワーク上でコンピュータを区別するための名前です。このパソコンと接続先のパソコンは、それぞれ違う名前を付けてください。

10 **「ワークグループ名」欄に任意の名前を入力し、[次へ]をクリックします。**

このパソコンと接続先のパソコンのワークグループ名は、同じ名前を付けてください。

11 **「ファイルとプリンタの共有を有効にする」をクリックして選択し、[次へ]をクリックします。**

12 **[次へ]をクリックします。**

ネットワークの設定が始まります。

13 **「ほかのコンピュータでウィザードを実行する必要はない(ウィザード終了)」をクリックして選択し、[次へ]をクリックします。**

14 **[完了]をクリックします。**

確認画面が表示されます。

15 **[はい]をクリックします。**

パソコンが再起動します。

接続先のパソコンのネットワークを設定する

接続先のパソコンが Windows XP の場合

接続先のパソコンも「このパソコンのネットワークを設定する」(☞ 前ページ)の作業をしてください。ただし、手順 ***10*** でワークグループ名を入力して[次へ]をクリックしたあと、「ファイルとプリンタの共有」画面が表示されないときは、手順 ***11*** を省略して手順 ***12*** に進んでください。

接続先のパソコンが Windows Me または Windows 98 の場合

1 **[スタート]をクリックし、「設定」ー「コントロールパネル」をクリックし、「ネットワーク」アイコンをダブルクリックします。**

「ネットワーク」画面が表示されます。

「ネットワーク」アイコンが見つからないときは、「すべてのコントロールパネルのオプションを表示する」をクリックして表示させてください。

2 「現在のネットワークコンポーネント」欄に「Microsoft ネットワーククライアント」が表示されているか確認します。

表示されている場合は、手順 ***4*** に進んでください。

3 「Microsoft ネットワーククライアント」が表示されていない場合、以下の操作をして、「Microsoft ネットワーククライアント」を表示させせます。

① [追加] をクリックします。
「ネットワークコンポーネントの選択」画面が表示されます。
② 「クライアント」をクリックして選択し、[追加] をクリックします。
「ネットワーククライアントの選択」画面が表示されます。
③ 「製造元」欄から「Microsoft」をクリックして選択し、「ネットワーククライアント」欄から「Microsoft ネットワーククライアント」をクリックして選択します。
④ [OK] をクリックします。
「現在のネットワークコンポーネント」欄に「Microsoft ネットワーククライアント」が表示されます。

4 「優先的にログオンするネットワーク」欄の ▼ をクリックし、「Microsoft ネットワーククライアント」をクリックします。

5 [ファイルとプリンタの共有] をクリックします。

「ファイルとプリンタの共有」画面が表示されます。

6 「ファイルを共有できるようにする」をクリックしてチェックマークを付け、[OK]をクリックします。

プリンターも共有したいときは、「プリンタを共有できるようにする」をクリックしてチェックマークを付けてください。

7 「識別情報」タブをクリックします。

8 「コンピュータ名」、「ワークグループ」、「コンピュータの説明」を入力します。

「ワークグループ」は、「このパソコンのネットワークを設定する」の手順 ***10*** (☞71 ページ)で入力したワークグループ名と同じ名前を入力してください。

9 [OK]をクリックします。

確認画面が表示されます。

10 [はい]をクリックします。

パソコンが再起動します。

コンピュータ名やワークグループ名を変更するには

1 [スタート]をクリックし、「マイコンピュータ」をクリックします。

「マイコンピュータ」画面が表示されます。

2 「システムのタスク」欄の「システム情報を表示する」をクリックします。

「システムプロパティ」画面が表示されます。

3 「コンピュータ名」タブをクリックし、[変更]をクリックします。

「コンピュータ名の変更」画面が表示されます。

4 「コンピュータ名」欄にコンピュータ名を、「ワークグループ」欄にワークグループ名をそれぞれ入力し、[OK]をクリックします。

「コンピュータ名の変更」画面が表示されます。

5 [OK]をクリックして「コンピュータ名の変更」画面を閉じます。

確認画面が表示されます。「コンピュータ名」のみを変更した場合は、手順 ***7*** へ進みます。

6 [OK]をクリックします。

7 **[OK]をクリックして「システムのプロパティ」画面を閉じます。**

確認画面が表示されます。

8 **[はい]をクリックします。**

パソコンが再起動します。

このパソコンから他のパソコンのデータを見えるようにする

パソコンのデータを共有設定すると、お互いのパソコンのファイルやフォルダを利用できます。自分で作ったデータを他の人に見せたり、デスクトップパソコンで作った資料を自分のノートパソコンにコピーしたりと、データの持ち運びに便利です。

フォルダを共有する

ここでは、例として「共有」フォルダを共有する方法について説明しますが、同じようにしてドライブも共有できます。

このパソコンおよび接続先のパソコンが Windows XP の場合

1 **共有したいフォルダ(「共有」フォルダ)を右クリックし、「共有とセキュリティ」をクリックします。**

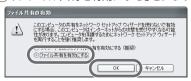
「共有のプロパティ」画面が表示されます。

2 **「ネットワーク上でこのフォルダを共有する」をクリックしてチェックマークを付け、「共有名」を入力します。**

「ネットワーク上でこのフォルダを共有する」が表示されないときは

- ネットワークセットアップウィザードを使用していないときや、Windows XP で初めてファイル共有するときは、次の画面が表示されます。以下の手順に従ってください。

  ①「危険を認識した上で、ウィザードを使わないでファイルを共有する場合はここをクリックしてください。」をクリックします。

  ②「ファイル共有を有効にする」をクリックして選択し、[OK]をクリックします。

  ③「ネットワーク上でこのフォルダを共有する」をクリックしてチェックマークを付け、「共有名」を入力します。

3 「Windows ファイアウォールの設定を表示します。」をクリックします。

画面に「Windows ファイアウォールの設定を表示します。」が表示されていないときは、手順 ***6*** に進みます。

「Windows ファイアウォール」画面が表示されます。

4 「例外」タブをクリックし、「プログラムおよびサービス」欄で「ファイルとプリンタの共有」にチェックマークが付いていることを確認します。

チェックマークが付いていないときは、クリックしてチェックマークを付けてください。

5 [OK]をクリックして、「Windows ファイアウォール」画面を閉じます。

6 [OK]をクリックして、「共有のプロパティ」画面を閉じます。

共有されたフォルダのアイコンに 🤲 が表示されます。

接続先のパソコンが Windows Me または Windows 98 の場合

1 共有したいフォルダ(「私の共有」フォルダ)を右クリックし、「共有」をクリックします。

「私の共有のプロパティ」画面が表示されます。

2 「共有する」をクリックして選択し、「共有名」を入力します。

3 「アクセスの種類」欄でアクセス権の種類をクリックして選択し、必要に応じてパスワードを入力します。

4 [OK]をクリックします。

パスワードを設定したときは、パスワードの確認画面が表示されますので、もう一度同じパスワードを入力し、[OK]をクリックしてください。

共有されたフォルダのアイコンに 🤲 が表示されます。

共有したフォルダを利用する

ここでは、例として他のパソコン(コンピュータ名:Mebius)の「共有」フォルダ内のファイルを、このパソコンのデスクトップ上にコピーする方法を説明します。

1 **[スタート]をクリックし、「コントロールパネル」をクリックします。**
「コントロールパネル」画面が表示されます。

2 **「ネットワークとインターネット接続」をクリックします。**

3 **「関連項目」欄の「マイネットワーク」をクリックします。**
「マイネットワーク」画面が表示されます。

4 **「ネットワークタスク」欄の「ワークグループのコンピュータを表示する」をクリックします。**
同じワークグループに所属するパソコンのアイコンがすべて表示されます。

5 **「Mebius」をダブルクリックします。**
共有した「共有」フォルダが表示されます。

6 **「共有」フォルダをダブルクリックします。**
「共有」フォルダにパスワードが設定されているときは、パスワードを入力してください。
「共有」フォルダ内のファイルが表示されます。

7 **このパソコンのデスクトップ上にファイルをドラッグ & ドロップします。**
ファイルがコピーされます。

8 **画面右上の ☒ をクリックして「共有 -Mebius」画面を閉じます。**

ワイヤレス LAN でネットワークに接続する

ここでは、ワイヤレス LAN を使ってネットワークに接続する方法を説明します。

接続できる機器

このパソコンのワイヤレス LAN 機能は、「IEEE802.11b」および「IEEE802.11g」の両方の規格に準拠しています。IEEE802.11b 準拠のワイヤレス LAN 機器、または IEEE802.11g 準拠のワイヤレス LAN 機器と接続することができます。ただし、機器によっては接続できない場合もあります。IEEE802.11a 規格にのみ準拠しているワイヤレス LAN 機器とは通信できません。

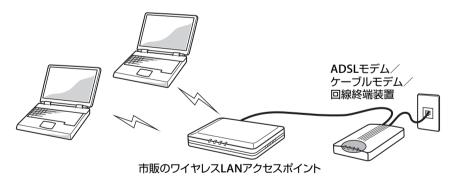
ご参考

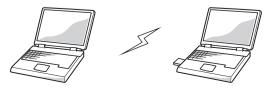
- 接続可能なワイヤレス LAN 機器については、お買いあげの販売店にお問い合わせいただくか、下記のメビウスのホームページを参照してください。動作確認がとれ次第サポート情報の機種別ページにて、順次ご案内します。
  http://support.sharp.co.jp/mebius/

ワイヤレス LAN でできること

このパソコンのワイヤレス LAN で次のことができます。

アクセスポイント経由でネットワークに接続する（インフラストラクチャモード）

市販のワイヤレス LAN アクセスポイント（以下「アクセスポイント」と表記します）を経由してネットワークに接続できます。アクセスポイントが ADSL モデムやケーブルモデムに接続されている場合は、パソコンにケーブルをつなぐことなくインターネットに接続できます。たとえば、1 階のリビングに ADSL モデムやアクセスポイントが設置されていても、2 階の自分の部屋のパソコンでホームページを見たり、メールのチェックをしたりできます。

ワイヤレスでパソコン同士を接続する（アドホックモード）

このパソコンと、ワイヤレス LAN 内蔵またはワイヤレス LAN カードを取り付けているパソコン間で、直接ワイヤレスでデータのやりとりやプリンターの共有ができます。

ワイヤレス LAN のセキュリティ対策

ワイヤレス LAN で通信すると、電波でデータを送受信するため、電波が届く範囲であれば、たとえ屋外からでも、通信相手以外に不正にアクセスされたり通信内容を傍受(盗聴)される可能性があります。以下のようなセキュリティ設定(「通信相手の識別・限定」および「通信の暗号化」)をすることにより、不正アクセスや通信傍受の可能性が少なくなります。ワイヤレス LAN を安心してお使いいただくために、複数のセキュリティを設定することをお勧めします。

ご参考

- ワイヤレス LAN で通信するときは、「**ワイヤレス LAN 製品ご使用時におけるセキュリティに関するご注意**」(☞12 ページ)もあわせてお読みください。

通信相手を識別・限定する

以下のような設定をして通信相手を識別・限定すると、不正アクセスの可能性が少なくなります。

- **SSID の設定をする**
  アクセスポイントと通信機器の両方で任意の同じ「ネットワーク名(SSID)」を設定します。
  SSID は、第三者が簡単に見ることができるので使用者を特定できる名前ではなく、できるだけ意味を持たない名前を設定することをお勧めします。ただし、SSID を設定しただけでは、接続を制限することはできませんので、WEP や WPA などとの併用をお勧めします。
  また、アクセスポイントによっては、SSID を通知しないように設定したり、ANY 接続を禁止できる機能を備えているものもあります。詳しくは、アクセスポイントの説明書を参照してください。
- **MAC アドレスフィルタリングを設定する**
  アクセスポイントに MAC アドレス(ネットワークカード固有の番号)を登録しておくと、登録した機器以外はアクセスポイントに接続できなくなります。詳しくは、アクセスポイントの説明書を参照してください。

このパソコンの MAC アドレスを確認するには

- 次の手順に従って、「Ethernet adapter ワイヤレスネットワーク接続」の「Physical Address」を確認してください。
  ① [スタート]をクリックし、「すべてのプログラム」−「アクセサリ」−「コマンドプロンプト」をクリックします。
  ② **ipconfig /all** と入力し、[⏎] キーを押します。
  IP に関する情報が表示されます。
  ③「Ethernet adapter ワイヤレスネットワーク接続」の下にある「Physical Address」の行に表示されている番号を確認します。
  ④ **exit** と入力し、[⏎] キーを押します。

- **WPA を利用する**
  このパソコンは、Wi-Fi Alliance が新たに策定した新しいセキュリティ規格 WPA (Wi-Fi Protected Access)に対応しています。
  WPA を利用するためには、WPA 対応のアクセスポイントが必要です。また、WPA のユーザー認証機能を使用するためには、ユーザー認証サーバーが必要となります。詳しくは、ネットワーク管理者にお問い合わせください。

ご参考

- その他のセキュリティ設定について詳しくは、アクセスポイントの説明書を参照してください。

通信を暗号化する

このパソコンのワイヤレス LAN は、従来の暗号化方式「WEP」に加え、新しい暗号化方式「TKIP」および「AES」に対応しています。WEP、TKIP または AES を設定すると、データを暗号化して送受信するため、通信内容が解読されにくくなります。

ご参考

- WEP を使用するには、通信相手の機器も WEP に対応している必要があります。
- TKIP を使用するには、TKIP に対応しているアクセスポイントが、AES を使用するには、AES に対応しているアクセスポイントが必要です。

WEP（Wired Equivalent Privacy）

WEP は、指定した任意の文字列（暗号化キー）を通信する双方の機器に登録して、暗号化キーが一致した場合にのみ解読できるようにデータを暗号化する機能です。

ご参考

- このパソコンは、128bit と 64bit の WEP に対応しています。
- 設定した暗号化キーは定期的に変更することをお勧めします。

TKIP（Temporal Key Integrity Protocol)

WPA 対応のアクセスポイントに接続するときは、WEP の弱点を補強しセキュリティ強度を向上させた TKIP という暗号化方式を利用することができます。
TKIP では、暗号化キーを一定時間ごとに自動的に更新するなどの改善がなされています。

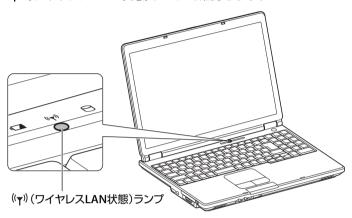
AES（Advanced Encryption Standard）

AES とは、米国政府内での情報処理用に採用された「次世代標準暗号化方式」のことです。AES は TKIP よりも暗号の解読が難しいと言われています。AES 対応のアクセスポイントに接続するときに利用できます。

ワイヤレス LAN を使えるようにする

ワイヤレスで通信するためには、ワイヤレス LAN のアンテナを有効にする必要があります。

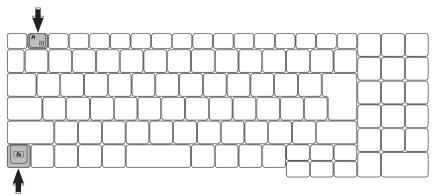
アンテナが有効か確認する

(ワイヤレス LAN 状態)ランプで確認します。

点灯	アンテナが有効
消灯	アンテナは無効

ご注意

- 医療用電気機器の近くや航空機内などでは、ワイヤレス LAN のアンテナを無効にしてください。電波により各機器の動作に影響を与え、事故の原因となることがあります。(☞4 ページ)

ランプが点灯していないときは

Fn キーを押しながら、ファンクションキーの F1 ( ) キーを押します。

ランプが点灯してワイヤレス LAN のアンテナが有効になります。
もう一度 Fn キーを押しながら、ファンクションキーの F1 ( ) キーを押すと、ランプが消灯して、ワイヤレス LAN のアンテナが無効になります。

アクセスポイントを経由してネットワークに接続する

ワイヤレス LAN アクセスポイントを経由してデータをやりとりしたり、インターネットに接続したりするための設定について説明します。

ネットワークの接続設定をする
⇩
ネットワークに接続する

ネットワークの接続設定をする

ここでは、IP アドレスや DNS サーバーのアドレスなどをアクセスポイントより自動取得する場合の設定方法について説明します。ご購入時の設定のままであれば、特に設定の必要はありません。次の「ネットワークに接続する」(☞83 ページ)へ進んでください。

TCP/IP の設定が必要な場合は

- 接続するアクセスポイントによって、IP アドレス、DNS サーバーのアドレス、ゲートウェイアドレスなどの TCP/IP の設定が必要な場合があります。詳しくは、お使いのアクセスポイントの説明書を参照してください。またネットワーク管理者がいる場合は、設定方法についてはネットワーク管理者に確認してください。

1 **タスクバーの 、 または （ワイヤレスネットワーク接続）を右クリックし、「利用できるワイヤレスネットワークの表示」をクリックします。**

「ワイヤレスネットワーク接続」画面が表示されます。

2 **「関連したタスク」欄の「詳細設定の変更」をクリックします。**

「ワイヤレスネットワーク接続のプロパティ」画面が表示されます。

3 「インターネットプロトコル(TCP/IP)」をクリックして選択し、[プロパティ]をクリックします。

4 「IP アドレスを自動的に取得する」と「DNS サーバーのアドレスを自動的に取得する」が選択されていることを確認します。

選択されていないときは、クリックして選択してください。

ご参考

- 「IP アドレス」、「サブネットマスク」、「デフォルトゲートウェイ」、「DNS サーバー」が、すでに設定されている場合は、この操作をすると設定内容が削除されます。必要な設定情報があるときは、必ず控えておいてください。

5 [詳細設定]をクリックします。

「TCP/IP 詳細設定」画面が表示されます。

6 「デフォルトゲートウェイ」が空欄になっていることを確認します。

ゲートウェイが設定されているときは、アドレスをクリックして選択し、[削除]をクリックします。

7 **[OK]をクリックして「TCP/IP 詳細設定」画面を閉じます。**

8 **[OK]をクリックして「インターネットプロトコル(TCP/IP)のプロパティ」画面を閉じます。**

9 **[閉じる]をクリックして「ワイヤレスネットワーク接続のプロパティ」画面を閉じます。**

ネットワークに接続する

ここでは、WEP を使用しているアクセスポイント、または WPA-PSK の TKIP や AES を使用しているアクセスポイントに接続する場合について説明します。WPA のユーザー認証機能を使用しているアクセスポイントに接続する場合は、ネットワーク管理者にお問い合わせください。

ご参考

- WPA-PSK（Pre-shared Key)は、指定した任意の文字列が通信する双方の機器で一致した場合、通信を開始するモードです。

ネットワークに接続する前に

あらかじめアクセスポイントを使えるように設定し、アクセスポイントの電源が入っていて動作している状態でネットワークに接続してください。アクセスポイントの設定については、お使いのアクセスポイントに付属の説明書を参照してください。

1 **ランプが点灯していることを確認します。(☞80 ページ)**

2 **タスクバーの（ワイヤレスネットワーク接続）を右クリックし、「利用できるワイヤレスネットワークの表示」をクリックします。**

「ワイヤレスネットワーク接続」画面が表示されます。

3 **「ワイヤレスネットワークの選択」欄から接続するネットワークを選択し、[接続]をクリックします。**

4 **「ネットワークキー」欄と「ネットワークキーの確認入力」欄に、接続するアクセスポイントにあわせてキーを入力し、[接続]をクリックします。**

ネットワークへの接続が成功すると、「ワイヤレスネットワークの選択」画面には、接続したネットワーク名の右側に「接続」と表示され、タスクバーの が に変わります。

ネットワークキーが正しく入力されなかったときや、WEP のキーのインデックスを変更する必要があるときは、「ワイヤレスネットワークの選択」画面には、接続したネットワーク名の右側に「接続状態:限定または接続なし」と表示され、タスクバーには が表示されます。「**セキュリティの設定を変更する**」(☞91 ページ)を参照してネットワークキーを入力し直し、必要に応じてキーのインデックスを変更してください。

ご注意　セキュリティは必ず設定してください

- セキュリティで保護されていないネットワークを選択すると「ネットワークで保護されていないネットワーク" xxxxxxxx" に接続しようとしています。」というメッセージが表示されます。[接続] をクリックすると、ネットワークに接続できますが、ほかのユーザーにデータを盗まれたりする可能性があります。

接続するアクセスポイントを変更したいときは

- いったん現在の接続を切断してから、あらためて手順 ***3*** と ***4*** を繰り返してネットワーク名を選択し直してください。
  切断方法は、「ワイヤレスネットワーク接続」画面で、「接続」と表示されているネットワーク名を選択し、[切断] をクリックします。

ネットワークキーについて

ネットワークキーに使用可能な文字種および文字数は、以下のとおりです。

- WEP を使用しているアクセスポイントに接続する場合
  ASCII 文字　：5 文字または 13 文字
  16 進数　　：10 桁または 26 桁
- WPA-PSK の TKIP または AES を使用しているアクセスポイントに接続する場合
  ASCII 文字　：8 文字〜 63 文字
  16 進数　　：64 桁

※ ASCII 文字 :0 〜 9、a 〜 z、A 〜 Z の英数字(大文字と小文字は別の文字として区別されます。)
　16 進数　 :0 〜 9、a 〜 f、A 〜 F の英数字(大文字と小文字は同一文字として認識されます。)

ワイヤレス LAN の接続状態を確認する

タスクバーのアイコンでワイヤレス LAN の接続状態が分かります。

タスクバーのアイコン	接続状態
	接続していません。
	接続を確立中です。
	接続しています。
	接続に失敗しました。(エラー発生)

接続速度や電波の強さを表示するには

- タスクバーの (ワイヤレスネットワーク接続) をクリックします。
  「ワイヤレスネットワークの接続の状態」画面が表示されます。

- 電波(シグナルの強さ)が弱い場合は、パソコンを移動したり、アクセスポイントの設置場所を変えて、電波がより良い状態にしてください。

インターネットに接続する

ここでは、インターネットに接続しているアクセスポイントを経由してインターネットに接続する一般的な方法について説明します。あらかじめアクセスポイントの説明書を参照し、インターネットに接続できるようアクセスポイントを設定してから、次の操作をしてください。

プロキシサーバーや自動構成を使用する場合は

- 接続するネットワークによっては、プロキシサーバーの設定や、自動構成に関する設定が必要な場合があります。その場合は、ネットワーク管理者に確認してください。

1 [スタート]をクリックし、「コントロールパネル」をクリックします。

「コントロールパネル」画面が表示されます。

2 「ネットワークとインターネット接続」をクリックします。

3 「インターネットオプション」をクリックします。

「インターネットのプロパティ」画面が表示されます。

4 「接続」タブをクリックし、「ダイヤルしない」をクリックして選択します。

「ダイヤルしない」がグレーで表示されているときは、手順 ***5*** に進みます。

5 [LAN の設定]をクリックします。

6 すべての項目のチェックマークを外し、[OK]をクリックします。

7 [OK]をクリックして「インターネットのプロパティ」画面を閉じます。

8 画面右上の ☒ をクリックして、「ネットワークとインターネット接続」画面を閉じます。

9 [スタート]をクリックし、「インターネット」をクリックします。

Internet Explorer が起動してホームページが表示されます。

ワイヤレス LAN を使ってパソコン間でデータをやりとりする

アクセスポイントを経由しないで、ワイヤレス LAN 内蔵のパソコンやワイヤレス LAN カードを取り付けたパソコンと、直接データをやり取りするための設定について説明します。(アドホックモード)

ワイヤレスでパソコン同士を接続できるようにする

パソコン同士でワイヤレス LAN 機能を使って通信するときは、それぞれのパソコンを次のように設定しておく必要があります。

- IP アドレスとサブネットマスクを設定する
- アクセスするネットワークを「コンピュータ相互(ad hoc)のネットワークのみ」に設定する
- ネットワーク名(SSID)を同じ名前にする
- 暗号化キー (WEP)を設定する

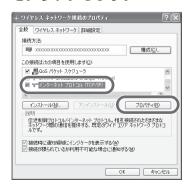
ご参考

- 暗号化方式の TKIP および AES は、パソコン間のワイヤレス通信(アドホックモード)では利用できません。

1 タスクバーの 、 または (ワイヤレスネットワーク接続)を右クリックし、「利用できるワイヤレスネットワークの表示」をクリックします。

「ワイヤレスネットワーク接続」画面が表示されます。

2 「関連したタスク」欄の「詳細設定の変更」をクリックします。

3 「インターネットプロトコル(TCP/IP)」をクリックして選択し、[プロパティ]をクリックします。

4 「次の IP アドレスを使う」をクリックして選択し、IP アドレスとサブネットマスクを入力します。

ここでは、例として次のように入力します。

IP アドレス

ここでは、192.168.1.2 から 192.168.1.254 の間で通信相手と同じ番号にならないように設定します。

サブネットマスク

ここでは、255.255.255.0 を入力します。通信相手も同じ番号にしてください。

デフォルトゲートウェイ

ここでは何も入力しません。通信相手も何も入力しません。

5 [OK]をクリックして「インターネットプロトコル(TCP/IP)のプロパティ」画面を閉じます。

6 「ワイヤレスネットワーク」タブをクリックし、[詳細設定]をクリックします。

7 「コンピュータ相互(ad hoc)のネットワークのみ」をクリックして選択し、[閉じる]をクリックします。

8 ［追加］をクリックします。

9 「ネットワーク名（SSID）」欄にネットワーク名を入力します。

「ネットワーク名」は通信相手も同じ名前にしてください。

10 「ネットワーク認証」欄で「オープンシステム」が、「データの暗号化」欄で「WEP」が選択されていることを確認します。

11 「キーは自動的に提供される」をクリックしてチェックマークを外し、「ネットワークキー」欄と「ネットワークキーの確認入力」欄へ、接続する通信相手と同じ暗号化キー（WEP）を入力します。

使用可能な文字種および文字数：ASCII 文字................5 文字または 13 文字
：16 進数......................10 桁または 26 桁

※ ASCII 文字：0 ～ 9、a ～ z、A ～ Z の英数字（大文字と小文字は別の文字として区別されます。）
16 進数　：0 ～ 9、a ～ f、A ～ F の英数字（大文字と小文字は同一文字として認識されます。）

「キーのインデックス」について

- このパソコンは、1 ～ 4 までの間でキーのインデックスを設定します。
キーのインデックスは通信相手と同じ値に設定しますが、通信相手によっては、設定できる範囲が 0 ～ 3 の場合があります。「**キーのインデックス対応表**」（☞92 ページ）を参照して、このパソコンのキーのインデックスを設定してください。

12 [OK]をクリックします。

13 [閉じる]または[OK]をクリックして「ワイヤレスネットワーク接続のプロパティ」画面を閉じます。

アクセスポイントと通信できるように戻すには

- 次のように設定すると、アクセスポイントと通信できるようになります。
・「**アクセスポイントを経由してネットワークに接続する**」（☞81 ページ）
・「詳細設定」画面（☞88 ページの手順 7）で「利用可能なネットワーク（アクセスポイント優先）」をクリックして選択する。

コンピュータ名とワークグループ名を設定する

データをやりとりするためには、「ワークグループ名」と「コンピュータ名」を設定する必要があります。

- コンピュータ名　：ネットワーク上でコンピュータを区別するための名前です。通信相手と違う名前を付けてください。
- ワークグループ名：通信相手と同じ名前を付けてください。

設定方法については、「**コンピュータ名やワークグループ名を変更するには**」（☞73 ページ）を参照してください。

フォルダを共有する

このパソコンのフォルダを共有設定する方法については、「このパソコンから他のパソコンのデータを見えるようにする」(☞74 ページ)を参照してください。

セキュリティの設定を変更する

ワイヤレスネットワークのセキュリティ設定を変更したいときは、以下の手順に従ってください。ここでは、WEP使用時またはWPA-PSKのTKIP／AES使用時の変更方法について説明します。WPA のユーザー認証機能を利用している場合は、ネットワーク管理者にお問い合わせください。

1 **タスクバーの 、 または （ワイヤレスネットワーク接続）を右クリックし、「利用できるワイヤレスネットワークの表示」をクリックします。**

「ワイヤレスネットワーク接続」画面が表示されます。

2 **「関連したタスク」欄の「優先ネットワークの順位の変更」をクリックします。**

「ワイヤレスネットワーク接続のプロパティ」画面が表示されます。

3 **「優先ネットワーク」欄の中から設定を変更したいネットワーク名を選択し、[プロパティ]をクリックします。**

ネットワークキーを設定(変更)します。

WEP を使用する場合

① 「ネットワーク認証」欄で「オープンシステム」を選択し、「データの暗号化」欄で「WEP」を選択します。
お使いのアクセスポイントによっては、「ネットワーク認証」欄を「共有キー」に設定する場合があります。詳しくは、アクセスポイントの説明書を参照してください。

② 「キーは自動的に提供される」をクリックしてチェックマークを外し、「ネットワークキー」欄と「ネットワークキーの確認入力」欄へ、接続する通信相手と同じ暗号化キー(WEP)を入力します。

使用可能な文字種および文字数 : ASCII 文字..................5 文字または 13 文字
: 16 進数........................10 桁または 26 桁

※ ASCII 文字 :0 ～ 9、a ～ z、A ～ Z の英数字(大文字と小文字は別の文字として区別されます。)
16 進数 :0 ～ 9、a ～ f、A ～ F の英数字(大文字と小文字は同一文字として認識されます。)

③ 必要に応じてキーのインデックスを変更します。
このパソコンは、1 ～ 4 までの間でキーのインデックスを設定します。接続するネットワークまたは通信相手によっては、キーのインデックスを 0 ～ 3 までの間で設定する場合があります。次の「**キーのインデックス対応表**」を参照して設定してください。

キーのインデックス対応表

接続するネットワークまたは通信相手		このパソコン
0 ～ 3 の間で設定する場合	**1 ～ 4 の間で設定する場合**	
0	1	1
1	2	2
2	3	3
3	4	4

たとえば、0 ～ 3 までの間でキーのインデックスを設定するアクセスポイントの場合、アクセスポイントのキーのインデックスを「0」(使用する暗号キーを「キー 0」)に設定しているときは、このパソコンは「1」に設定します。接続するネットワークのキーのインデックスがわからない場合は、ネットワーク管理者に確認してください。

WPA-PSK の TKIP または AES を使用する場合

① 「ネットワーク認証」欄で「WPA-PSK」を選択し、「データの暗号化」欄で「TKIP」または「AES」を選択します。

② 「ネットワークキー」欄と 「ネットワークキーの確認入力」欄へ、接続するアクセスポイントと同じキー（WPA-PSK）を入力します。

使用可能な文字種および文字数 ：.ASCII 文字................8 文字～ 63 文字

：.16 進数......................64 桁

※ ASCII 文字：0 ～ 9、a ～ z、A ～ Z の英数字（大文字と小文字は別の文字として区別されます。）
16 進数　：0 ～ 9、a ～ f、A ～ F の英数字（大文字と小文字は同一文字として認識されます。）

5 **[OK]をクリックします。**

6 **[OK]をクリックして「ワイヤレスネットワーク接続のプロパティ」画面を閉じます。**

周辺機器編

周辺機器を接続しよう

プリンターや外部ディスプレイなどの周辺機器を接続すると、パソコンの用途が拡がります。PC カードを差し込んで新しい機能を追加することもできます。

接続できる機器を確かめる

プリンターやマウスなど周辺機器を購入するときは、コネクターの形状が合っているか、自分のパソコンに対応しているのか、などを確かめましょう。

使える周辺機器を確かめる

Windows XP に対応している周辺機器を選びましょう

周辺機器のカタログやパッケージで、Windows XP に対応しているか確認してください。

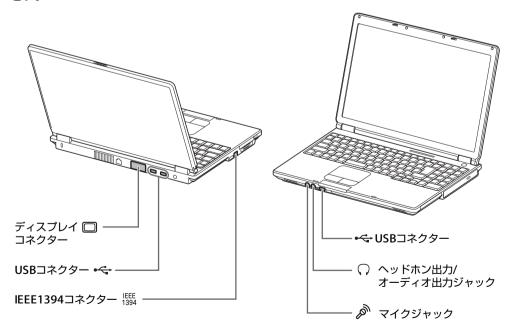
専用のデバイスドライバーをインストールするものがあります

デバイスドライバーは、周辺機器を認識するためのソフトウェアです。デバイスドライバーのフロッピーディスクや CD-ROM が付属されている場合は、説明書に従ってパソコンにインストールしましょう。フロッピーディスクを使用する場合、別売の USB 接続 FD ドライブユニット（CE-FD05）が必要です。

ご参考

- 接続可能な周辺機器については、お買いあげの販売店にお問い合わせいただくか、下記のメビウスのホームページを参照してください。動作確認がとれ次第サポート情報の機種別ページにて、順次ご案内します。
  http://support.sharp.co.jp/mebius/

コネクターの形状を確かめる

このパソコンには次のようなコネクターがあります。コネクターの名前や形状を確認してください。

USB コネクター（A タイプ）

USB 規格対応の機器を接続します。接続できる機器には、「USB 対応」などの表示があります。USB 対応機器には、マウス、キーボード、プリンター、ハードディスク、スピーカーなどがあります。

コネクターの形状

IEEE 1394

IEEE1394 コネクター（DV コネクター）（4 ピン）

IEEE1394 規格対応の機器を接続します。接続できる機器には、「IEEE1394 対応」などの表示があります。IEEE1394 対応機器には、デジタルビデオカメラ、ハードディスク、CD/DVD ドライブなどがあります。

コネクターの形状

ディスプレイコネクター

パソコン用の CRT ディスプレイや液晶ディスプレイを接続します。

コネクターの形状

ヘッドホン出力／オーディオ出力ジャック

ライン入力端子（LINE IN）付きのオーディオ機器、アンプ付きスピーカー、ヘッドホンなどを接続します。

コネクターの形状

マイクジャック

外部マイクを接続します。

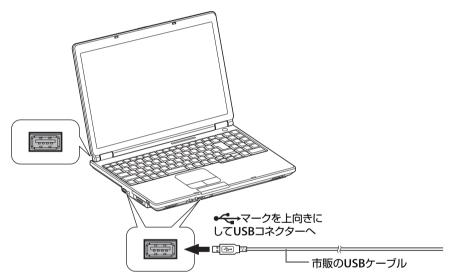
コネクターの形状

USB 機器を使う

USB 機器を接続するには、次の準備が必要です。
作業内容や手順などは、USB 機器の説明書もあわせて参照してください。

- Windows XP に対応している USB 機器を用意する。
- パソコンに USB 機器を接続する。
- デバイスドライバーが必要な場合、デバイスドライバーをパソコンにインストールする。

USB 機器を接続する

USB 機器に付属または市販の USB ケーブルで USB 機器とパソコンを接続します。
USB コネクターはパソコンの 左側面に 1 つと、前面に 1 つと、後面に 2 つあります。いずれのコネクターに接続してもかまいません。接続するときは、USB ケーブルの マークを上向きにしてください。

ご参考

- パソコンの電源を入れた状態で、USB 機器を接続することができます。
- 接続した USB 機器によっては、接続した後に対応するデバイスドライバーが自動的にインストールされます。インストールされない場合は、画面が表示されますので、画面の指示に従ってデバイスドライバーをインストールしてください。

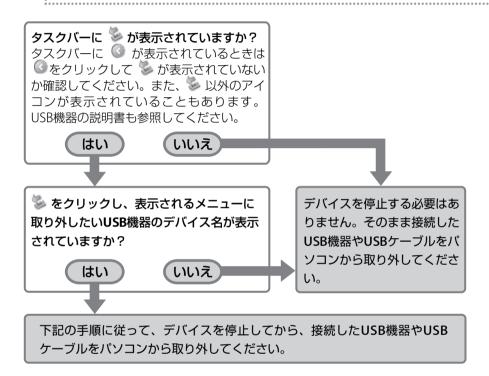
USB2.0 について

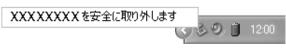
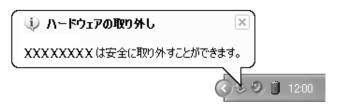
このパソコンは、USB1.1 および USB2.0 に対応しています。USB2.0 は、USB1.1 よりも速いスピードでデータを転送することができます。USB2.0 の転送速度を利用するには、USB2.0 に対応している周辺機器および USB ケーブルを接続してください。ただし、USB1.1 規格のハブを経由して USB2.0 の周辺機器を接続した場合は、USB1.1 の転送速度に制限されます。

USB 機器を取り外す

ハードディスクやフロッピーディスクドライブなど、データを格納する周辺機器(記憶装置)は、取り外す前にデバイスを停止する必要があります。接続している USB 機器は、デバイスを停止する必要があるかどうか、取り外す前に必ず確認してください。

ご参考

- 取り外し手順は接続する周辺機器により異なる場合があります。周辺機器の説明書もあわせて参照してください。

1 タスクバーの をクリックします。

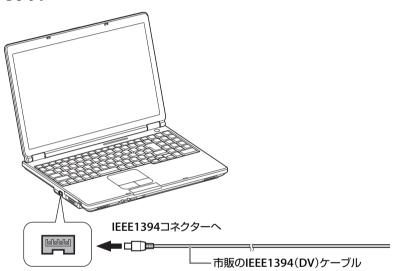
2 表示されるメニューから、取り外したい USB 機器のデバイス名をクリックします。

次の画面が表示されます。

3 パソコンから USB 機器や USB ケーブルを取り外します。

IEEE1394 機器を使う

IEEE1394 機器を接続するには、次の準備が必要です。
作業内容や手順などは、IEEE1394 機器の説明書もあわせて参照してください。

- Windows XP に対応している IEEE1394 機器を用意する。
- パソコンに IEEE1394 機器を接続する。
- デバイスドライバーが必要な場合、デバイスドライバーをパソコンにインストールする。

IEEE1394 機器を接続する

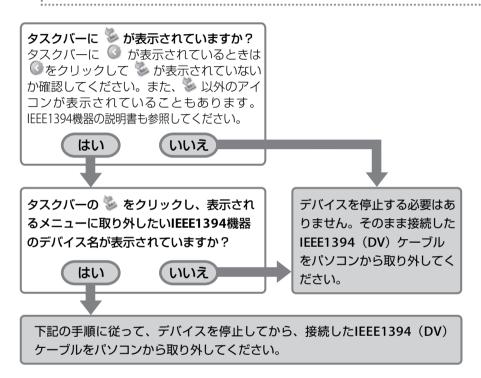
IEEE1394 機器に付属または市販の IEEE1394（DV）ケーブルで IEEE1394 機器とパソコンを接続します。

ご参考

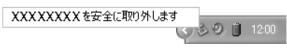
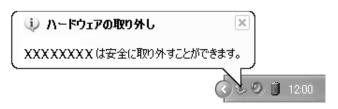
- パソコンの電源を入れた状態で、IEEE1394 機器を接続することができます。
- 接続した IEEE1394 機器によっては、接続した後に対応するデバイスドライバーが自動的にインストールされます。インストールされない場合は、画面が表示されますので、画面の指示に従ってデバイスドライバーをインストールしてください。
- スタンバイまたは休止状態から復帰した後、接続している IEEE1394 機器が認識できない場合があります。この場合、いったん IEEE1394 機器ケーブルを外して、再度接続してください。

IEEE1394 機器を取り外す

ハードディスクなど、データを格納する周辺機器(記憶装置)は、取り外す前にデバイスを停止する必要があります。接続している IEEE1394 機器は、デバイスを停止する必要があるかどうか、取り外す前に必ず確認してください。

ご参考

- 取り外し手順は接続する周辺機器により異なる場合があります。周辺機器の説明書もあわせて参照してください。

1 タスクバーの をクリックします。

2 表示されるメニューから、取り外したい IEEE1394 機器のデバイス名をクリックします。

次の画面が表示されます。

3 パソコンから IEEE1394 機器や IEEE1394（DV)ケーブルを取り外します。

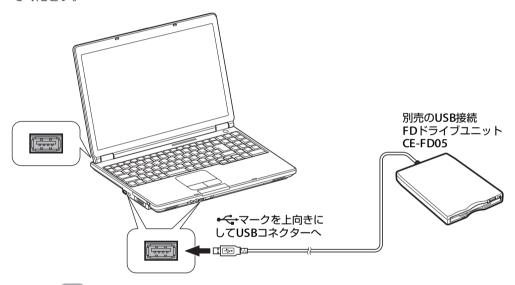
フロッピーディスクを使う

別売の USB 接続 FD ドライブユニット（CE-FD05）を使うと、文書データなど比較的小さいデータをフロッピーディスク（FD）に保存できます。

フロッピーディスクドライブを接続する

フロッピーディスクドライブは以下のものをお買い求めください。

USB 接続 FD ドライブユニット　CE-FD05

パソコンの電源を入れたまま接続できます。
USB コネクターはパソコンの左側面に 1 つと、前面に 1 つと、後面に 2 つあります。いずれのコネクターに接続してもかまいません。接続するときは、ケーブルの マークを上向きにしてください。

ご参考

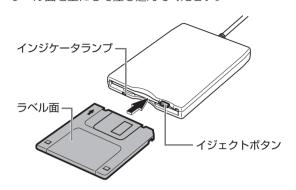
- このパソコンには、USB 接続 FD ドライブユニット（CE-FD05）用ドライバーがあらかじめ保存されています。初めて USB 接続 FD ドライブユニット（CE-FD05）を接続したとき、ドライバーが自動的にインストールされますので、そのままご使用になれます。

フロッピーディスクドライブを取り外す

取り外す前にデバイスを停止する必要があります。「**USB 機器を取り外す**」（☞99 ページ）を参照して、デバイスを停止してから USB 接続ケーブルを取り外してください。

フロッピーディスクに保存する

1 **フロッピーディスクドライブに、フロッピーディスクを入れます。**

ラベル面を上にして差し込んでください。

正しく差し込まれると、イジェクトボタンが少し飛び出します。
斜めに入れたり、上下を逆にしたりして、無理に押し込まないでください。

2 **使用しているソフトウェアで、「保存する場所」を「3.5 インチ FD（A:)」に指定して、作成したデータを保存します。**

3 **インジケータランプが消えていることを確認し、イジェクトボタンを押します。**

フロッピーディスクの端が少し出てきて、取り出すことができます。

ご注意　**インジケータランプ点灯中はフロッピーディスクを取り出さないでください**

- インジケータランプ点灯中はディスクへの書き込みが実行されています。途中でフロッピーディスクを抜くと、データが失われたり、破損したりすることがあります。

フロッピーディスクの取り扱い

フロッピーディスクに記憶されているデータを保護するため、次のような点にご注意ください。

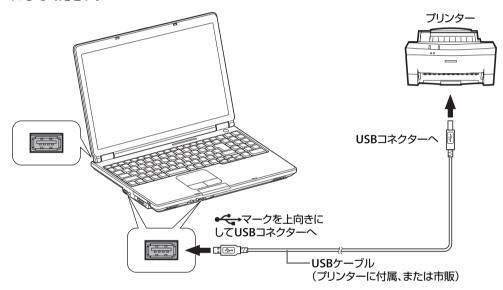
- シャッターを開けて直接シート(記録面)に触れないでください。
- 落としたり、上に重いものを載せたり、曲げたりして、衝撃を与えないでください。
- 液体をこぼさないでください。
- 磁気を発生させるもの(磁石、スピーカーなど)の近く、直射日光の当たるところや暖房器具の近く、ほこりの多いところなどでの使用・保管は避けてください。

プリンターで印刷する

プリンターを接続して印刷するには、次の準備が必要です。
作業内容や手順などは、プリンターの説明書もあわせて参照してください。

- Windows XP に対応しているプリンター（USB 接続可能なもの）を用意する。
- パソコンにプリンターを接続する。
- プリンタードライバーをパソコンにインストールする。

プリンターを接続する

パソコンの電源を入れたまま接続できます。
USB コネクターはパソコンの左側面に 1 つと、前面に 1 つと、後面に 2 つあります。いずれのコネクターに接続してもかまいません。接続するときは、USB ケーブルの ⭠ マークを上向きにしてください。

プリンタードライバーをインストールする

プリンターを使用するためには、プリンタードライバーのインストールが必要です。
プリンターの説明書を参照して、プリンタードライバーをインストールしてください。プリンターに付属のフロッピーディスクや CD-ROM を使うこともあります。フロッピーディスクを使用する場合、別売の USB 接続 FD ドライブユニット（CE-FD05）が必要です。

ご参考

- 印刷の設定などは、プリンターの説明書を参照してください。
- プリンターに関する質問などは、各メーカーにお問い合わせください。

シャープ製カラー液晶ファクシミリ複合機をプリンターとして使用する場合

このパソコンと以下のカラー液晶ファクシミリ複合機を USB ケーブルで直接接続するときは、ファクシミリ複合機に付属のプリンタードライバーをインストールする必要はありません。

- UX-MF40CW
- UX-MF40CL
- UX-MF30CW
- UX-MF30CL

外部ディスプレイに表示する

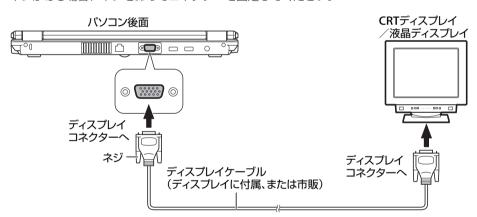
アナログ CRT ディスプレイやアナログ液晶ディスプレイを接続して、もうひとつのディスプレイにもパソコンの画面を表示することができます。また、プロジェクターを接続して、パソコンの画面をスクリーンに投影することもできます。

ご参考

- プロジェクターの接続のしかたや表示先の切り替え手順は、CRT ディスプレイ／液晶ディスプレイと同じです。プロジェクターの説明書もあわせて参照してください。
- 対応する垂直･水平周波数については、準備ができ次第メビウスホームページ内サポート情報の機種別ページでご案内します。
  http://support.sharp.co.jp/mebius/

CRT ディスプレイ／液晶ディスプレイを接続する

1 パソコンとディスプレイの電源を切ります。

2 パソコンとディスプレイを接続します。
ネジがある場合、ネジを締めてコネクターを固定してください。

3 ディスプレイの電源を入れます。

4 パソコンの電源を入れます。

ディスプレイドライバーをインストールする

アナログ CRT ディスプレイ／アナログ液晶ディスプレイを使用するためには、ディスプレイドライバーのインストールが必要な場合があります。ディスプレイの説明書を参照して、ディスプレイドライバーをインストールしてください。ディスプレイに付属のフロッピーディスクやCD-ROM を使うこともあります。フロッピーディスクを使用する場合、別売の USB 接続 FD ドライブユニット(CE-FD05)が必要です。

画面の表示先を切り替える

ここでは、以下の 2 つの方法について説明します。

- 「画面のプロパティ」画面で表示先を切り替える
- キーボードで表示先を切り替える

ご参考

- 動画の再生中やゲームソフトの使用中は、表示モードが切り替わらないことがあります。
- パソコンのディスプレイと同時表示をするには、1280 × 800 ドット以上が表示可能なディスプレイが必要です。それ以外のディスプレイでは、正常に表示されません。

「画面のプロパティ」画面で表示先を切り替える

1 [スタート]をクリックし、「コントロールパネル」をクリックします。

「コントロールパネル」画面が表示されます。

2 「デスクトップの表示とテーマ」をクリックします。

3 「画面」をクリックします。

「画面のプロパティ」画面が表示されます。

4 「設定」タブをクリックし、[詳細設定]をクリックします。

「(マルチモニタ)と ATI Radeon Xpress 1100 のプロパティ」画面が表示されます。

5 「CATALYST(R) Control Center」タブをクリックし、[ATI CATALYST(R) Control Center]をクリックします。

しばらくすると、「ATI CATALYST Control Center へようこそ」画面が表示されます。

6 「基本の[簡単設定ウィザードとクイック設定]」が選択されていることを確認し、[次へ]をクリックします。

「詳細」を選択したときは

- 「詳細」を選択して、[次へ]をクリックしたときは、確認画面が表示され、[はい]をクリックすると、詳細画面が表示されます。基本画面に戻りたいときは、詳細画面左下の[基本 ...]をクリックして、確認画面で[はい]をクリックしてください。

7 「簡単設定ウィザード」タブが選択されていることを確認し、[移動する]をクリックします。

8 内蔵ディスプレイのみに表示する場合

①「ノートブックパネル」と「なし」を選択します。

② [次へ]をクリックします。

外部ディスプレイのみに表示する場合

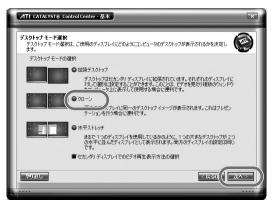
①「アナログモニタ」と「なし」を選択します。

② [次へ]をクリックします。

内蔵ディスプレイと外部ディスプレイの両方に同じ画面を表示する場合

①「ノートブックパネル」と「アナログモニタ」を選択します。

② [次へ]をクリックします。

③「クローン」を選択し、[次へ]をクリックします。

9 [はい]をクリックします。

10 [終了]をクリックします。

ディスプレイの解像度は、手順 ***13*** の「画面のプロパティ」画面で設定してください。

上記画面は一例です。手順 ***8*** で選択した表示先によって、表示される画面は異なりますが、[終了]の位置は同じです。

11 [終了]をクリックします。

「(マルチモニタ)と ATI Radeon Xpress 1100 のプロパティ」画面が表示されます。

12 [OK]をクリックします。

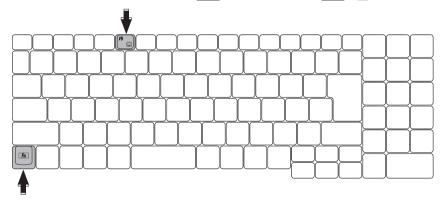
「画面のプロパティ」画面に戻ります。

13 必要に応じて画面の解像度を変更し、[OK]をクリックします。

「画面のプロパティ」画面が閉じます。解像度を変更したときは、確認メッセージが表示されます。メッセージに従って操作してください。

14 画面右上の ☒ をクリックして「デスクトップの表示とテーマ」画面を閉じます。

キーボードで表示先を切り替える

表示させたい画面に切り替わるまで Fn キーを押しながら F5 (▭)キーを押します。

2 つのディスプレイに分けて表示する

内蔵ディスプレイと外部ディスプレイを用いて、ひとつの画面を 2 つのディスプレイに分けて表示させることができます。(マルチモニター機能)

マルチモニター機能を設定する

1 [スタート]をクリックし、「コントロールパネル」をクリックします。

「コントロールパネル」画面が表示されます。

2 「デスクトップの表示とテーマ」をクリックします。

3 「画面」をクリックします。

「画面のプロパティ」画面が表示されます。

4 「設定」タブをクリックします。

5 「2」のモニタアイコンをクリックし、「Windows デスクトップをこのモニタ上で移動できるようにする」をクリックしてチェックマークを付けます。

「画面の解像度」と「画面の色」は、必要に応じて設定し直してください。

6 [OK]をクリックします。

「画面のプロパティ」画面が閉じます。解像度を変更したときは、確認メッセージが表示されます。メッセージに従って操作してください。

7 画面右上の ☒ をクリックして「デスクトップの表示とテーマ」画面を閉じます。

マルチモニター機能を解除する

「マルチモニター機能を設定する」の手順 ***5*** で、「Windows デスクトップをこのモニタ上で移動できるようにする」のチェックマークを外します。

CRT ディスプレイ／液晶ディスプレイを取り外す

1 パソコンとディスプレイの電源を切ります。

2 パソコンからディスプレイケーブルを取り外します。

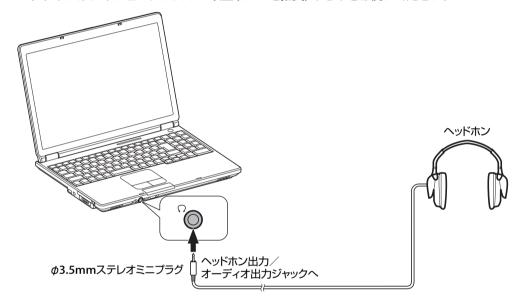
オーディオ機器を接続する

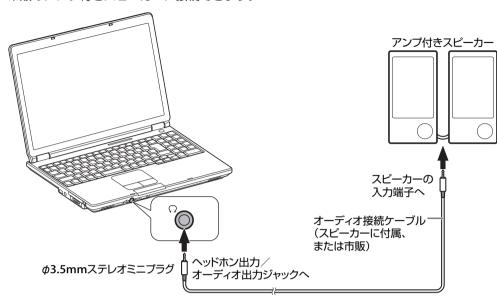
ヘッドホンや外部スピーカーを接続できます。また、オーディオ機器に接続して、アナログ音声を出力することもできます。

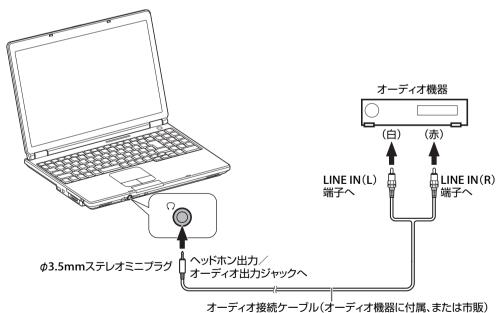
接続前に音量を下げてください

- パソコンの音量を下げてからパソコンとオーディオ機器を接続してください。大きい音のままで機器を接続すると、耳や機器に悪い影響を与える恐れがあります。音量調節の方法については、「**音量を調節する**」(☞51 ページ)を参照してください。

ヘッドホンを接続する

ヘッドホンは、インピーダンス 8 Ω以上(32 Ωを推奨)のものをお使いください。

外部スピーカーを接続する

市販のアンプ付きスピーカーに接続できます。

オーディオ機器にアナログ音声を出力する

ライン入力端子（LINE IN）付きのオーディオ機器と接続します。

音声を入力する

市販の外部マイクを接続して、アナログ音声を入力できます。

接続できるマイクの仕様は次のとおりです。

プラグ形状	：φ 3.5mm ステレオミニプラグ
適合インピーダンス	：1.5 k Ω～ 2.4 k Ω
電源電圧	：DC 2.5V
タイプ	：エレクトレットコンデンサマイク

ご参考

- モノラルマイクを接続することもできますが、マイクの仕様によっては、左右どちらかしか入力できないことがあります。

マイクから音声を録音する

1 **[スタート]をクリックし、「すべてのプログラム」－「アクセサリ」－「エンターテイメント」－「サウンドレコーダー」をクリックします。**

サウンドレコーダーが起動します。

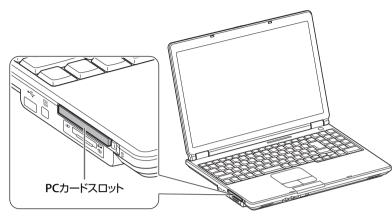
2 **録音を開始するには、[●] をクリックします。**

3 **録音を停止するには、[■] をクリックします。**

ご参考

- サウンドレコーダーの操作については、サウンドレコーダーのヘルプを参照してください。

PC カードを使う

PC カードをパソコンの PC カードスロットに差し込むと、周辺機器を接続したときと同じ役割をはたしたり、パソコン自体の機能を増やしたりすることができます。

このパソコンで使える PC カード

- PC Card Standard に準拠した Type II の PC カード
- CardBus 対応の PC カード

ご注意

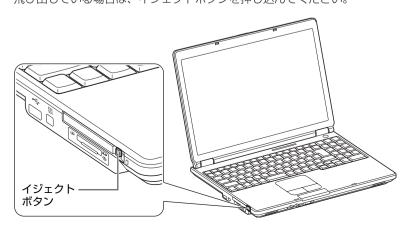
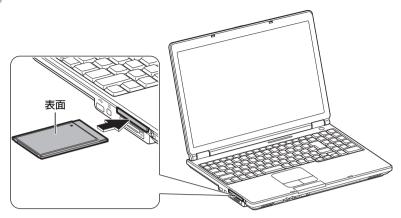
- パソコンを移動する場合は、PC カードを取り出してください。
  特に、PC カードの一部がパソコンから突き出すものは、PC カードに無理な力が加わり、PC カードおよび PC カードスロットの故障の原因になります。

PC カードを差し込む

ご参考

- 電源を入れた状態で、PC カードを差し込むことができます。
- 初めて PC カードを差し込んだときは、対応するデバイスドライバーが自動的にインストールされます。インストールされない場合は、画面が表示されますので、画面の指示に従ってデバイスドライバーをインストールしてください。

1 **イジェクトボタンが飛び出していないことを確認します。**

飛び出している場合は、イジェクトボタンを押し込んでください。

2 表面が上にくるようにして、PC カードをしっかりと差し込みます。

PC カードを差し込んだ後に以下のような画面が表示されたときは、Windows が実行する動作をクリックして選択し、[OK] をクリックします。
表示される画面は、PC カード内のデータによって異なります。

PC カードを取り出す

取り出す前に、パソコンの操作で、PC カードの使用を停止する必要があります。

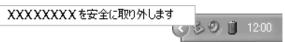
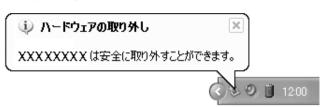
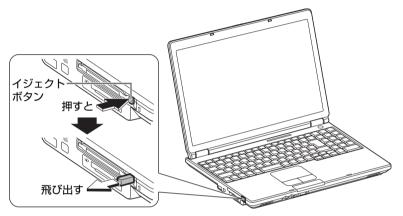
ご注意

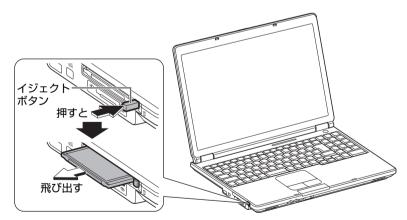
- 必ず下記の手順どおりに操作して PC カードを取り出してください。正しく操作して取り出さないと、カード内のデータが消えたり、パソコンが正常に動作しなくなることがあります。

1 タスクバーの をクリックします。

タスクバーに が表示されていないときは

- タスクバーに表示されるアイコンが多くなると、自動的に隠れることがあります。そのときはタスクバーの をクリックすると隠れているアイコンが表示されます。

2 「XXXXXXXX を安全に取り外します」をクリックします。

次の画面が表示されます。

3 イジェクトボタンを押して、ボタンを飛び出した状態にします。

4 飛び出したイジェクトボタンを押して、PC カードを取り出します。

ボタンを押し込むと、PC カードが少し出てきますので、引き出してください。

ご注意　PC カードは熱くなっていることがあります

- PC カードによっては、長時間使用した場合、熱くなるものがあります。取り出すときに注意してください。

5 イジェクトボタンが飛び出したままのときは、必ず元の位置まで押し込みます。

メモリーを増設する

メモリーを増やすと、パソコンが一時的に記憶するデータ容量を増やすことになります。その結果、大容量のデータを高速に処理できるようになったり、より多くのソフトウェアを同時に起動できるようになります。

このパソコンのメモリースロットは2つあり、ご購入時は1つのスロットに512MBのRAMボードが取り付けられています。(空きスロット1)
メモリー容量を増やすには、空きスロットに市販のRAMボードを取り付けたり、あらかじめ取り付けられているRAMボードを大容量のRAMボードと交換します。
最大メモリー容量については、仕様一覧の「**メインメモリー**」を参照してください。

取り付け可能な増設RAMボードについて

- 取り付け可能な増設RAMボードについては、お買いあげの販売店にお問い合わせいただくか、下記のメビウスのホームページを参照してください。動作確認がとれ次第サポート情報の機種別ページにて、順次ご案内します。
http://support.sharp.co.jp/mebius/

増設RAMボードを取り付ける／取り外す

ご注意

- RAMボードは静電気に非常に弱い部品です。そのため、身体に残った静電気などで破損することがあります。取り扱うときは、必ず次の事項を守ってください。
・取り扱う前に、金属に触れるなどして身体の静電気を逃がしておく。
・静電気の起きやすい場所(カーペットの上など)では、取り付け作業をしない。
・RAMボードの端子部分は、手で触れない。
・RAMボードを保管するときは、RAMボードを覆っていた静電気保護材、またはアルミ箔などの導電性の保護材で覆う。

増設RAMボードを取り付ける

RAMボードを交換するときは

- あらかじめ取り付けられているRAMボードを大容量のRAMボードと交換するときは、「**増設RAMボードを取り外す**」を参照してスロットからRAMボードを取り外してください。

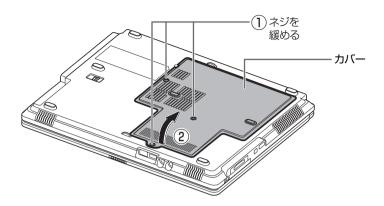
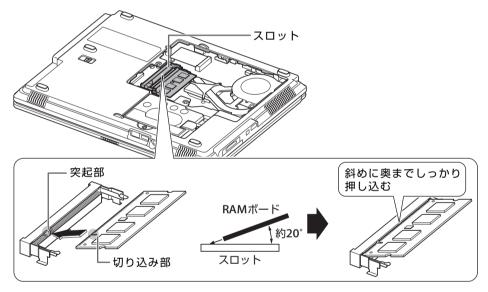
1 **パソコンの電源を切り、ACアダプターとバッテリーパックを取り外します。**
バッテリーパックの取り外し方については、「バッテリーパックを交換する」(☞44ページ)を参照してください。

ご注意

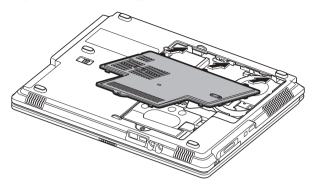
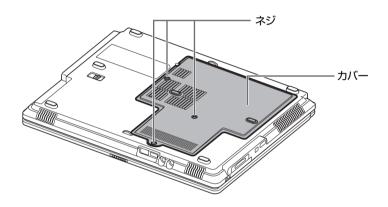
- 必ずパソコンの電源を切り、ACアダプターとバッテリーパックを取り外してください。故障の原因になります。
- 長時間使用した直後は、パソコン内部が熱くなっていることがあります。温度が下がるのを待ってから作業を開始するようにしてください。

2 カバーを取り外します。

① ネジを 3 本緩めます(ネジは取り外せません)。

② カバーを取り外します。

3 RAM ボードの切り込み部を取り付ける側のスロットの突起にあわせて、斜めに奥までしっかり押し込みます。

4 RAM ボードの左右の切り込み部を、スロットの突起部に合わせて、ゆっくりと押し下げます。

正しく取り付けられると、「カチッ」と音がします。

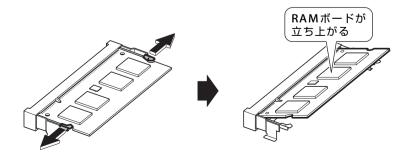
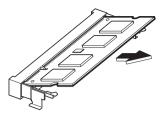
5 カバーの 3 箇所のツメをパソコンの切り込み部にはめ込み、しっかり奥まで押し込んでから、静かにカバーを元の位置に戻します。

6 カバーをネジで固定します。

7 バッテリーパックと AC アダプターを取り付けます。

取り付けが終わったら、電源を入れてメモリー容量を確認してください。
（「メモリーの容量を確認する」☞ 次ページ）

増設 RAM ボードを取り外す

1 「増設 RAM ボードを取り付ける」の手順 *1* ～ *2* を参照して、カバーを取り外します。

2 取り外す側のスロットの左右のツメを外側に開きます。

RAM ボードが立ち上がります。

3 RAM ボードをまっすぐ引き抜いて、取り外します。

4 「増設 RAM ボードを取り付ける」の手順 ***5*** 〜 ***6*** を参照して、カバーを取り付けます。

メモリーの容量を確認する

1 [スタート]をクリックし、「マイコンピュータ」をクリックします。

「マイコンピュータ」画面が表示されます。

2 「システムのタスク」欄の「システム情報を表示する」をクリックします。

「システムのプロパティ」画面が表示されます。

表示されるのは、ビデオメモリーとして使用される分(ご購入時の状態では 64MB)を引いた値です。また、ドライバーがメモリーを使用している場合は、その分少なく表示されます。

3 [OK]をクリックして画面を閉じます。

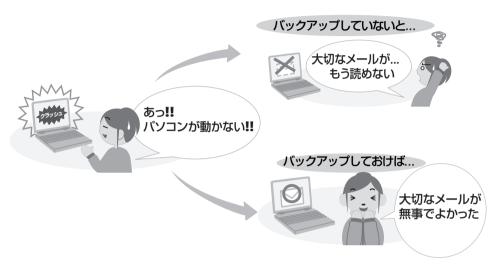
4 画面右上の ☒ をクリックして「マイコンピュータ」画面を閉じます。

万一に備えて

セキュリティを強化しよう

パソコンが動かなくなった、コンピュータウイルスに感染してしまった ... そんなときのために大切なデータをバックアップする方法やコンピュータウイルス対策について説明しています。

大切なデータをバックアップする

パソコンを使っていくうちに、送受信した電子メールや作成した文書など、大切なデータがハードディスクの中に保存されていきます。データが読み出せなくなるなどの万一の場合に備えて、大切なデータは他の場所にもコピーしておきましょう。
データをコピーして他の場所に保存しておくことを、「バックアップ」といいます。大切なデータは、日ごろからこまめにバックアップするようにしてください。

このパソコンのハードディスクには、Windows やソフトウェアなどがインストールされている C ドライブの他に、何もデータが入っていない D ドライブが用意されています。大切なデータは、ひとまず D ドライブにバックアップしておきましょう。
Windows の動作が不安定になるなどして再インストールする場合に、C ドライブの内容だけをご購入時の状態に復元すれば、D ドライブに保存されているデータは消さずに残すことができます。

ご注意

- D ドライブへのバックアップは、あくまでも一時的な対処法です。
  ハードディスク自体が故障してしまったときは D ドライブの内容も読み出せなくなります。書き込み可能な CD や DVD、または外付けハードディスクなどにもバックアップするようにしてください。
- ネットワークの設定などはファイルをコピーするだけではバックアップできません。必ずメモに控えておいてください。
- バックアップした後に、データの作成や編集をしたデータは、バックアップデータを戻して復元すると失われてしまいます。

D ドライブにフォルダを作成する

何のデータをバックアップしたかわかりやすく整理するために、バックアップをする前にあらかじめフォルダを作成しておきます。

1 **[スタート]をクリックし、「マイコンピュータ」をクリックします。**

2 **「ローカルディスク(D:)」アイコンをダブルクリックします。**

3 **「ファイルとフォルダのタスク」欄の「新しいフォルダを作成する」をクリックします。**

「新しいフォルダ」が作成されます。フォルダを作成した直後は、フォルダ名が青く反転されていて、名前を変更できる状態になっています。

4 **「マイドキュメント」と入力して、フォルダ名を変更します。**

5 **手順 *3* と手順 *4* を繰り返して、以下のフォルダをそれぞれ作成します。**

- 設定バックアップ
- IME

データをバックアップする

ファイルをバックアップする

ご購入時の状態では、ソフトウェアなどで作成した文書ファイルやデータファイルは、主に C ドライブの「マイドキュメント」フォルダ内に保存されるようになっています。(ソフトウェアによっては、他のフォルダにデータが保存されている場合もあります。)これらのデータを上記の手順 ***4*** で作成した D ドライブの「マイドキュメント」フォルダにコピーしてください。
ドラッグ & ドロップでファイルをフォルダへ移動させると、コピーできます。

インターネットの設定やメールのデータをバックアップする

ここでは「ファイルと設定の転送ウィザード」を使って次の設定やデータをバックアップします。

- ダイヤルアップの設定
- Internet Explorer のお気に入り
- Internet Explorer の設定
- Internet Explorer のセキュリィティの設定
- Outlook Express の電子メール
- Outlook Express のアドレス帳
- Outlook Express のメールアカウント

1 [スタート]をクリックし、「すべてのプログラム」−「アクセサリ」−「システムツール」−「ファイルと設定の転送ウィザード」をクリックします。

「ファイルと設定の転送ウィザード」画面が表示されます。

2 [次へ]をクリックします。

3 「転送元の古いコンピュータ」をクリックして選択し、[次へ]をクリックします。

「Windows セキュリティの重要な警告」画面が表示されたときは、[ブロックを解除する]をクリックします。

4 「その他」をクリックして選択し、[参照]をクリックします。

「フォルダの参照」画面が表示されます。

5 「マイコンピュータ」をクリックします。

6 「ローカルディスク(D:)」をクリックします。

7 前ページの手順 *5* で作成した「設定バックアップ」をクリックし、[OK]をクリックします。

「ファイルと設定の転送ウィザード」画面に戻ります。

8 [次へ]をクリックします。

9 「設定のみ」をクリックして選択し、「[次へ]をクリックしてから、ファイルと設定のカスタム一覧を選択する(上級者用)」をクリックしてチェックマークを付けます。

10 [次へ]をクリックします。

11 「Internet Explorerの設定」と「Internet Explorerのセキュリティの設定」、「Outlook Express」だけが表示されるようにします。

① 「Internet Explorer の設定」と「Internet Explorer のセキュリティの設定」、「Outlook Express」以外の項目をクリックして選択します。
② [削除]をクリックします。
③ ① と ② を繰り返して「Internet Explorer の設定」と「Internet Explorer のセキュリティの設定」、「Outlook Express」以外の項目を削除します。

「Internet Explorer の設定」または「Internet Explorer のセキュリティの設定」、「Outlook Express」を削除してしまったときは、[設定の追加]をクリックし、表示される画面で削除した内容を追加してください。

12 [次へ]をクリックします。

設定の収集が開始されます。

13 設定の収集が終わったら、[完了]をクリックします。

IME のユーザー辞書をバックアップする

IME のユーザー辞書は、以下の手順でバックアップします。

1 IME ツールバーの (ツール)をクリックし、「辞書ツール」をクリックします。

「Microsoft IME 辞書ツール」画面が表示されます。

2 メニューバーの「ツール」をクリックし、「一覧の出力」をクリックします。

「一覧の出力：単語一覧」画面が表示されます。

3 保存場所を 125 ページの手順 *5* で作成した「ローカルディスク(D:)」の「IME」フォルダにして、ファイル名を付けます。

4 [保存]をクリックします。

5 [終了]をクリックして「一覧の出力」画面を閉じます。

6 画面右上の ☒ をクリックして「Microsoft IME 辞書ツール」画面を閉じます。

ネットワークの設定を控える

パソコンのネットワーク設定は以下の手順でメモに控えます。

1 **[スタート]をクリックし、「コントロールパネル」をクリックします。**

2 **「ネットワークとインターネット接続」をクリックします。**

3 **「ネットワーク接続」をクリックします。**
「ネットワーク接続」画面が表示されます。

4 **次の手順で「ローカルエリア接続」または「ワイヤレスネットワーク接続」の設定内容をメモに控えます。**

① 「ローカルエリア接続」または「ワイヤレスネットワーク接続」をクリックして選択し、「ネットワークタスク」欄の「この接続の設定を変更する」をクリックします。
② 「この接続は次の項目を使用します」欄に表示されている内容をメモに控えます。
③ 「インターネットプロトコル(TCP/IP)」をダブルクリックします。
「インターネットプロトコル(TCP/IP)のプロパティ」画面が表示されます。
④ すべての設定内容をメモに控えます。
⑤ [詳細設定]をクリックします。
「TCP/IP 詳細設定」画面が表示されます。
⑥ すべてのタブの設定内容をメモに控えます。
⑦ [キャンセル]をクリックして「TCP/IP 詳細設定」画面を閉じます。
⑧ [キャンセル]をクリックして「インターネットプロトコル(TCP/IP)のプロパティ」画面を閉じます。
⑨ ワイヤレス LAN を使用しているときは、「ワイヤレスネットワーク」タブの内容もメモに控えます。
⑩ [キャンセル]をクリックして「ローカルエリア接続のプロパティ」画面または「ワイヤレスネットワーク接続のプロパティ」を閉じます。

5 **画面右上の ☒ をクリックして「ネットワーク接続」画面を閉じます。**

データを復元する

ここでは、Windows の動作が不安定になるなどして、再インストールが必要になり、再インストール後、D ドライブにバックアップしておいたインターネットの設定やメールのデータ、および IME のユーザー辞書を復元する方法について説明します。

ご購入時の状態に戻す(再インストール)

D ドライブの内容はそのままにして、C ドライブの内容だけをご購入時の状態に戻す(再インストール)方法については、「**C ドライブのみをハードディスクから再インストールする**」(☞167ページ)を参照してください。

インターネットの設定やメールのデータを復元する

ここでは「ファイルと設定の転送ウィザード」を使ってバックアップした内容を復元します。

ご購入時の状態に戻す（再インストール）をしないで、復元すると

- 「Outlook Expressの電子メール」と「Outlook Expressのメールアカウント」のデータは、現在のデータはそのまま残り、バックアップしているデータが追加されます。現在のデータとバックアップしているデータで同じデータがある場合、同じデータが複数存在することになります。
- 「Internet Explorer のお気に入り」と「Outlook Express のアドレス帳」のデータは、現在のデータはそのまま残り、バックアップしているデータの中で現在のデータにないものが追加されます。

1 **[スタート]をクリックし、「すべてのプログラム」－「アクセサリ」－「システムツール」－「ファイルと設定の転送ウィザード」をクリックします。**
「ファイルと設定の転送ウィザード」画面が表示されます。

2 **[次へ]をクリックします。**

3 **「転送先の新しいコンピュータ」が選択されていることを確認し、[次へ]をクリックします。**

4 **「ウィザードディスクは必要ありません。既に、古いコンピュータからファイルと設定を収集しました」をクリックして選択し、[次へ]をクリックします。**

5 **「その他」をクリックして選択し、[参照]をクリックします。**
「フォルダの参照」画面が表示されます。

6 **「マイコンピュータ」をクリックします。**

7 **「ローカルディスク(D:)」をクリックします。**

8 **「設定バックアップ」 をクリックし、[OK]をクリックします。**
「ファイルと設定の転送ウィザード」画面に戻ります。

9 **[次へ]をクリックします。**
ファイルと設定の転送が始まります。

10 **[完了]をクリックします。**
確認の画面が表示されます。

11 **[はい]をクリックします。**
ログオフします。

IME のユーザー辞書を復元する

バックアップした IME のユーザー辞書は、以下の手順で復元できます。

1 **IME ツールバーの （ツール）をクリックし、「辞書ツール」をクリックします。**
「Microsoft IME 辞書ツール」画面が表示されます。

2 **メニューバーの「ツール」をクリックし、「テキストファイルからの登録」をクリックします。**
「テキストファイルからの登録」画面が表示されます。

3 **「ローカルディスク（D:）」の「IME」フォルダを選択し、[開く]をクリックします。**

4 **バックアップしたファイルをクリックして選択し、[開く]をクリックします。**

5 **[終了]をクリックして「テキストファイルからの登録」画面を閉じます。**

6 **画面右上の をクリックして「Microsoft IME 辞書ツール」画面を閉じます。**

コンピュータウイルスを予防する・駆除する

コンピュータウイルスとは、意図的に作成された悪質なプログラムの一種です。お使いのパソコンがコンピュータウイルスに感染すると、ハードディスク内のデータが破壊されたり、外部からパソコンを操作されたり、コンピュータウイルスを添付したメールを勝手に送信するなど、さまざまな被害が生じます。こういったコンピュータウイルスに感染しないように日ごろから感染の予防をしましょう。また万一、感染した場合はすぐに駆除しましょう。

コンピュータウイルスの感染を防ぐには

- **最新のコンピュータウイルス用の予防・駆除ソフトを活用する**
  新種ウイルスに対応するために、最新のプログラム(ウイルス検索エンジンとウイルスパターンファイル)に更新してください。
- **メールの添付ファイルは、開く前にウイルス検査をする／知らない人からのメールは不用意に開かない**
  受信した電子メールに添付ファイルが付いている場合、開く前に必ずウイルス検査をしてください。また、知らない相手からのメールは不用意に開かないでください。
- **入手したファイルは、開く前にウイルス検査をする**
  インターネットからダウンロードしたファイルや他から入手したファイルは、開く前に必ずウイルス検査をしてください。また、信頼できないサイトや入手先が不明なフロッピーディスクや CD、DVD などは、ウイルスに感染する危険性が高いので注意してください。
- **ソフトウェアのセキュリティ機能を活用する**
  ・Word や Excel のファイルを扱うときは、マクロ機能の自動実行を無効にしてください。
  ・Outlook Express や Outlook のプレビューウィンドウを表示しないでください。
  ・Internet Explorer のセキュリティレベルを適切(「中」レベル以上)に設定してください。
  設定方法などについては、各ソフトウェアのヘルプなどを参照してください。
- **Windows やソフトウェアのアップデートをする**
  上記のような基本的なウイルス対策を行っていても、セキュリティホール(セキュリティ上の弱点)のあるソフトウェアを使用していると、ウイルスに感染してしまうことがあります。セキュリティホールは頻繁に発見されているので、インターネットに関連するソフトウェア(ブラウザやメールソフト)などの製造元のホームページを定期的にチェックして、必要な場合はセキュリティホールを修正するプログラムを使ってアップデートしてください。
  Windows セキュリティセンターでは、Windows ファイアウォール、自動更新によりコンピュータウイルスやインターネットからアクセスしようとする侵入者などのセキュリティ上の脅威からパソコンを保護します。
  Windows セキュリティセンターで、「ファイアウォール」と「自動更新」が有効になっているかを確認してください。
  [スタート] ー「コントロールパネル」をクリックし、「セキュリティ センター」をクリック、またはダブルクリックすると Windows セキュリティセンター画面が表示されます。

ご注意　**大切なデータはバックアップを取りましょう**

- 万一ウイルスに感染してしまうと、データを修復できないことがあります。ウイルス感染被害からの復旧のため、大切なデータはバックアップを取りましょう。

万一コンピュータウイルスに感染してしまった場合

最新のコンピュータウイルス用の予防・駆除ソフトなどを使って、駆除してください。IPA（情報処理推進機構）に報告をし、感染したと思われる日以降にデータやファイルなどを配付した送付先に報告してください。
最新のコンピュータウイルス用の予防・駆除ソフトなどを使っていても駆除できなかった（被害があった）場合は、ハードディスク全体を再インストールしてください。詳しくは、「**ご購入時の状態に戻す（再インストール）**」（☞162 ページ）を参照してください。

IPA へのコンピュータウイルスの報告

コンピュータウイルスに感染したり発見したときは、駆除した後で、IPA セキュリティセンターにコンピュータウイルスの報告をするようにします。これは強制ではありませんが、社会の安全性の維持や感染被害の拡大と再発防止に役立てるための基礎資料となり得るものなので積極的に協力しましょう。
◎ IPA セキュリティセンター
http://www.ipa.go.jp/security/

ウイルス対策ソフトを更新する

このパソコンには、コンピュータウイルスを検査・駆除するソフトのウイルスバスター 2006 インターネットセキュリティ 90 日版がインストールされています。まず、ウイルスバスターの検索エンジンとウイルスパターンファイルを最新の状態にするために、アップデート機能を有効にしましょう。検索エンジンとウイルスパターンファイルは、アップデート機能有効後 90 日間無料でアップデートできます。
また、本 90 日版の使用期間が過ぎた後はすべての機能が使用不可となり、コンピュータウイルスの検査や駆除ができなくなります。本 90 日版の使用期間内に、有料のダウンロード販売などにて製品版を購入し、アップグレードしてください。

ウイルスバスターのアップデート機能を有効にする方法や、製品版へのアップグレード方法については、ウイルスバスターのご案内（別紙）を参照してください。

ウイルスバスターの詳しい使用方法については、ウイルスバスターのヘルプを参照してください。ヘルプを表示するには、［スタート］をクリックし、「すべてのプログラム」－「トレンドマイクロウイルスバスター 2006」－「オンラインヘルプ」をクリックします。

ご参考

- 最新の検索エンジンとウイルスパターンファイルはインターネット上にあります。アップデートする前に、インターネットに接続できるようにしておいてください。
- インターネット接続にともなう料金はお客様のご負担になります。

ご参考

- アップデート機能を有効にすると、インターネットに接続されていれば 3 時間おきにアップデートを確認し、最新の検索エンジン、ウイルスパターンファイルを自動的にアップデートします。これにより、ウイルスバスターが常にコンピュータウイルスの侵入を監視し、感染を予防することができます。
- アップデート機能を有効にした直後や、すぐにアップデートが必要かどうか確認したいときは、メイン画面の「アップデート開始」をクリックします。

ファイアウォールについて

このパソコンには、インターネットからの不正侵入を防ぎ、情報の流出を防ぐファイアウォール機能を持つソフト「Windows ファイアウォール」とウイルスバスター 2006 インターネットセキュリティ 90 日版の「パーソナルファイアウォール」が入っています。ご購入時の状態では、「Windows ファイアウォール」が有効になっています。

次の事項にご注意ください。

- ファイアウォールソフトを 2 つ以上同時に使うと干渉し合って、動作しないことがあります。
- ウイルスバスター 2006 インターネット セキュリティ 90 日版の「パーソナルファイアウォール」を有効にする場合は、「Windows ファイアウォール」を無効にしてください。
- ウイルスバスター 2006 インターネット セキュリティ 90 日版の「パーソナルファイアウォール」を有効にすると、一部のソフトウェアにおいて、ファイアウォールにブロックされ通信ができないなど、正常に動作しないことがあります。

コンピュータウイルスに感染しているファイルが発見されたときは

ウイルスバスター 2006 インターネット セキュリティ 90 日版使用期間中に、コンピュータウイルスに感染しているファイルが発見されたときは、ウイルスバスターは自動的にウイルスを駆除します。駆除できなかった場合は、メッセージが表示されますので、対処方法を選択して処理してください。詳しくは、ウイルスバスターのヘルプを参照してください。

パスワードを設定して使用できる人を制限する

パソコンの不正使用やデータの盗難を防止するために、パスワードを設定することができます。パスワードを設定しておくと、パソコン起動時にパスワード入力画面が表示され、パスワードを知らない人の使用を防ぐことができます。

ここでは、セットアップユーティリティで設定するパスワードについて説明します。このパスワードを設定すると、パソコンの起動およびセットアップユーティリティの起動と変更を制限することができます。

ご参考

- セットアップユーティリティで設定するパスワードとは別に、Windows のユーザーアカウント毎にパスワードを設定することもできます。
詳しくは、下記手順に従って**【パソコン電子マニュアル】**の内容を参照してください。
① **【パソコン電子マニュアル】**を起動(☞211 ページ)し、「**使い方を知りたい**」の中にある「**パソコンの設定**」をクリックします。
② 左側の列の「ユーザー」をクリックします。
③ 中央の列の「1 台のパソコンを何人かで使い分けたい」をクリックします。
右側の列に説明が表示されます。

パスワードの種類

パスワードには、「スーパーバイザーパスワード」、「ユーザーパスワード」があります。ユーザーパスワードは、スーパーバイザーパスワードを設定しているときだけ設定できます。入力するパスワードによって次の制限があります。

スーパーバイザーパスワード	・パスワードを正しく入力しないと、パソコンが起動しません。※ ・パスワードを正しく入力しないと、セットアップユーティリティが起動しません。 ・セットアップユーティリティのすべての項目を設定できます。
ユーザーパスワード	・パスワードを正しく入力しないと、パソコンが起動しません。※ ・パスワードを正しく入力しないと、セットアップユーティリティが起動しません。 ・セットアップユーティリティの以下の項目のみ設定できます。 Main メニュー：Date and Time、Hot Key Beep Advanced メニュー：Resolution Expansion Security メニュー：Set User password Exit メニュー：Exit Saving Changes、Exit Discarding Changes Discard Changes、Save Changes

※ Password on Boot にチェックマーク（ √ ）が表示されているときにパスワード入力画面が表示されます。

パスワードを登録する

Caps Lock は解除しておくことをお勧めします

- パスワード登録時は、英字の大文字小文字は、別の文字として認識されます。パスワードを登録する前に、あらかじめ、Windows 上で、メモ帳（付属ソフト）などで文字を入力して、Caps Lock が有効になっていないか確認して、それからパスワードを登録してください。パスワード登録画面では、入力した文字が「***」で表示されるため、入力した内容を確認できません。Caps Lock について、詳しくは、「**文字を入力する**」（☞36 ページ）を参照してください。

ご注意

- 必要のないときは、パスワードを設定しないでください。パスワードを忘れると、パソコンを起動できなくなります。
- パソコン本体の修理を依頼されるときは、パスワードを削除しておいてください。

1 **パソコンの電源を入れ、画面の左下に「<F2>to enter System Configuration Utility」と表示されたらすぐに、F2 キーを押します。**

セットアップユーティリティの画面が表示されます。

2 **→ キーで「Security」メニューを選択し、⏎ キーを押します。**

Security メニューが表示されます。

3 **↓ ↑ キーで「Set Supervisor password」または「Set User password」を選択し、⏎ キーを押します。**

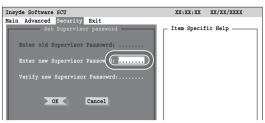
- スーパーバイザーパスワードを登録するとき：「Set Supervisor password」を選択

- ユーザーパスワードを登録するとき：「Set User password」を選択

パスワード入力画面が表示されます。
スーパーバイザーパスワードを設定しないと、ユーザーパスワードは設定できません。

4 パスワードを設定します。

ここでは、スーパーバイザーパスワードを設定する場合を例に説明します。ユーザーパスワードを設定するときは、「Supervisor」の箇所を「User」に読み替えてください。

① 「Enter new Supervisor Password」でパスワードを入力し、[⏎] キーを押します。
パスワードは、8 文字までの半角英数字で設定してください。

② 確認のため、「Verify new Supervisor Password」でもう一度同じパスワードを入力し、[⏎] キーを押します。

③ [OK] が選択されていることを確認し、[⏎] キーを押します。

「Notice!!」画面が表示されます。

5 画面の内容を確認し、[⏎] キーを押します。

「The SCU password is accepted and saved correctly.」と表示されているときは、パスワードが正しく登録されました。手順 **6** に進みます。

「Password strings do not match.」と表示されているときは、最初に入力したパスワードと確認のため入力したパスワードが一致しなかったため、パスワードは登録されませんでした。もう一度、手順 **2** からやり直してください。

6 [→] キーで「Security」メニューを選択し、[⏎] キーを押します。

Security メニューが表示されます。

7 ↓ キーで「Password on Boot」を選択し、（スペース） キーを押してチェックマーク（ √ ）を付けます。

セットアップユーティリティの起動と変更のみ制限したいときは、もう一度 （スペース） キーを押してチェックマーク（ √ ）を外します。チェックマーク（ √ ）を外した場合は、画面の左下に「<F2>to enter System Configuration Utility」と表示されているときに、 F2 キーを押したときだけパスワード入力画面が表示されます。

8 → キーで「Exit」メニューを選択します。

Exit メニューが表示されます。

9 「Exit Saving Changes」が選択されていることを確認し、 ⏎ キーを押します。

10 「Save your changes and exit now?」と表示されたら、 ⏎ キーを押します。

設定内容を保存してセットアップユーティリティが終了し、パスワード入力画面が表示されます。パスワード入力画面でパスワードを入力すると、Windows が起動します。

パスワードを登録したパソコンを起動する

パスワードを登録しておくと、パソコン起動時にパスワード入力画面が表示されます。パソコンを起動するには、表示されるパスワード入力画面（下記）にパスワードを入力します。入力しないと、次の操作に進むことができません。

スーパーバイザーパスワード／ユーザーパスワード入力画面

（セットアップユーティリティ起動時）

パスワードの入力をまちがえると、エラーメッセージが表示されますので、 ⏎ キーを押してパスワードを再入力してください。パスワードの入力を 3 回まちがえると、「Password strings do not match. You type wrong password for 3 times. System will be shut down.」と表示されます。このときは、 キーを押すと電源が切れますので、その後 10 秒以上たってから、電源を入れ直してください。

ご参考

- 「Password on Boot」にチェックマーク（ √ ）が表示されていないときは、パソコン起動時にスーパーバイザーパスワード・ユーザーパスワード入力画面は表示されません。 F2 キーを押してセットアップユーティリティを起動しようとしたときだけスーパーバイザーパスワード・ユーザーパスワード入力画面が表示されます。

パスワードを変更する／削除する

ご参考

- スーパーバイザーパスワードを削除すると、ユーザーパスワードも削除されます。

1 パソコンの電源を入れ、画面の左下に「<F2>to enter System Configuration Utility」と表示されたらすぐに、F2 キーを押します。

パスワード入力画面が表示されます。

2 登録しているスーパーバイザーパスワードまたはユーザーパスワードを入力し、⏎ キーを押します。

セットアップユーティリティの画面が表示されます。

3 → キーで「Security」メニューを選択し、⏎ キーを押します。

Security メニューが表示されます。

4 ↓ ↑ キーで「Set Supervisor password」または「Set User password」を選択し、⏎ キーを押します。

- スーパーバイザーパスワードを変更／削除するとき：「Set Supervisor password」を選択

- ユーザーパスワードを変更／削除するとき：「Set User password」を選択

パスワード入力画面が表示されます。

5 パスワードを変更（または削除）します。

ここでは、スーパーバイザーパスワードを変更／削除する場合を例に説明します。ユーザーパスワードを設定するときは、「Supervisor」の箇所を「User」に読み替えてください。

① 「Enter old Supervisor Password」で現在のパスワードを入力し、⏎ キーを押します。

② 「Enter new Supervisor Password」で新しいパスワードを入力し、[↵] キーを押します。
パスワードを削除するときは、何も入力せずに [↵] キーを押します。
パスワードは、8 文字までの半角英数字で設定してください。

③ 確認のため、「Verify new Supervisor Password」でもう一度同じパスワードを入力し、[↵] キーを押します。
パスワードを削除するときは、何も入力せずに [↵] キーを押します。

④ [OK] が選択されていることを確認し、[↵] キーを押します。

パスワードを変更したときは、「Notice!!」画面が表示されます。
パスワードを削除したときは、手順 **7** に進みます。

6 **パスワードを変更したときは、「Notice!!」画面の内容を確認し、[↵] キーを押します。**

7 **[→] キーで「Exit」メニューを選択し、[↵] キーを押します。**
Exit メニューが表示されます。

8 **「Exit Saving Changes」が選択されていることを確認し、[↵] キーを押します。**

9 **「Save your changes and exit now?」と表示されたら、[↵] キーを押します。**
設定内容を保存してセットアップユーティリティが終了し、Windows が起動します。

データ実行防止（DEP）機能について

このパソコンは、データ実行防止対応の CPU を搭載しています。これにより Windows のデータ実行防止（DEP）機能が強化され、メモリーのデータ領域を悪用した不正プログラムの実行を阻止し、パソコンをウイルス感染の被害から保護することができます。

データ実行防止（DEP）機能とは

メモリーのデータ領域を実行不可能領域にすることができる機能です。メモリーのデータ領域に悪意のあるコードを挿入して、それを実行しようとするウイルスやワームを動作させなくすることができます。このパソコンの CPU は、データ実行防止に対応しているので、より広い範囲でウイルスやワームから保護することができます。

ご参考

- DEP の設定およびセキュリティセンターの設定を変更するには、「コンピュータの管理者」のアカウントでログオンする必要があります。
- このパソコンがネットワークに接続されている場合は、設定を変更できない場合があります。ネットワーク管理者にお問い合わせください。

DEP の設定を変更する

ご購入時は、Windows のプログラムやサービスについてのみ DEP が有効になっています。すべてのプログラムにおいて DEP を有効に設定するには、次の手順に従ってください。

1 **[スタート]をクリックし、「マイコンピュータ」をクリックします。**

「マイコンピュータ」画面が表示されます。

2 **「システムのタスク」欄の「システム情報を表示する」をクリックします。**

「システムのプロパティ」画面が表示されます。

3 **「詳細設定」タブをクリックし、「パフォーマンス」欄の[設定]をクリックします。**

「パフォーマンスオプション」画面が表示されます。

4 **「データ実行防止」タブをクリックし、「次に選択するものを除くすべてのプログラムおよびサービスについて DEP を有効にする」をクリックして選択します。**

5 **[OK]をクリックします。**

確認画面が表示されます。

6 **[OK]をクリックします。**

7 **「システムのプロパティ」画面で[OK]をクリックします。**

8 **画面右上の ☒ をクリックして「マイコンピュータ」画面を閉じます。**

9 **パソコンを再起動します。**

DEP によりプログラムを実行できないときは

このパソコンでは DEP が常に有効に働いているため、プログラムを実行しようとするときに以下のメッセージが表示されることがあります。

上記の画面が表示されたときは、[メッセージを閉じる]をクリックして画面を閉じ、以下の手順に従って、**このパソコンおよび実行できなかったプログラムが安全かどうか確認してください。**

1 **セキュリティセンターで「ファイアウォール」、「自動更新」、「ウイルス対策」がすべて「有効」になっているか確認します。**

有効になっていない場合は、すべて有効に設定してください。

セキュリティセンターについては、はじめにお読みください の「セキュリティ対策をしましょう」を参照してください。

2 **ウイルスチェックを実行します。**

ウイルスが検出された場合：

ご使用のウイルス対策ソフトの削除手順に従ってください。

ウイルスが検出されなかった場合：

ウイルスが検出されず、上記のセキュリティセンターの設定もすべて有効に設定されている場合は、プログラムの開発元にお問い合わせいただき、プログラムの更新が可能かどうか確認してください。

特定のプログラムだけ DEP を無効にする

DEP により実行できなかったプログラムが安全であることが確認され、そのプログラムの更新バージョンを開発元より入手できない場合は、そのプログラムに対して DEP を無効に設定することができます。ただし、セキュリティが脆弱になる可能性がありますので、更新プログラム入手後は、DEP を有効にすることをお勧めします。

1 **「DEP の設定を変更する」（☞140 ページ）の手順 *1* ～ *4* までの作業をします。**

2 **「次に選択するものを除くすべてのプログラムおよびサービスについて DEP を有効にする」の一覧で、DEP を無効にしたいプログラムをクリックしてチェックマークを付けます。**

一覧にプログラム名が表示されていないときは、[追加] をクリックして無効にしたいプログラムのファイルを選択します。

3 **[OK] をクリックします。**

再起動の確認画面が表示されたときは、[OK] をクリックします。

4 **「システムのプロパティ」画面で [OK] をクリックします。**

5 **画面右上の ☒ をクリックして「マイコンピュータ」画面を閉じます。**

6 **手順 *3* でパソコンの再起動のメッセージが表示されたときは、パソコンを再起動します。**

パソコンの廃棄・譲渡時にデータを消去する

パソコンを廃棄や譲渡するときは、お客さまの重要なデータが流出するトラブルを防ぐために、次の手順に従ってハードディスクの全データを消去してください。

ハードディスクのデータは、データの削除やハードディスクの初期化を行なっただけでは市販のデータ回復ソフトで復元される場合があります。パソコンを廃棄や譲渡するときは、重要なデータが復元され流出しないようにハードディスクの全データを消去してください。(「**パソコンの廃棄・譲渡時のハードディスク上のデータ消去に関するご注意**」☞13 ページ)

ご注意

- 大切なデータは、データの消去を行う前に、書き込み可能な CD や DVD、または外付けハードディスクなどにバックアップしてください。
- AC アダプターを接続してください。消去中に電源がなくなると、正常にデータの消去が完了できません。
- この操作を行っても、完全にデータを復元できなくなるわけではありません。

ハードディスクのデータを消去する

ご参考

- パソコンを譲渡するときは、消去後も再インストール用のデータは消去されませんので、データ消去後にパソコンをご購入時の状態に戻して譲渡できます。
- 消去後に再インストールを行なう場合は、「**ハードディスク全体をハードディスクから再インストールする**」(☞174 ページ)を参照し、ハードディスク全体を再インストールしてください。
- 市販のパーティション変更ツールを使って、ハードディスクのパーティション設定を変更すると、データの消去ができないことがあります。その場合は、「**リカバリ CD/DVD を利用してハードディスクのデータを消去する**」(☞145 ページ)を参照し、ハードディスクのデータを消去してください。

1 **パソコンの電源が切れていることを確認します。**

2 **パソコンに周辺機器が接続されている場合は、周辺機器を取り外します。**

① PC カードスロットおよびメモリーカードスロットに挿入されているカード類を取り出します。

② IEEE1394 コネクターに接続している機器を取り外します。

③ USB コネクターに接続している機器を取り外します。
パソコン後面の USB コネクターも確認してください。

ご注意

- メモリーカードや USB 接続のハードディスクドライブなどを接続したままデータ消去を実行すると、メモリーカードなどのデータが消去される場合があります。

3 **パソコンの電源を入れ、画面の左下に「<F2>to enter System Configuration Utility」と表示されたらすぐに、F2 キーを押します。**

セットアップユーティリティの画面が表示されます。

4 **→ キーで「Exit」メニューを選択し、↵ キーを押します。**

Exit メニューが表示されます。

5 **↓ キーで「Load Setup Defaults」を選択し、↵ キーを押します。**

6 **「Load the default settings now?」と表示されたら、[OK] が選択されていることを確認し、↵ キーを押します。**

7 **→ キーで「Exit」メニューを選択し、↵ キーを押します。**

Exit メニューが表示されます。

8 **「Exit Saving Changes」が選択されていることを確認し、↵ キーを押します。**

9 **「Save your changes and exit now?」と表示されたら、[OK] が選択されていることを確認し、↵ キーを押します。**

パソコンが再起動します。

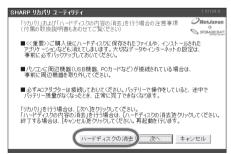
10 **パソコンが再起動され、画面の左上に「Press F10 to Recover」と表示されたらすぐに、F10 キーを押します。**

表示されている時間は約 2 秒です。

「SHARP リカバリユーティリティ」画面が表示されます。

「Press F10 to Recover」が表示されない場合は

- 「リカバリ CD/DVD を利用してハードディスクのデータを消去する」(☞ 次ページ)を参照し、ハードディスクのデータを消去してください。

11 **[ハードディスクの消去]をクリックします。**

12 **↓ キーで「次へ」を選択し、↵ キーを押します。**

13 **↓ ↑ キーで消去のレベルを選択し、↵ キーを押します。**

消去のレベルが高いほど処理時間は長くなりますが、より確実に消去され、復元されにくくなります。

14 **↓ キーで「消去します」を選択し、↵ キーを押します。**

15 **「ERASE」と入力し、↵ キーを押します。**

16 ↓ キーで「はい(消去を開始します)」を選択し、⏎ キーを押します。

ハードディスクの消去が始まります。

ご注意

- 消去中は、電源ボタンを押して電源を切らないでください。故障の原因になります。

ご参考

- 消去を中断するには Esc キーを押します。
- 消去中、ハードディスクの読み書きができなくなった部分がある場合は、不良セクタとして画面に表示されます。不良セクタ部分は消去されません。
- 不良セクタがある場合、通常の処理時間より時間がかかります。

17 「消去処理は正常に終了しました。」と表示されたら、電源ボタンを 4 秒以上押し続けてパソコンの電源を切ります。

リカバリ CD/DVD を利用してハードディスクのデータを消去する

リカバリ CD/DVD を利用してハードディスクのデータを消去することもできます。この操作を行うにはリカバリ CD/DVD を作成しておく必要があります。(「**リカバリ CD/DVD を作成する**」☞178 ページ)

ご注意

- リカバリ CD/DVD からハードディスクのデータを消去すると、ハードディスクに保存されている再インストール用のデータも消去されますので、ハードディスクからの再インストールやハードディスクのデータ消去はできなくなります。

ご参考

- 消去後にリカバリ CD/DVD を利用して再インストールを行う場合は、「**ハードディスク全体をリカバリ CD/DVD から再インストールする**」(☞189 ページ)を参照し、ハードディスク全体を再インストールしてください。

1 パソコンの電源が切れていることを確認します。

2 パソコンに周辺機器が接続されている場合は、周辺機器を取り外します。

① PC カードスロットおよびメモリーカードスロットに挿入されているカード類を取り出します。

② IEEE1394 コネクターに接続している機器を取り外します。

③ USB コネクターに接続している機器を取り外します。
すべての USB コネクターを確認してください。

ご注意

- メモリーカードや USB 接続のハードディスクドライブなどを接続したままデータ消去を実行すると、メモリーカードなどのデータが消去される場合があります。

3 パソコンの電源を入れ、画面左下に「<F2> to enter System Configuration Utility」と表示されたらすぐに、F2 キーを押します。

セットアップユーティリティの画面が表示されます。

4 「リカバリディスク 1」を CD/DVD ドライブにセットします。

5 → キーで「Exit」メニューを選択し、⏎ キーを押します。

Exit メニューが表示されます。

6 ↓ キーで「Load Setup Defaults」を選択し、⏎ キーを押します。

7 「Load the default settings now?」と表示されたら、[OK] が選択されていることを確認し、⏎ キーを押します。

8 → キーで「Main」メニューを選択し、⏎ キーを押します。

Main メニューが表示されます。

9 ↓ キーで「Boot Sequence」を選択し、⏎ キーを押します。

「Boot Sequence」画面が表示されます。

10 Tab キーで「1st Boot Device」欄に移動し、↓ キーで「CD-ROM Drive」を選択します。

11 Tab キーで「3rd Boot Device」欄に移動し、↑ キーで「Hard Disk Drive」を選択し、⏎ キーを押します。

12 → キーで「Exit」メニューを選択し、⏎ キーを押します。

Exit メニューが表示されます。

13 「Exit Saving Changes」が選択されていることを確認し、⏎ キーを押します。

14 「Save your changes and exit now?」と表示されたら、[OK] が選択されていることを確認し、⏎ キーを押します。

パソコンが再起動し、しばらくすると、「SHARP リカバリユーティリティ」画面が表示されます。

15 [ハードディスクの消去] をクリックします。

16 ↓ キーで「次へ」を選択し、⏎ キーを押します。

17 ↓ ↑ キーで消去のレベルを選択し、⏎ キーを押します。

消去のレベルが高いほど処理時間は長くなりますが、より確実に消去され、復元されにくくなります。

18 ↓ キーで「消去します」を選択し、⏎ キーを押します。

19 「ERASE」と入力し、⏎ キーを押します。

20 ↓ キーで「はい(消去を開始します)」を選択し、⏎ キーを押します。

ハードディスクの消去が始まります。

ご注意

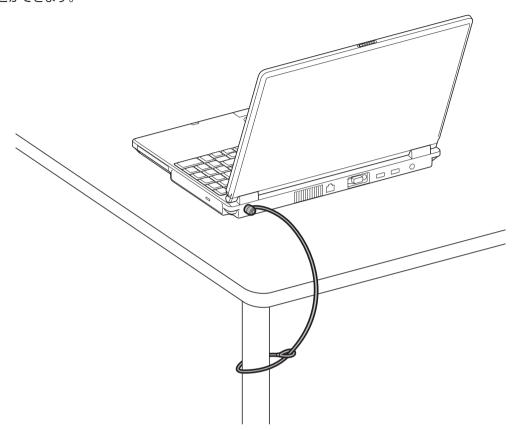
- 消去中は、電源ボタンを押して電源を切らないでください。故障の原因になります。

ご参考

- 消去を中断するには Esc キーを押します。
- 消去中、ハードディスクの読み書きができなくなった部分がある場合は、不良セクタとして画面に表示されます。不良セクタ部分は消去されません。
- 不良セクタがある場合、通常の処理時間より時間がかかります。

21 「消去処理は正常に終了しました。」と表示されたら、リカバリ CD/DVD を CD/DVD ドライブから取り出し、電源ボタンを 4 秒以上押し続けてパソコンの電源を切ります。

盗難を防止する

市販の盗難防止ロックを盗難防止ホール（ 🔒 ）につなぐと、パソコンを持ち運べないように固定することができます。

困ったときは

操作中にパソコンが動作しなくなったり、思った結果にならないときは「故障かな？と思ったら」をお読みください。また、ハードディスクの内容をご購入時の状態に戻す方法も紹介しています。

故障かな？と思ったら

“故障かな？” と思っても、調べてみると故障ではないこともあります。
トラブルによっては、パソコンの故障ではなく、Windows やソフトウェア、または周辺機器に関するトラブルの場合もあります。修理をご依頼になる前に、ここに記載されている内容および下記の説明書やヘルプを参照して問題の解決方法がないか、もう一度よくお確かめください。

- ［スタート］をクリックし、「ヘルプとサポート」をクリックして表示されるヘルプ画面
- お使いのソフトウェアの説明書、ヘルプ
- お使いの周辺機器の説明書
- 【パソコン電子マニュアル】（☞211 ページ）の「トラブル解決」

それでも問題が解決しないときは

一度パソコンのハードディスクを初期化して、改めてご購入時の状態に戻すこと（再インストール）をお勧めします。詳しくは、「**ご購入時の状態に戻す（再インストール）**」（☞162 ページ）を参照してください。

Windows 起動時（電源を入れたとき）のトラブル

？「MISSING OPERATING SYSTEM」、「Error loading operating system」または「Hard disk boot sector invalid」と表示される

- 再インストールを中断または失敗したとき、およびハードディスクのデータを消去したときは、このメッセージが表示されます。その場合は、ハードディスク全体を再インストールし直してください。
  電源を入れたあと、画面の左上に「Press F10 to Recover」と表示されるときは、ハードディスクから再インストールすることができます。「Press F10 to Recover」が表示されないときは、ハードディスクに保存されている再インストール用のデータが削除されていますので、リカバリ CD/DVD から再インストールしてください。再インストール手順については、「**ハードディスク全体をハードディスクから再インストールする**」（☞174 ページ）、または「**ハードディスク全体をリカバリ CD/DVD から再インストールする**」（☞189 ページ）を参照してください。

? 電源が入らない

- いったんACアダプターとバッテリーパックを取り外し、その後10秒以上の間隔をおいてACアダプターとバッテリーパックを取り付けて、電源を入れ直してください。

? フロッピーディスクから起動できない

- フロッピーディスクドライブが正しく接続されているか確認してください。
- フロッピーディスクドライブにセットしたフロッピーディスクが起動用かどうか確認してください。
- 「セットアップユーティリティ」(☞194ページ)のMainメニューで「Boot Sequence」の「1st Boot Device」欄で「Floppy Disk Drive」に"●"マークが付いているか確認してください。

? 「Press F1 to Continue, Del to Load CMOS defaults, F2 to enter SCU」と表示される

- セットアップユーティリティの設定が消えています。以下の手順に従って操作してください。
  ① 「Press F1 to Continue, Del to Load CMOS defaults, F2 to enter SCU」と表示されているときに、**Delete** キーを押します。
  Windowsが起動します。
  ② [スタート]をクリックし、「コントロールパネル」をクリックします。
  「コントロールパネル」画面が表示されます。
  ③ 「日付、時刻、地域と言語のオプション」をクリックします。
  ④ 「日付と時刻を変更する」をクリックします。
  「日付と時刻のプロパティ」画面が表示されます。
  ⑤ 日付や時刻を設定し、[OK]をクリックします。
  ⑥ 画面右上の ☒ をクリックして「日付、時刻、地域と言語のオプション」画面を閉じます。
  ⑦ セットアップユーティリティの内容を必要に応じて設定し直します。
  ご購入時の状態でお使いになられていたときは、特に設定する必要はありません。セットアップユーティリティの設定方法については、「セットアップユーティリティ」(☞194ページ)を参照してください。
- 上記の操作を行っても、繰り返しこのメッセージが表示されるときは、サポートのご案内を参照して、点検をご依頼ください。

表示に関するトラブル

? 画面が表示されない

- 何らかのキーを押して省電力機能が働いていないか確認してください。
- パソコンの電源が入っているか確認してください。
- バッテリーパックが正しくセットされ、充電されているか確認してください。
- Fn ＋ F5 （ ）キーを数回押し、表示先が外部ディスプレイになっていないか確認してください。
- Fn ＋ F11（ ）キーを押し、ディスプレイがオフになっていないか確認してください。
- 上記すべての操作をしてもだめなときは、「**キーボードやパッド型ポインティングデバイスからの入力操作を受け付けない**」（☞ 次ページ）の操作をしてください。

? 解像度を 1280 × 800 以上に設定すると、画面が一部分しか表示されない

- 「画面のプロパティ」画面では、1280 × 800 以上に設定できますが、内蔵ディスプレイには、領域のうち 1280 × 800 が表示されます。隠れている部分を見るには、その部分がある方向の画面の端にマウスポインターを動かすと画面がスクロールして見えるようになります。
- 外部ディスプレイによっては、外部ディスプレイの解像度を 1280 × 800 以上に設定した場合でも、画面が一部分しか表示されないことがあります。その場合は、解像度をいったん 1280 × 800 に戻したあと、次の手順に従って、「モニタのプロパティ」の設定を変更してください。

① 「画面のプロパティ」画面の「詳細」タブで[詳細設定]をクリックします。

② [CATALYST (R) Control Center」タブをクリックし、[ATI CATALYST (R) Control Center]をクリックします。
「ATI CATALYST (R) Control Center へようこそ」画面が表示されます。

③ 「詳細」をクリックして選択し、[次へ]をクリックします。
確認画面が表示されます。

④ [はい]をクリックします。

⑤ 「グラフィック設定」欄の「モニタのプロパティ」をクリックします。

⑥ 「モニタの属性」欄の「EDID [Extended Display Identification Data] またはドライバデフォルト設定を使用」をクリックしてチェックマークを外します。

⑦ 「最大解像度」の ▼ をクリックして最大解像度を変更し、[OK]をクリックします。
最大解像度は、接続している外部ディスプレイの最大解像度を選択してください。

⑧ [OK]をクリックします。
「画面のプロパティ」画面に戻ります。

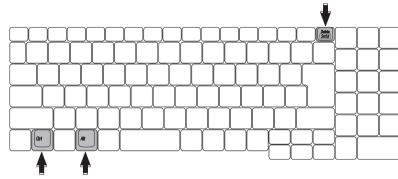
⑨ 解像度を設定し、[OK]をクリックします。

? Fn ＋ F5 （ ）キーで画面が切り替わらない

- 動画の再生中やゲームソフトの起動時は、画面の表示先が切り替わらないことがあります。そのときは動画やゲームソフトを終了してください。
- Windows のコントロールパネルの「デスクトップの表示とテーマ」の「画面」で、表示先を切り替えてください。（☞106 ページ）

キーボード・パッド型ポインティングデバイスに関するトラブル

? キーボードやパッド型ポインティングデバイスからの入力操作を受け付けない

- 以下の手順に従って操作してください。
  ① Ctrl ＋ Alt ＋ Delete キーを押し、「応答なし」と表示されているタスクを選択したあと、[タスクの終了]をクリックしてください。

  ② 上記の操作をしてもだめなときは、 ランプや ランプが点灯していないことを確認した上で、電源ボタンを 4 秒以上押し続けて強制的に電源を切ります。 ランプが消えたことを確認し、その後 10 秒以上間隔をおいて再度電源を入れてください。
  ③ 上記の操作をしてもだめなときは、AC アダプターとバッテリーパックを取り外して電源を切り、その後 10 秒以上の間隔をおいて AC アダプターとバッテリーパックを取り付け、電源を入れてください。

? パッド型ポインティングデバイスが動かない / 正しく動作しない

- 「セットアップユーティリティ」(☞194 ページ)の Advanced メニューで「Internal Pointing Device」に“√”マークが付いているか確認してください。
- USB マウスを接続しているときは、パッド型ポインティングデバイスが無効になります。USB マウスを取り外すか、以下の手順に従って設定を変更してください。
  ① [スタート]をクリックし、「コントロールパネル」をクリックします。
  「コントロールパネル」画面が表示されます。
  ② 「プリンタとその他のハードウェア」をクリックします。
  ③ 「マウス」をクリックします。
  「マウスのプロパティ」画面が表示されます。
  ④ 「デバイス設定」タブをクリックします。
  ⑤ 「USB マウス接続時に内蔵ポインティングデバイスを無効にする」をクリックしてチェックマークを外します。
  ⑥ [OK]をクリックして「マウスのプロパティ」画面を閉じます。
  ⑦ 画面右上の をクリックして「プリンタとその他のハードウェア」画面を閉じます。
- パッド型ポインティングデバイスのパッド面や手が、水や汗でぬれていないか確認してください。パッド面が汚れているときは、汚れを拭き取ってください。

? 日本語の入力ができない

- 半角 / 全角 (漢字)キーを押して、日本語入力システムがオンになっているか確認してください。
- ご使用のソフトウェアによっては、半角 / 全角 (漢字)キーを押しても日本語入力システムがオンにならない場合があります。この場合は、次の手順に従って操作してください。
  ① IME ツールバーを右クリックし、「設定」をクリックします。
  ② 「詳細設定」タブをクリックします。
  ③ 「詳細なテキスト サービスのサポートをプログラムのすべてに拡張する」をクリックして、チェックマークを外します。
  ④ [OK]をクリックします。
  ⑤ 「今すぐコンピュータを再起動しますか？」と表示されたら[いいえ]をクリックします。
  「テキスト サービスと入力言語」画面が閉じます。
  ⑥ タスクバーの (予測変換アイコン)を右クリックし、「予測変換機能の設定」をクリックします。
  ⑦ 「ログオン時に常駐する」をクリックしてチェックマークを外し、[閉じる]をクリックします。
  ⑧ パソコンを再起動します。
  ただし、この場合、予測変換機能は使えません。使いたいときは、以下の手順で設定を元に戻してください。
  ① [スタート]をクリックし、「すべてのプログラム」－「SHARP 予測変換ユーティリティ」－「予測変換機能の設定」をクリックします。
  ② 「ログオン時に常駐する」をクリックしてチェックマークを付け、[閉じる]をクリックします。
  ③ 前項 ① ～ ④ と同様の操作をして、「詳細なテキスト サービスのサポートをプログラムのすべてに拡張する」にチェックマークを付けてください。
  ④ 「今すぐコンピュータを再起動しますか？」と表示されたら[はい]をクリックして、パソコンを再起動します。

? テンキーで数字が入力できない

- N ランプが点灯していないときは、キー下段に刻印されている機能が働きます。Num Lock キーを押して N ランプを点灯させて、数字キーロックモードオン状態にしてください。
- 「セットアップユーティリティ」(☞194 ページ)の Main メニューで「10-Key」が " __ " マークのときは、テンキーは使えません(カーソルコントロールキーとしても動作しません)。また、Num Lock キーを押しても N ランプは点灯しません。

フロッピーディスクに関するトラブル

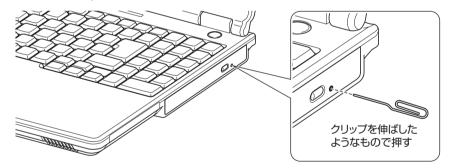
? 2DD（720KB）および 2HD-1.2MB タイプのフロッピーディスクが使えない

2DD および 2HD-1.2MB タイプのフロッピーディスクには、次の制限があります。

- 2DD および 2HD-1.2MB タイプのディスクでは起動できません。
- 2DD および 2HD-1.2MB タイプのフロッピーディスクにはフォーマットできません。
- DISKCOPY などのコマンドは実行できません。
- データを保存するときや 2HD-1.44MB のディスクを使用するコンピュータとデータをやりとりするときは使わないでください。
- 特殊なフォーマットタイプ（2HD-1.21MB タイプなど）のディスクに対しては読み書きできません。

CD・DVD に関するトラブル

? ドライブが開かない

- パソコンの電源が入っているか確認してください。
- パソコンの電源を切ってから、トレイにある丸いスイッチを先のとがったもの（クリップを伸ばしたようなもの）で押してください。（通常はこの方法で開けないでください。）

? CD-R、CD-RW にデータを保存できない／ CD-RW のデータを消去できない

- Windows の CD 書き込み機能を使って、データを書き込み／消去するときは、CD 書き込み機能を有効にしてください。詳しくは、「**Windows 標準の CD 書き込み機能**」（☞58 ページ）を参照してください。

? DVD-RAM にデータを保存できない

- DVD-RAM にデータを保存するときは、Windows の CD 書き込み機能を無効にしてください。詳しくは、「**Windows 標準の CD 書き込み機能**」（☞58 ページ）を参照してください。

? DVD-R への書き込みに時間がかかる

- ディスクを閉じて DVD-R に 1GB 以下のデータを書き込む場合、DVD の規格に準拠するために 1GB になるまでダミーデータを書き込みます。このため、書き込むデータ容量が少ない場合でも、書き込み完了までに時間がかかることがあります。

? DVD ビデオ再生時にコマ落ちが発生する

- バッテリー駆動時にコマ落ちすることがあります。AC アダプターを接続してください。

? DVD ビデオ再生時の音量が小さい

- DVD ビデオによっては録音レベルが低く音声が聞こえにくいものがあります。そのような場合は以下の操作で音量を調整してください。

ボリュームコントロールで調節する

① タスクバーの （音量アイコン）をダブルクリックします。
ボリュームコントロール画面が表示されます。

② 「WAVE」の音量を調整します。

③ 画面右上の をクリックします。

Realtek HD オーディオ設定で調節する

① [スタート] をクリックし、「コントロールパネル」をクリックします。
「コントロールパネル」画面が表示されます。

② 「サウンド、音声、およびオーディオデバイス」をクリックします。

③ 「Realtek HD オーディオ設定」をクリックします。

④ 画面中央の「ラウドネス」が （ON）になっているか確認して、右横の をクリックして音量レベル（xxdB）を調節します。
OFF の場合は、 をクリックして にしてください。

ONのとき ： ラウドネス XX dB — 音量レベル変更

OFFのとき ： ラウドネス XX dB

⑤ [OK] をクリックします。

⑥ 画面右上の をクリックして「サウンド、音量、およびオーディオデバイス」画面を閉じます。

通信に関するトラブル

? 内蔵 LAN でハブに接続してもうまく使えない

●ネットワークの設定がネットワーク環境に合っていない可能性があります。下記の操作に従ってネットワークの設定を確かめてください。

① [スタート]をクリックし､｢コントロールパネル｣をクリックします。
｢コントロールパネル｣画面が表示されます。
② ｢パフォーマンスとメンテナンス｣をクリックします。
③ ｢コンピュータの基本的な情報を表示する｣をクリックします。
④ ｢ハードウェア｣タブをクリックし､[デバイスマネージャ]をクリックします。
⑤ ｢ネットワークアダプタ｣をダブルクリックし､｢Realtek RTL8139/810x Family Fast Ethernet NIC｣をダブルクリックします。
⑥ ｢詳細設定｣タブをクリックし､｢プロパティ｣欄の｢Link Speed/Duplex Mode｣を選択します。
⑦ ｢値｣を使用する環境に合った値に変更します。
⑧ [OK]をクリックして｢デバイスマネージャ｣画面に戻ります。
⑨ 画面右上の ☒ をクリックして｢デバイスマネージャ｣画面を閉じます。
⑩ 画面右上の ☒ をクリックして｢システムのプロパティ｣画面を閉じます。
⑪ 画面右上の ☒ をクリックして｢パフォーマンスとメンテナンス｣画面を閉じます。

? アクセスポイントが検出されない

- アクセスポイントの電源が入っているか確認してください。
- パソコンを再起動してみてください。
- Fn + F1 ((ʏ))キーを押して、(ʏ) ランプを点灯させてください。

? アクセスポイント経由でネットワークに接続できない

- 「詳細設定」画面（☞88 ページの手順 **7**）で「アクセスするネットワーク」が「利用可能なネットワーク（アクセスポイント優先）」になっているか確認してください。
- アクセスポイントで設定しているネットワーク名と同じ名前になっているか確認してください。
- アクセスポイントに暗号化キーを設定しているときは、このパソコンにも同じ設定をしているか確認してください。（「セキュリティの設定を変更する」 ☞91 ページ）
  ・ネットワークキーを入力し直す。
  ・WEP キーを使用しているときは、キーのインデックスが正しく設定されているか確認する。
- 複数のアクセスポイントが設置されているときは、接続したいネットワーク名以外のワイヤレスネットワークに接続することがあります。このようなときは、タスクバーの（ワイヤレスネットワーク接続）を右クリックし、「利用できるネットワークの表示」をクリックして、接続するネットワークを選択してください。
- 次の手順に従って、ワイヤレスネットワーク接続を修復してみてください。
  ① タスクバーの 、 または （ワイヤレスネットワーク接続）を右クリックし、「修復」をクリックします。
  「ワイヤレスネットワーク接続の修復」画面が表示されます。
  ② 「接続の修復を完了しました。」と表示されたら、[閉じる] をクリックします。
- このパソコンのチャンネル設定は、1 ～ 11 チャンネルです。
  アクセスポイントの設定が 12 ～ 14 チャンネルの場合は接続できません。アクセスポイントのチャンネルを 1 ～ 11 の間に設定してください。設定方法については、アクセスポイントの説明書を参照してください。
- 近くに複数のアクセスポイントが設置されている場合、通信速度が低下したり通信が切断されることがあります。このようなときは、アクセスポイントのチャンネルを変更してみてください。変更方法については、アクセスポイントの説明書を参照してください。
- アクセスポイントによっては、「IEEE802.1X を有効」に設定しているとネットワークに接続できない場合があります。次の手順に従って IEEE802.1X を無効にしてください。
  ① タスクバーの 、 または （ワイヤレスネットワーク接続）を右クリックし、「利用できるネットワークの表示」をクリックします。
  ② 「関連したタスク」欄の「優先ネットワークの順位の変更」をクリックします。
  「ワイヤレスネットワーク接続のプロパティ」画面が表示されます。
  ③ 「優先ネットワーク」欄から接続したいネットワーク名を選択し、[プロパティ] をクリックします。
  ④ 「認証」タブをクリックし、「このネットワークで IEEE 802.1X を有効にする」をクリックしてチェックマークを外します。
  ⑤ [OK] をクリックして画面を閉じます。
  ⑥ [OK] をクリックして「ワイヤレスネットワーク接続のプロパティ」画面を閉じます。

? ワイヤレス LAN を使ってパソコン間で通信できない

- Fn + F1 (📶)キーを押して、📶ランプを点灯させてください。
- それぞれのパソコンの設定が次のように設定されているか確認してください。(「ワイヤレスでパソコン同士を接続できるようにする」☞87 ページ)
  - IP アドレスを 192.168.1.2 から 192.168.1.254 の間で通信相手と同じ番号にならないように設定する。
  - サブネットマスクを 255.255.255.0 に設定する。
  - 「アクセスするネットワーク」を「コンピュータ相互(ad hoc)のネットワークのみ」に設定する。
  - ネットワーク名を通信相手と同じ名前にする。
  - 暗号化キーおよびキーのインデックスが正しく設定されているか確認する。
- パソコン間の距離を近づけてみたり、障害物をなくして見通しをよくしたりして、再度接続してみてください。

? AV Library で正しくコンテンツを再生できない

- 他のパソコンの映像や音楽を視聴する場合、コンテンツやワイヤレス LAN の通信環境によっては、音とびやコマ落ちが発生する場合があります。そのような場合は LAN ケーブルを使いネットワークに接続してください。
- 映像や音楽を視聴中にディスプレイの表示先を切り替えると音とびやコマ落ちが発生する場合があります。

? おまかせインターネットのオートパイロットボタンと AOSS ボタンが使用できない

- このパソコンのおまかせインターネット(付属ソフト)は、オートパイロットおよび AOSS には対応していません。
  おまかせインターネットに登録したネットワーク設定を切り替えるときは、利用したいプロファイルのアイコンをクリックしてください。詳しくは、下記手順に従って「おまかせインターネット」のヘルプを参照してください。
  ① [スタート]をクリックし、「すべてのプログラム」-「おまかせインターネット」-「おまかせインターネットのヘルプ」をクリックします。
  おまかせインターネットのヘルプが表示されます。
  ② 「目次」タブで「プロファイルを切り替える」をダブルクリックし、「登録したプロファイルを使う」をクリックします。

その他のトラブル

? 電源が切れない

- 「キーボードやパッド型ポインティングデバイスからの入力操作を受け付けない」(☞153 ページ)の操作をしてください。

? バッテリーが認識されない／充電できない

- 長時間充電を行っていない状態 (過放電状態) で使用したときに、Windows 上でバッテリーが認識されない場合があります。(充電も自動的に中止されます。)そのときは、バッテリーを充電してください。充電開始後、 ランプがオレンジ色で点灯し、約 30 分経過後にオレンジ色点灯が続く場合は正常に充電されています。もし、 ランプがオレンジ色で点滅を開始したときは AC アダプターを取り外し、再度 AC アダプターを接続してバッテリーを充電してください。オレンジ色の点滅が続くときは、バッテリーパックの寿命、劣化、故障またはパソコンの故障が考えられます。点検を依頼してください。
- バッテリーを充電しながらパソコンを使用中、CPU が多くの処理をしているときや周辺機器を使ったために電力消費が大きくなった場合に、 ランプが消えることがありますが、故障ではありません。また、充電中にバッテリーパックの温度が上がり過ぎた場合にも、安全のため充電が一時中止され、 ランプが消えます。バッテリーパックの温度が下がると充電が再開されます。

? デスクトップにある SHARP ユーザー登録はこちらから や パソコン電子マニュアル を消したい

- SHARP ユーザー登録はこちらから や パソコン電子マニュアル を右クリックして、「削除」をクリックします。
  削除すると再びデスクトップに表示させることはできません。

? 付属ソフトをアンインストール(削除)したい

- 付属ソフト(パソコンにプリインストールされているソフト)の説明書やヘルプ、Readme などを参照してください。削除方法が記載されていない場合、通常は「コントロールパネル」のプログラムの追加と削除」から削除できます。
  ただし、Microsoft Office Personal 2003 以外の付属ソフトを削除してしまった場合、付属ソフトだけの再インストールはできません。「**ご購入時の状態に戻す(再インストール)**」(☞162 ページ)を参照して、ハードディスクの C ドライブを再インストールする必要があります。

? 付属ソフトを再インストールしたい

- Microsoft Office Personal 2003 以外の付属ソフトを再インストールするときは、「**ご購入時の状態に戻す(再インストール)**」(☞ 次ページ)を参照して、ハードディスクの C ドライブを再インストールしてください。
- Microsoft Office Personal 2003 を再インストールするときは、「**ご購入時の状態に戻す(再インストール)**」の「**Step4 Office Personal 2003 パックの内容を再インストールする**」(☞172 ページ)を参照してください。

ご購入時の状態に戻す(再インストール)

ここでは、パソコンをご購入時の状態に戻す(再インストールする)方法について説明します。

ご注意

- 再インストールすると、ハードディスク内の C ドライブの内容は消去されてしまいます。再インストールの種類によっては D ドライブの内容も消去されます。再インストールが必要かどうかよく確認してから始めてください。
- このパソコンは、ハードディスク内に再インストールに必要なデータが入っています。再インストール用のデータを変更したり、削除したりしないでください。再インストールができなくなります。
- 市販のハードディスクパーティション変更ツールを使って、ハードディスクのパーティション設定を変えたりしないでください。再インストール用のデータが消えて、ハードディスクからの再インストールができなくなります。
- 市販のデータリカバリソフトをインストールしている場合、再インストールする前に、必ず削除(アンインストール)してください。データリカバリソフトの中には、MBR(マスターブートレコード:ハードディスクの先頭にあり、パーティション情報などが書かれています)を書き換えるソフトウェアがあります。そのため、データリカバリソフトがインストールされている状態では、再インストールができなかったり、リカバリ CD/DVD が作成できなかったりします。また、再インストール時に D ドライブのデータが消えたりします。

ご参考

- 「故障かな?と思ったら」(☞150 ページ)および【パソコン電子マニュアル】(☞211 ページ)の「トラブル解決」に問題が起こったときの解決方法が書かれています。再インストールをする前に、あてはまる項目がないか調べてみてください。

再インストールが途中で中断したときは

- 下記の手順に従って、最初から再インストールをやり直してください。
  ① [戻る]をクリックして再インストールの最初の画面まで戻ります。
  ② [キャンセル]をクリックし、確認画面で[OK]をクリックします。
  ③ パソコンが再起動しますので、最初から再インストールをやり直してください。

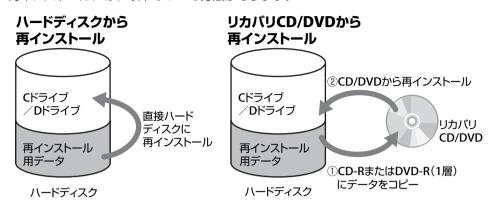
再インストール後はウイルス対策ソフトの更新をしてください

- 再インストール完了後のパソコンのシステムは、ご購入時の状態に戻っています。コンピュータウイルス用の予防・駆除ソフトの検索エンジンとウイルスパターンファイルをアップデートしてください。詳しくは「コンピュータウイルスを予防する・駆除する」(☞131 ページ)を参照してください。

パソコンの廃棄・譲渡時はデータを消去してください

- 再インストールを行い、ハードディスク内のデータを初期化しても市販のデータ回復ソフトを利用すればデータを復元できる場合があります。このパソコンを廃棄や譲渡するときは、重要なデータが流出するといったトラブルを回避するため、「パソコンの廃棄・譲渡時にデータを消去する」(☞143 ページ)を参照してハードディスクの全データを消去してください。

再インストールの種類

再インストールには、以下の 2 つの方法があります。

ハードディスクドライブから再インストールする

あらかじめハードディスクドライブに保存されている再インストール用のデータを使って直接ハードディスクに再インストールする方法です。
この方法ではリカバリ CD/DVD を使って再インストールするよりも短時間で再インストールを完了することができます。
ハードディスクから再インストールするには、「**ハードディスクから再インストールする**」（☞166 ページ）に進んでください。

- 万一再インストール用のデータが壊れたり削除されたりしてしまうと、ハードディスクから再インストールすることができなくなります。万一に備えて、リカバリ CD/DVD を作成しておくことをおすすめします。
  リカバリ CD/DVD を作成する方法は「**リカバリ CD/DVD を作成する**」（☞178 ページ）を参照してください。

リカバリ CD/DVD から再インストールする

ハードディスクに保存されている再インストール用のデータを、いったん CD-R または DVD-R（1 層）にコピーし、CD または DVD からハードディスクに再インストールする方法です。
お客様ご自身で CD-R または DVD-R（1 層）を用意いただき、リカバリ CD またはリカバリ DVD（以下総称してリカバリ CD/DVD と表記します。）の作成作業をしていただく必要がありますが、万一再インストール用のデータが壊れたり削除されたりした場合でも、リカバリ CD/DVD から再インストールすることができます。
リカバリ CD/DVD を使って再インストールするには、「**リカバリ CD/DVD から再インストールする**」（☞178 ページ）に進んでください。

ソフトウェア使用許諾書を読む

再インストールをするときには、Shadowprotect Restore を使用します。再インストールの前に、次の「SHADOWPROTECT RESTORE 使用許諾書」と「MBRINST 使用許諾書」をよくお読みください。

STORAGECRAFT TECHNOLOGY CORPORATION
SHADOWPROTECT RESTORE 使用許諾書

注意：本ソフトウェアを使用し、出荷時のイメージを復元すると、復元先のハードディスク上のデータは削除され、出荷時のイメージが上書きされます。復元前に、データをバックアップすることをお勧めします。

本ソフトウェアを使用する前に、本使用許諾書記載の各条項および条件をよくお読みください。StorageCraft Technology Corporation (以下、「ライセンサー」) は、本使用許諾書の全ての条項に同意されることを条件に、本ソフトウェアをご利用になる個人、企業または法人 (以下、「ライセンシー」) に本ソフトウェアの使用を許諾します。これは、ライセンシーとライセンサー間で交わされる法的強制力のある契約です。本ソフトウェアをロードまたは、使用することにより、本使用許諾書のすべての条項および条件に同意したことになります。各条項および条件に同意しない場合は、本ソフトウェアを使用しないでください。

1. 使用許諾

本ソフトウェアと付随するドキュメント（"本ソフトウェア" と総称します）はライセンサーもしくは第三者が所有しており、著作権法で保護されています。本使用許諾書に同意することにより本ソフトウェアを使用することを許諾します。

許諾された使用：

A. ライセンサーと別途契約を締結し許諾を受けたコンピュータメーカーが作成し、コンピュータに添付した出荷時のハードディスクのイメージを、本ソフトウェアが添付された特定の 1 台のコンピュータ上で、復元する目的でのみ使用することができます。

使用禁止：

A. 付随するドキュメントをコピーすること
B. 本ソフトウェアを再使用許諾、貸与、リース、転売、譲渡すること、またリバースエンジニアリング、逆コンパイル、逆アッセンブル、変更、翻訳、ソースコード抽出を試みること、派生的製品を開発すること
C. 本使用許諾書で許可された以外の使用

2. 技術サポート

ライセンサーおよびその代理店は技術サポートを提供しません。本ソフトウェアについてのお問い合わせは、本ソフトウェアを添付したコンピュータメーカーにおこなってください。

3. 保証

本ソフトウェアは現状のままで提供されています。ライセンサーは一切の保証をおこないません。

4. 免責

ライセンサーは、本ソフトウェアの使用もしくは使用不可に関わるいかなる直接的損害、間接的損害、特別損害および結果的損害（逸失利益、データ損失を含む）について、一切の責任を負いません。居住地域によっては、偶発的または結果的損害に対する責任の除外または制限が認められず、これらの制限または除外がライセンシーに適用されない場合があります。

5. 一般条項

本契約書に関して疑問点がある場合は、下記にご連絡ください。
StorageCraft Technology Corporation,
180 West Election Road, Suite 230, Draper, Utah 84020, U.S.A.
www.shadowstor.com、FAX:801-382-1824、
もしくは、STORAGECRAFT TECHNOLOGY CORPORATION の日本総代理店である㈱ネットジャパンにご連絡ください。
㈱ネットジャパン
〒 101-0035 東京都千代田区神田紺屋町８番地 アセンド神田紺屋町ビル
www.netjapan.co.jp FAX:03-5256-0878

株式会社 ネットジャパン
MBRINST 使用許諾書

本ソフトウェアを使用する前に、本使用許諾書記載の各条項および条件をよくお読みください。株式会社 ネットジャパン (以下、「ライセンサー」) は、本使用許諾書の全ての条項に同意されることを条件に、本ソフトウェアをご利用になる個人、企業または法人 (以下、「ライセンシー」) に本ソフトウェアの使用を許諾します。これは、ライセンシーとライセンサー間で交わされる法的強制力のある契約です。本ソフトウェアをロードまたは、使用することにより、本使用許諾書のすべての条項および条件に同意したことになります。各条項および条件に同意しない場合は、本ソフトウェアを使用しないでください。

１. 使用許諾

本ソフトウェアはライセンサーもしくは第三者が所有しており、著作権法で保護されています。本使用許諾書に同意することにより本ソフトウェアを使用することを許諾します。

許諾された使用：

A. ライセンサーと別途契約を締結し許諾を受けたコンピュータメーカーのコンピュータに添付され出荷されます。本ソフトウェアは、出荷時のハードディスクイメージの復旧機能の一部を構成し、出荷時のハードディスクのイメージを、本ソフトウェアが添付された特定の１台のコンピュータ上で、復元する目的でのみ使用することができます。

使用禁止：

A. 本ソフトウェアを再使用許諾、貸与、リース、転売、譲渡すること、またリバースエンジニアリング、逆コンパイル、逆アッセンブル、変更、翻訳、ソースコード抽出を試みること、派生的製品を開発すること
B. 本使用許諾書で許可された以外の使用

２. 技術サポート

ライセンサーおよびその代理店は技術サポートを提供しません。本ソフトウェアについてのお問い合わせは、本ソフトウェアを添付したコンピュータメーカーにおこなってください。

３. 保証

本ソフトウェアは現状のままで提供されています。ライセンサーは一切の保証をおこないません。

４. 免責

ライセンサーは、本ソフトウェアの使用もしくは使用不可に関わるいかなる直接的損害、間接的損害、特別損害および結果的損害（逸失利益、データ損失を含む）について、一切の責任を負いません。居住地域によっては、偶発的または結果的損害に対する責任の除外または制限が認められず、これらの制限または除外がライセンシーに適用されない場合があります。

５. 一般条項

本契約書に関して疑問点がある場合は、下記にご連絡ください。
㈱ネットジャパン
〒 101-0035 東京都千代田区神田紺屋町８番地 アセンド神田紺屋町ビル
www.netjapan.co.jp FAX:03-5256-0878

ハードディスクから再インストールする

ここでは、あらかじめハードディスクに保存されている再インストール用のデータを使って再インストールする方法を説明します。

再インストールの手順を確認する

ハードディスクから再インストールするときは、以下の手順でします。

Step1 セットアップユーティリティの設定を初期値に戻す

⇩

Step2 ハードディスクから再インストール用のデータを再インストールする

⇩

Step3 Windows をセットアップする

⇩

Step4 Office Personal 2003 パックの内容を再インストールする

⇩

これでハードディスクの内容は、ご購入時の状態に戻ります。

大切なデータをバックアップする

再インストールすると、ご購入後にハードディスクに保存されたファイルや、インストールされたソフトウェアなども消えてしまいます。大切なデータやインターネットなどの設定は、再インストールをする前に必ずバックアップしておいてください。(「大切なデータをバックアップする」☞124 ページ)

必要なものを準備する

説明書

- はじめにお読みください

Microsoft Office Personal Edition 2003 パック

- 「Microsoft Office Personal Edition 2003」の CD-ROM
- 「Microsoft Office Home Style+」の CD-ROM
- スタートガイド

C ドライブのみをハードディスクから再インストールする

ここでは D ドライブの内容はそのままにして、C ドライブのみをご購入時の状態に復元する方法を説明します。
この操作では、D ドライブはフォーマットされません。

ご注意

- 大切なデータは、再インストールをする前に書き込み可能な CD や DVD、または外付けハードディスクなどにバックアップしてください。

ご参考

- ハードディスク全体をご購入時の状態に復元することもできます。「**ハードディスク全体をハードディスクから再インストールする**」(☞174 ページ)を参照してください。
- ハードディスクの C ドライブと D ドライブの容量を変更して、C ドライブと D ドライブにご購入時のハードディスクの内容を復元することができます。「**指定のサイズにハードディスク容量を分割してハードディスクから再インストールする**」(☞176 ページ)を参照してください。

Step1 セットアップユーティリティの設定を初期値に戻す

1 **パソコンの電源が切れていることを確認します。**

2 **パソコンに周辺機器が接続されている場合は、周辺機器を取り外します。**

① PC カードスロットおよびメモリーカードスロットに挿入されているカード類を取り出します。
② IEEE1394 コネクターに接続している機器を取り外します。
③ USB コネクターに接続している機器を取り外します。
すべての USB コネクターを確認してください。

ご注意

- メモリーカードや USB 接続のハードディスクドライブなどを接続したまま再インストールを実行すると、メモリーカードなどのデータが消去される場合があります。

3 **パソコンに AC アダプターを取り付けます。**

ご注意

- 必ず AC アダプターは接続しておいてください。バッテリーで操作していると、途中でバッテリー残量がなくなったとき、再インストールが完了できなくなります。

パソコンの電源を入れ、画面の左下に「<F2>to enter System Configuration Utility」と表示されたらすぐに、F2 キーを押します。

セットアップユーティリティの画面が表示されます。

5 設定を初期値に変更します。

① → キーで、「Exit」メニューを選択し、⏎ キーを押します。

② ↓ キーで、「Load Setup Defaults」(すべての項目を初期値に戻す)を選択し、⏎ キーを押します。

③「Load the default settings now?」(設定を初期値に変更しますか？)と表示されたら、[OK]が選択されていることを確認し、⏎ キーを押します。

6 設定を保存してセットアップユーティリティを終了します。

① [→] キーで、「Exit」メニューを選択し、[⏎] キーを押します。

② 「Exit Saving Changes」(変更内容を保存して終了)が選択されていることを確認し、[⏎] キーを押します。

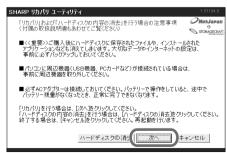
③ 「Save your changes and exit now?」(設定を保存して終了しますか?)と表示されたら、[OK]が選択されていることを確認し、[⏎] キーを押します。
パソコンが再起動します。

7 パソコンが再起動し、画面の左上に「**Press F10 to Recover**」と表示されたらすぐに、[**F10**] キーを押します。

表示されている時間は約 2 秒です。

8 次の「**Step2** ハードディスクから再インストール用のデータを再インストールする」に進みます。

Step2 ハードディスクから再インストール用のデータを再インストールする

1 次の画面が表示されたら、内容をよく読んで[次へ]をクリックします。

[キャンセル]を選択したときは

- [キャンセル]をクリックし、確認画面で[OK]をクリックしたときは、パソコンが再起動します。

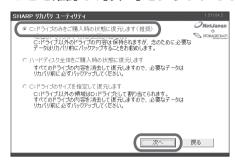
2 「C：ドライブのみをご購入時の状態に復元します（推奨）」が選択されていることを確認し、[次へ]をクリックします。

3 「C：ドライブのみをご購入時の状態に復元します。」と表示されていることを確認し、[リカバリ開始]をクリックします。

確認画面が表示されます。

4 [OK]をクリックします。

C ドライブのフォーマット（初期化）と内容の復元が始まります。

ご注意

- フォーマット中および復元中は、画面に進行状況が表示されます。次の操作案内が表示されるまで、何も操作しないでください。
  再インストールを途中で中止してしまうと、C ドライブだけでなく D ドライブにバックアップしたデータも削除されてしまいます。その場合は、「ハードディスク全体をハードディスクから再インストールする」（☞174 ページ）の手順に従って再インストールし直してください。

ハードディスクのリカバリ処理が終了すると、確認画面が表示されます。

5 [OK]をクリックします。

パソコンが再起動します。

6 次の「Step3 Windows をセットアップする」に進みます。

Step3 Windows をセットアップする

パソコンが再起動して、しばらくすると「Microsoft Windows へようこそ」画面が表示されます。

ご参考

- 詳細については、(はじめにお読みください)の「**Step3 Windows** のセットアップ」を参照してください。

1 **[次へ]をクリックします。**

「日付と通貨の表示方法を指定してください」画面が表示されます。

2 **[次へ]をクリックします。**

「タイムゾーンを選択してください」画面が表示されます。

3 **[次へ]をクリックします。**

「使用許諾契約」画面が表示されます。

4 **同意される場合は「同意します」をクリックし、[次へ]をクリックします。**

「コンピュータを保護してください」画面が表示されます。

5 **「自動更新を有効にし、コンピュータの保護に役立てます」をクリックし、[次へ]をクリックします。**

「コンピュータに名前を付けてください」画面が表示されます。

6 **[省略]をクリックします。**

7 **「管理者パスワードを設定してください」画面が表示されたときは[次へ]をクリックします。**

8 **「このコンピュータをドメインに参加させますか？」画面が表示されたときは[次へ]をクリックします。**

インターネットへの接続画面が表示されます。

9 **[省略]をクリックします。**

「Microsoft にユーザー登録する準備はできましたか？」画面が表示されます。

10 **「いいえ、今回はユーザー登録しません」をクリックして選択し、[次へ]をクリックします。**

「このコンピュータを使うユーザーを指定してください」画面が表示されます。

11 **「ユーザー１」欄にユーザー名を入力して、[次へ]をクリックします。**

「設定が完了しました」画面が表示されます。

12 [完了]をクリックします。

しばらくすると、Windows のデスクトップ画面が表示されます。

13 デスクトップの シャープお使いになる前に をダブルクリックし、確認画面で[OK]をクリックします。

初期設定が完了します。

14 シャープ予測変換機能についての説明をよく読み、[閉じる]をクリックします。

15 [スタート]をクリックし、[終了オプション]をクリックします。

「コンピュータの電源を切る」画面が表示されます。

16 「再起動」をクリックします。

パソコンが再起動します。

17 再起動後、デスクトップの パソコン電子マニュアル をクリックし、使用許諾についての説明をよく読み[同意する]をクリックします。

初期設定が完了し、パソコン電子マニュアルのトップ画面が表示されます。

18 次の「Step4 Office Personal 2003 パックの内容を再インストールする」に進みます。

Step4 Office Personal 2003 パックの内容を再インストールする

ご参考

- Office Personal 2003 をインストールすると、日本語入力システム Microsoft IME 2003 も同時にインストールされます。

1 Microsoft Word、Microsoft Excel、Microsoft Outlook をインストールします。

① 「Microsoft Office Personal Edition 2003」の CD-ROM を CD/DVD ドライブにセットします。

「Microsoft Office 2003 セットアップ」画面が表示されます。

② Office Personal 2003 パックに付属の スタートガイド を参照してインストールします。

次の画面では、「完全インストール」を選択してください。

2 Microsoft Office Home Style+ をインストールします。

① CD/DVD ドライブのイジェクトボタンを押して「Microsoft Office Personal Edition 2003」の CD-ROM を取り出し、「Microsoft Office Home Style+」の CD-ROM をドライブにセットします。
「Microsoft Office Home Style+ セットアップ」画面が表示されます。

② 画面に表示される指示に従って、Microsoft Office Home Style+ をインストールします。
次の画面では、「標準」を選択してください。

③「セットアップは正常に終了しました。」と表示されたら、[OK]をクリックします。

④ CD/DVD ドライブのイジェクトボタンを押して「Microsoft Office Home Style+」の CD-ROM を取り出します。

3 Office 2003 Service Pack 2 をインストールします。

① [スタート]をクリックし、「ファイル名を指定して実行」をクリックします。
「ファイル名を指定して実行」画面が表示されます。

②「名前」欄に **c: ¥office2003sp2 ¥o11sp2pi.exe** と入力し、[OK]をクリックします。
「Office 2003 Service Pack 2 (プレインストール用)」画面が表示されます。

③ [はい]をクリックします。

④ 使用許諾契約書の内容をよく読み、同意される場合は、[はい]をクリックします。

⑤ 再起動の確認画面が表示されたら、[はい]をクリックします。
パソコンが再起動します。

これで再インストールは完了です。

ライセンス認証ウィザードについて

● 再インストール後、Office アプリケーションを起動すると、「Microsoft Office 使用許諾契約書」画面が表示されます。使用許諾契約書に同意すると、「Microsoft Office 2003 ライセンス認証ウィザード」画面が表示されますので、このウィザードを使ってライセンス認証をしてください。詳しくは、Office Personal 2003 パックに付属の スタートガイド を参照してください。

その他の方法でハードディスクから再インストールする

ハードディスク全体をご購入時の状態に戻したり、C ドライブと D ドライブの容量を変更し、C ドライブと D ドライブをご購入時の状態に戻すことができます。
いずれも、ハードディスクの内容はすべて削除されます。

ハードディスク全体をハードディスクから再インストールする

ハードディスク全体をフォーマットして、ご購入時の状態に復元します。C ドライブと D ドライブの容量はご購入時の状態になります。

ご注意

- この操作では、C ドライブだけでなく D ドライブにバックアップしているデータもすべて削除されます。大切なデータは、再インストールをする前に書き込み可能な CD や DVD、または外付けハードディスクなどにバックアップしてください。

1 **「Step1　セットアップユーティリティの設定を初期値に戻す」(☞167 ページ)の手順 *1* 〜 *7* の作業をします。**

作業が終了し、パソコンが再起動した後、次の画面が表示されます。

2 **内容をよく読んで[次へ]をクリックします。**

3 **「ハードディスク全体をご購入時の状態に復元します」をクリックして選択し、[次へ]をクリックします。**

4 「ハードディスク全体をご購入時の状態に復元します。」と表示されていることを確認し、[リカバリ開始]をクリックします。

確認画面が表示されます。

5 [OK]をクリックします。

ハードディスクのフォーマット（初期化）と内容の復元が始まります。

ご注意

- フォーマット中および復元中は、画面に進行状況が表示されます。次の操作案内が表示されるまで、何も操作しないでください。
  再インストールを途中で中止してしまうと Windows を起動できなくなります。その場合は、手順 ***1*** から再インストールし直してください。

ハードディスクのリカバリ処理が終了すると、確認画面が表示されます。

6 [OK]をクリックします。

パソコンが再起動します。

7 「Step3 Windows をセットアップする」（☞171 ページ）に進みます。

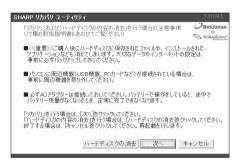
指定のサイズにハードディスク容量を分割してハードディスクから再インストールする

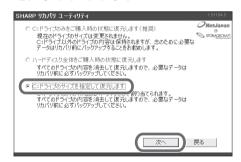
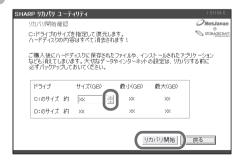
ハードディスク全体をフォーマットして、C ドライブと D ドライブの容量を設定し、C ドライブと D ドライブをご購入時の状態に戻します。

ご注意

- この操作では、C ドライブだけでなく D ドライブにバックアップしているデータもすべて削除されます。大切なデータは、再インストールをする前に書き込み可能な CD や DVD、または外付けハードディスクなどにバックアップしてください。

1 **「Step1　セットアップユーティリティの設定を初期値に戻す」(☞167 ページ)の手順 *1* ～ *7* の作業をします。**

作業が終了し、パソコンが再起動された後、次の画面が表示されます。

2 **内容をよく読んで[次へ]をクリックします。**

3 **「C：ドライブのサイズを指定して復元します」をクリックして選択し、[次へ]をクリックします。**

4 **でCドライブの容量を設定し、[リカバリ開始]をクリックします。**

確認画面が表示されます。

5 [OK]をクリックします。

ハードディスクのフォーマット(初期化)と内容の復元が始まります。

ご注意

- フォーマット中および復元中は、画面に進行状況が表示されます。次の操作案内が表示されるまで、何も操作しないでください。
  再インストールを途中で中止してしまうと Windows を起動できなくなります。その場合は、手順 ***1*** から再インストールし直してください。

ハードディスクのリカバリ処理が終了すると、確認画面が表示されます。

6 [OK]をクリックします。

パソコンが再起動します。

7 「Step3 Windows をセットアップする」(☞171 ページ)に進みます。

リカバリ CD/DVD から再インストールする

このパソコンにはリカバリ CD/DVD が付属していません。
リカバリ CD/DVD から再インストールする前にまず、再インストール用のデータを CD-R または DVD-R（1 層）にコピーしてリカバリ CD/DVD を作成する必要があります。ここでは、リカバリ CD/DVD の作成方法と、そのリカバリ CD/DVD を使って再インストールする方法を説明します。
すでにリカバリ CD/DVD を作成している場合は、作成したリカバリ CD/DVD をご用意いただき、「**再インストールの手順を確認する**」（☞181 ページ）に進んでください。

リカバリ CD/DVD を作成する

リカバリ CD/DVD を作成するときの準備

リカバリ CD/DVD を作成する前に、次の準備をしてください。

- AC アダプターを接続する。
- 「電源オプションのプロパティ」画面で「モニタの電源を切る」、「ハードディスクの電源を切る」、「システムスタンバイ」および「システム休止状態」を「なし」にする。（「**消費電力を節約する**」（☞46 ページ）
- 関係のないソフトウェアや、自動的に起動するソフトウェアは終了する。
- スクリーンセーバーを「なし」にする。

必要なものを準備する

リカバリ CD/DVD を作成する前に、次のものを準備してください。

- リカバリ DVD を作成する場合、動作確認済みの新しい DVD-R（1 層）（2 枚）
  リカバリ CD を作成する場合、650MB または 700MB の動作確認済みの新しい CD-R（8 枚）
- ペン先が硬くない油性ペンなど

ご注意

- リカバリ CD/DVD は一度しか作成できません。

ご参考

- 動作確認済みの CD-R または DVD-R（1 層）については、「**動作確認済みディスク**」（☞55 ページ）を参照してください。
- リカバリ CD/DVD の作成を途中で中止しても、最初からやり直してリカバリ CD/DVD を作成することができます。
- リカバリ CD/DVD を作成した後も、ハードディスクから再インストールすることができます。

ソフトウェア使用許諾契約書を読む

リカバリ CD/DVD を作成するときには、Bootable CD Creator を使用します。リカバリ CD/DVD を作成する前に、下記の「Bootable CD Creator ソフトウェア使用許諾契約書」をよくお読みください。

Bootable CD Creator ソフトウェア使用許諾契約書

本ソフトウェアに含まれるプログラム（Bootable CD Creator）、データおよびマニュアル（以下総称して「本製品」という）は、Enterprise Corporation International（以下「ＥＣＩ」という）が権利を所有しており、下記の条項が遵守されることを条件に、お客様に対し非譲渡および非独占の、本製品の使用に関する権利を許諾します。本製品は、米国著作権法および国際著作権条約、無体財産権に関するその他の法律により保護されています。お客様には、この旨をご理解していただき、さらに下記の各条項の全てにご同意の上、ご使用していただきます。

使用目的：

本製品は、シャープ（株）が製造するコンピュータに添付され出荷されています。本製品は、本製品が添付されているコンピュータのハードディスクにプリインストールされているリカバリー用イメージファイルを、Bootable CD として作成、保存するためにのみ使用するものとします。本製品は、本製品が添付されたコンピュータでのみ使用することができます。

次の条項を禁止します：

1. 本製品の全部または一部をインストール以外の方法で別の媒体に複製すること。
2. 本製品を２台以上のコンピュータにインストールし、本製品を使用可能とすること。
3. 本製品および複製の全部または一部を改変したり、第三者に譲渡、販売頒布（パソコン通信のネットワークを通じて通信により提供することを含む）すること。
4. 本製品に表示されている著作権その外権利者の表示を削除したり変更を加えること。
5. 本製品および複製の全部または一部をリバースエンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルすること。
6. 本製品および複製の全部または一部を判読可能な状態にすること。
7. 本製品および複製の全部または一部を本製品以外のプログラムから読み出して利用すること。
8. ネットワークを利用して複数ユーザーが使用すること。

本契約はお客様が本製品のパッケージを開封したときより効力を生じ、お客様が本製品およびその複製物すべてを使用不可能な状態で破棄されることにより終了します。またお客様が本契約の条項のいずれかに違反した場合は、ＥＣＩは本製品の使用を終了させることができます。

制限付き保証：

ＥＣＩは、本製品が付属するＥＣＩの資料に従ってほぼ動作することを保証します。ＥＣＩおよびシャープ（株）は他のすべての明示的、暗黙的な、いかなる保証および条件も行わないことを明言します。これには、本製品に関連した商用性の暗黙の保証、特定の目的に対する適合性、タイトル、違反がないことの保証を含みますが、それらに限りません。

責任の制限：

ＥＣＩおよびシャープ（株）は、本製品の使用または使用不可能な状態、その使用に起因する特別な、偶発的な、あるいは結果的な損害に責任を負いません。これには、業務上の利益の損失、業務の中断、業務情報の喪失、その他の金銭上の損失を含みますが、それらに限りません。これはＥＣＩが当該損失の可能性の通知を受けている場合でもその限りではありません。いかなる保証および条件も行わないことを明言します。これには、本製品に関連した商用性の暗黙の保証、特定の目的に対する適合性、タイトル、違反がないことの保証を含みますが、それらに限りません。

Bootable CD Creator でリカバリ CD/DVD を作成する

1 **新しい CD-R または DVD-R（1 層）を CD/DVD ドライブにセットします。**

何か画面が表示されたときは、画面右上の ☒ をクリックして画面を閉じてください。

2 **[スタート] をクリックし、「すべてのプログラム」－「プロダクトリカバリ CD_DVD 作成」をクリックします。**

Bootable CD Creator が起動します。

3 [リカバリディスクの作成]をクリックします。

4 確認画面で[OK]をクリックします。

書き込みが始まります。

ご注意

- ディスクへの書き込み中は、画面に進行状況が表示されます。次の操作案内が表示されるまで、何も操作しないでください。

5 画面に表示される指示に従って、新しいディスクと入れ替えます。

書き込みが完了したディスクから、ペン先が硬くない油性ペンなどで「リカバリディスク 1」、「リカバリディスク 2」、……と順にディスク番号を書いてください。

ご参考

- 新しいディスクをセットしたあと、何か画面が表示されたときは、画面右上の ☒ をクリックして画面を閉じてください。

6 「ディスクの作成が完了しました」と表示されたら[OK]をクリックし、CD/DVD ドライブからディスクを取り出します。

取り出したディスクに、続きのディスク番号を書いてください。

7 [終了]をクリックします。

ご注意

- 作成したリカバリ CD/DVD は、失わないよう大切に保管しておいてください。

8 確認画面で[はい]をクリックして 、「Bootable CD Creator」画面を閉じます。

再インストールの手順を確認する

リカバリ CD/DVD から再インストールするときは、以下の手順でします。

リカバリ CD/DVD を用意する

⇩

Step1 セットアップユーティリティの設定を変更する

⇩

Step2 リカバリ CD/DVD の内容を再インストールする

⇩

Step3 Windows をセットアップする

⇩

Step4 セットアップユーティリティの設定を初期値に戻す

⇩

Step5 Office Personal 2003 パックの内容を再インストールする

⇩

これでハードディスクの内容は、ご購入時の状態に戻ります。

大切なデータをバックアップする

再インストールすると、ご購入後にハードディスクに保存されたファイルや、インストールされたソフトウェアなども消えてしまいます。大切なデータやインターネットなどの設定は、再インストールをする前に必ずバックアップしておいてください。(「大切なデータをバックアップする」☞ 124 ページ)

必要なものを準備する

説明書

- はじめにお読みください

リカバリ CD/DVD

- 作成したリカバリ DVD(2 枚)またはリカバリ CD(8 枚)

Microsoft Office Personal Edition 2003 パック

- 「Microsoft Office Personal Edition 2003」の CD-ROM
- 「Microsoft Office Home Style+」の CD-ROM
- スタートガイド

C ドライブのみをリカバリ CD/DVD から再インストールする

ここでは D ドライブの内容はそのままにして、C ドライブのみをご購入時の状態に復元する方法を説明します。この操作では、D ドライブはフォーマットされません。

ご注意

- 大切なデータは、再インストールをする前に書き込み可能な CD や DVD、または外付けハードディスクなどにバックアップしてください。

ご参考

- C ドライブと D ドライブをご購入時の状態に復元することができます。「**ハードディスク全体をリカバリ CD/DVD から再インストールする**」（☞189 ページ）を参照してください。
- ハードディスクの C ドライブと D ドライブの容量を設定して、C ドライブにご購入時のハードディスクの内容を復元することができます。「**指定のサイズにハードディスク容量を分割してリカバリ CD/DVD から再インストールする**」（☞190 ページ）を参照してください。

Step1 セットアップユーティリティの設定を変更する

1 パソコンの電源が切れていることを確認します。

2 パソコンに周辺機器が接続されている場合は、周辺機器を取り外します。

① PCカードスロットおよびメモリーカードスロットに挿入されているカード類を取り出します。
② IEEE1394 コネクターに接続している機器を取り外します。
③ USB コネクターに接続している機器を取り外します。
すべての USB コネクターを確認してください。

ご注意

- メモリーカードや USB 接続のハードディスクドライブなどを接続したまま再インストールを実行すると、メモリーカードなどのデータが消去される場合があります。

3 パソコンに AC アダプターを取り付けます。

ご注意

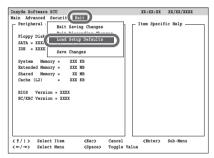
- 必ず AC アダプターは接続しておいてください。バッテリーで操作していると、途中でバッテリー残量がなくなったとき、再インストールが完了できなくなります。

4 パソコンの電源を入れ、画面の左下に「<F2>to enter System Configuration Utility」と表示されたらすぐに、F2 キーを押します。

セットアップユーティリティの画面が表示されます。

5 「リカバリディスク 1」を CD/DVD ドライブにセットします。

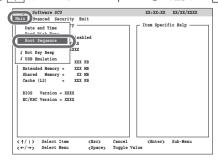
6 設定を初期値に変更します。

① → キーで、「Exit」メニューを選択し、⏎ キーを押します。

② ↓ キーで、「Load Setup Defaults」(すべての項目を初期値に戻す)を選択し、⏎ キーを押します。

③「Load the default settings now?」(設定を初期値に変更しますか？)と表示されたら、[OK]が選択されていることを確認し、⏎ キーを押します。

7 CD-ROM から起動するようにします。

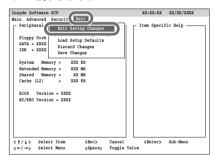
① → キーで、「Main」メニューを選択し、⏎ キーを押します。

② ↓ キーで、「Boot Sequence」を選択し、⏎ キーを押します。

③ Tab キーで「1st Boot Device」欄に移動し、↓ キーで「CD-ROM Drive」を選択します。

④ Tab キーで「3rd Boot Device」欄に移動し、↑ キーで「Hard Disk Drive」を選択し、↵ キーを押します。

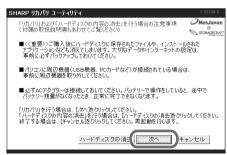
8 設定を保存してセットアップユーティリティを終了します。

① → キーで、「Exit」メニューを選択し、↵ キーを押します。

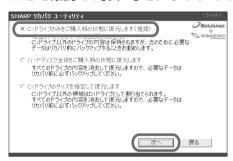
② 「Exit Saving Changes」（変更内容を保存して終了）が選択されていることを確認し、↵ キーを押します。

③ 「Save your changes and exit now?」（設定を保存して終了しますか？）と表示されたら、[OK]が選択されていることを確認し、↵ キーを押します。
パソコンが再起動します。

9 次の「Step2 リカバリ CD/DVD の内容を再インストールする」に進みます。

Step2 リカバリ CD/DVD の内容を再インストールする

1 パソコンが起動した後、次の画面が表示されたら、内容をよく読んで[次へ]をクリックします。

[キャンセル]を選択したときは

- [キャンセル]をクリックし、確認画面が表示されたら「リカバリディスク 1」を CD/DVD ドライブから取り出し[OK]をクリックするとパソコンが再起動します。

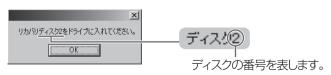
2 「C：ドライブのみをご購入時の状態に復元します（推奨）」が選択されていることを確認し、[次へ]をクリックします。

3 「C: ドライブのみをご購入時の状態に復元します。」と表示されていることを確認し、[リカバリ開始]をクリックします。

確認画面が表示されます。

4 [OK]をクリックします。

C ドライブのフォーマット（初期化）と内容の復元が始まります。

- フォーマット中および復元中は、画面に進行状況が表示されます。次の操作案内が表示されるまで、何も操作しないでください。
  再インストールを途中で中止してしまうと、C ドライブだけでなく D ドライブにバックアップしたデータも削除されてしまいます。その場合は、「**ハードディスク全体をリカバリ CD/DVD から再インストールする**」（☞189 ページ）の手順に従って再インストールし直してください。

5 途中、以下のようなディスクを入れ替えるメッセージが表示されますので、リカバリディスクを入れ替え、[OK]をクリックします。

ハードディスクのリカバリ処理が終了すると、確認画面が表示されます。

6 **[OK]をクリックします。**

パソコンが再起動されます。

7 **次の「Step3 Windows をセットアップする」に進みます。**

Step3 Windows をセットアップする

パソコンが再起動して、しばらくすると「Microsoft Windows へようこそ」画面が表示されます。

ご参考

- 詳細については、はじめにお読みください の「Step3 Windows のセットアップ」を参照してください。

1 **CD/DVD ドライブのイジェクトボタンを押してリカバリディスクを取り出します。**

2 **[次へ]をクリックします。**

「日付と通貨の表示方法を指定してください」画面が表示されます。

3 **[次へ]をクリックします。**

「タイムゾーンを選択してください」画面が表示されます。

4 **[次へ]をクリックします。**

「使用許諾契約」画面が表示されます。

5 **同意される場合は「同意します」をクリックし、[次へ]をクリックします。**

「コンピュータを保護してください」画面が表示されます。

6 **「自動更新を有効にし、コンピュータの保護に役立てます」をクリックし、[次へ]をクリックします。**

「コンピュータに名前を付けてください」画面が表示されます。

7 **[省略]をクリックします。**

8 **「管理者パスワードを設定してください」画面が表示されたときは[次へ]をクリックします。**

9 **「このコンピュータをドメインに参加させますか?」画面が表示されたときは[次へ]をクリックします。**

インターネットへの接続画面が表示されます。

10 **[省略]をクリックします。**

「Microsoft にユーザー登録する準備はできましたか？」画面が表示されます。

11 **「いいえ、今回はユーザー登録しません」をクリックして選択し、[次へ]をクリックします。**

「このコンピュータを使うユーザーを指定してください」画面が表示されます。

12 **「ユーザー1」欄にユーザー名を入力して、[次へ]をクリックします。**

「設定が完了しました」画面が表示されます。

13 **[完了]をクリックします。**

しばらくすると、Windows のデスクトップ画面が表示されます。

14 **デスクトップの をダブルクリックし、確認画面で[OK]をクリックします。**

初期設定が完了します。

15 **シャープ予測変換機能についての説明をよく読み、[閉じる]をクリックします。**

16 **[スタート]をクリックし、[終了オプション]をクリックします。**

「コンピュータの電源を切る」画面が表示されます。

17 **「再起動」をクリックします。**

パソコンが再起動します。

18 **再起動後、デスクトップの をクリックし、使用許諾についての説明をよく読み[同意する]をクリックします。**

初期設定が完了し、パソコン電子マニュアルのトップ画面が表示されます。

19 **次の「Step4　セットアップユーティリティの設定を初期値に戻す」に進みます。**

Step4 セットアップユーティリティの設定を初期値に戻す

Windows が起動している状態から作業します。

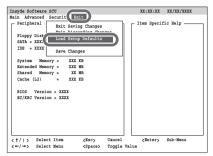
1 **Windows を終了します。**

2 **約 10 秒待ってからパソコンの電源を入れ、画面の左下に「<F2>to enter System Configuration Utility」と表示されたらすぐに、F2 キーを押します。**

セットアップユーティリティの画面が表示されます。

3 設定を初期値に変更します。

① [→] キーで、「Exit」メニューを選択し、[⏎] キーを押します。

② [↓] キーで、「Load Setup Defaults」(すべての項目を初期値に戻す)を選択し、[⏎] キーを押します。

③「Load the default settings now?」(設定を初期値に変更しますか?)と表示されたら、[OK]が選択されていることを確認し、[⏎] キーを押します。

ご参考

- セットアップユーティリティの項目は、必要に応じて設定し直してください。

4 設定を保存してセットアップユーティリティを終了します。

① [→] キーで、「Exit」メニューを選択し、[⏎] キーを押します。

②「Exit Saving Changes」(変更内容を保存して終了)が選択されていることを確認し、[⏎] キーを押します。

③「Save your changes and exit now?」(設定を保存して終了しますか?)と表示されたら、[OK]が選択されていることを確認し、[⏎] キーを押します。
パソコンが再起動します。

5 次の「Step5 Office Personal 2003 パックの内容を再インストールする」に進みます。

Step5 Office Personal 2003 パックの内容を再インストールする

Office Personal 2003 パックの内容を再インストールするには、「**Step4 Office Personal 2003 パックの内容を再インストールする**」(☞172 ページ)を参照してください。

その他の方法でリカバリ CD/DVD から再インストールする

C ドライブと D ドライブをご購入時の状態に戻したり、C ドライブと D ドライブの容量を設定し、C ドライブのみをご購入時の状態に戻すことができます。

ハードディスク全体をリカバリ CD/DVD から再インストールする

ハードディスク全体をフォーマットして、C ドライブと D ドライブをご購入時の状態に復元します。

ご注意

- この操作では、C ドライブだけでなく D ドライブにバックアップしているデータもすべて削除されます。大切なデータは、再インストールをする前に書き込み可能な CD や DVD、または外付けハードディスクなどにバックアップしてください。
- ハードディスクに保存されている再インストール用のデータも削除されます。ハードディスクからの再インストールができなくなりますので、ご注意ください。

1 **「Step1 セットアップユーティリティの設定を変更する」(☞182 ページ)の手順 *1* ～ *8* の作業をします。**

作業が終了し、パソコンが再起動した後、次の画面が表示されます。

2 **内容をよく読んで[次へ]をクリックします。**

3 **「ハードディスク全体をご購入時の状態に復元します」をクリックして選択し、[次へ]をクリックします。**

4 「ハードディスク全体をご購入時の状態に復元します。」と表示されていることを確認し、[リカバリ開始]をクリックします。

確認画面が表示されます。

5 [OK]をクリックします。

ハードディスクのフォーマット（初期化）と内容の復元が始まります。

ご注意

- フォーマット中および復元中は、画面に進行状況が表示されます。次の操作案内が表示されるまで、何も操作しないでください。
  再インストールを途中で中止してしまうと Windows を起動できなくなります。その場合は、手順 ***1*** から再インストールし直してください。

6 「Step2 リカバリ CD/DVD の内容を再インストールする」の手順 ***5***（☞185 ページ）に進みます。

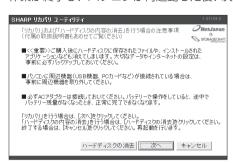
指定のサイズにハードディスク容量を分割してリカバリ CD/DVD から再インストールする

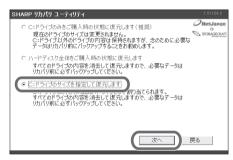
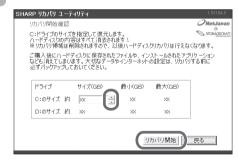
ハードディスク全体をフォーマットして、C ドライブと D ドライブの容量を設定し、C ドライブと D ドライブをご購入時の状態に復元します。

ご注意

- この操作では、C ドライブだけでなく D ドライブにバックアップしているデータもすべて削除されます。大切なデータは、再インストールをする前に書き込み可能な CD や DVD、または外付けハードディスクなどにバックアップしてください。
- ハードディスクに保存されている再インストール用のデータも削除されます。ハードディスクからの再インストールができなくなりますので、ご注意ください。

1 「Step1　セットアップユーティリティの設定を変更する」(☞182 ページ)の手順 *1* ～ *8* の作業をします。

作業が終了し、パソコンが再起動した後、次の画面が表示されます。

2 内容をよく読んで[次へ]をクリックします。

3 「C：ドライブのサイズを指定して復元します」をクリックして選択し、[次へ]をクリックします。

4 ▼ ▲ で C ドライブの容量を指定し、[リカバリ開始]をクリックします。

5 [OK]をクリックします。

ハードディスクのフォーマット（初期化）と内容の復元が始まります。

- フォーマット中および復元中は、画面に進行状況が表示されます。次の操作案内が表示されるまで、何も操作しないでください。
  再インストールを途中で中止してしまうと Windows を起動できなくなります。その場合は、手順 ***1*** から再インストールし直してください。

6 **「Step2 リカバリ CD/DVD の内容を再インストールする」の手順 *5*（☞185 ページ）に進みます。**

付　　録

セットアップユーティリティの設定内容やパソコンに関する補足情報などについて紹介しています。また、「さくいん」から、操作説明を探すこともできます。

セットアップユーティリティ

セットアップユーティリティは、パソコンの動作環境に関する設定(接続した周辺機器の有効/無効、パスワードの設定など)を変更するためのユーティリティです。

セットアップユーティリティの内容は、ご購入時に適切に設定されています。必要なとき以外は操作しないでください。
セットアップユーティリティには、次のようなメニューがあります。

- Main メニュー
- Advanced メニュー
- Security メニュー
- Exit メニュー

ご参考

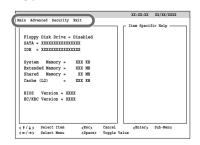
- 誤って変更してしまったときは、「**すべての設定を初期値に戻す**」(☞199 ページ)の操作をしてください。
- セットアップユーティリティではパッド型ポインティングデバイスおよびマウスを使って操作できません。キーボードで操作してください。

設定内容を変更する

1 電源を入れます。

2 画面の左下に「<F2>to enter System Configuration Utility」と表示されたらすぐに、F2 キーを押します。

セットアップユーティリティの画面が表示されます。

3 ← キーまたは → キーを押して設定したいメニューを選択し、⏎ キーを押します。

選んだメニューの設定項目が表示されます。

4 ↓ キーまたは ↑ キーを押して設定項目を選択します。

```
  Date and Time
  Boot Sequence
√ 10-Key
√ Hot Key Beep
√ USB Emulation
```

"√"または"＿"マークのある項目は
(スペース) キーを押すたびに設定が切り替わります。

"√"：有効
"＿"：無効

マークのない項目は
↵ キーを押すと、サブメニューが表示されます。
現在の設定には、"•"マークが付いています。

Tab	：項目間を移動します。
↓ ↑	：設定内容を変更します。("•"マークが移動します。)
Esc	：設定を取り消し、1ステップ前の状態に戻ります。
↵	：設定を保存し、メニューに戻ります。(ただし[Cancel]選択時を除く。)
0〜9	：日付や時刻を入力する。

5 → キーを押して「Exit」メニューを選択し、↵ キーを押します。

Exit メニューが表示されます。

6 「Exit Saving Changes」が選択されていることを確認し、↵ キーを押します。

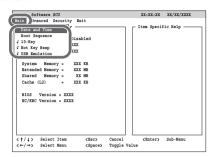
7 「Save your changes and exit now?」と表示されたら、[OK]が選択されていることを確認し、↵ キーを押します。

変更した内容を保存してセットアップユーティリティが終了し、Windows が起動します。

ご参考

- セットアップユーティリティの操作中は、省電力機能は働きません。ディスプレイを閉じないでください。

Main メニュー

日付と時刻、システム起動時にデータを読み取りに行く場所(デバイス)など、システムの基本的な設定項目があります。

Date and Time

時刻と日付を設定します。それぞれの項目に適切な数字を設定してください。

Boot Sequence

システム起動時に使用するデバイスの順序を設定します。それぞれの項目に同じドライブが重複しないように設定してください。

1st Boot Device　：最初に使用するデバイス
2nd Boot Device　：2 番目に使用するデバイス
3rd Boot Device　：3 番目に使用するデバイス
Hard Disk Drive　：ハードディスクから起動
Floppy Disk Drive：フロッピーディスクドライブから起動
CD-ROM Drive　：CD/DVD ドライブから起動

10-Key

テンキーを使用できるようにする／使用できないようにするを設定します。

"√"表示時：使用できる　　"_"表示時：使用できない

Hot Key Beep

Fn キーと F1 、F5 、F6 、F7 、F8 、F10 、F11 、F12 の各キーを組み合わせて押したときに、Windows 上で音を鳴らす／鳴らさないを設定します。

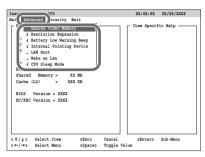
"√"表示時：鳴らす　　"_"表示時：鳴らさない

USB Emulation

Windows が起動していない状態で、USB キーボード、USB フロッピーディスクドライブを使用できるようにする／使用できないようにするを設定します。

"√"表示時：使用できる　　"_"表示時：使用できない

Advanced メニュー

パソコンの動作に関する設定項目があります。

Shared Video Memory

エクステンドメモリーと共有するビデオメモリーのサイズ (32M/64M/128M/256M) を設定します。

Resolution Expansion（Windows 環境では無効）

800 × 600 ドット表示にしたときに、拡大して表示するか、拡大せずに中央に表示するかを設定します。

“√” 表示時：拡大する　　“_” 表示時　：拡大しない

Battery Low Warning Beep

バッテリーパックの容量が少なくなったときに、警告音を鳴らす／鳴らさないを設定します。

“√” 表示時：鳴らす　　“_” 表示時　：鳴らさない

Internal Pointing Device

パッド型ポインティングデバイスの有効／無効を設定します。

“√” 表示時：有効にする　　“_” 表示時　：無効にする

LAN Boot

ネットワーク (LAN) 上の起動用サーバーから起動する／起動しないを設定します。

“√” 表示時：起動する　　“_” 表示時　：起動しない

Wake on Lan

内蔵 LAN インターフェースが起動用パケットを受信したときに、スタンバイから復帰させる／復帰させないを設定します。

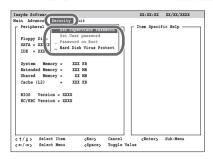
“√” 表示時：復帰させる　　“_” 表示時　：復帰させない

CPU Sleep Mode

CPU の省電力モードを設定します。通常は、ご購入時のまま [有効にする] でお使いください。

“√” 表示時：有効にする　　“_” 表示時：無効にする

Security メニュー

パスワードの登録など、パソコンの安全機能に関する設定項目があります。

Set Supervisor Password

スーパーバイザーパスワードを設定します。8 文字までの半角英数字で設定してください。

Set User password

ユーザーパスワードを設定します。8 文字までの半角英数字で設定してください。

Password on Boot

パソコンの起動時に、パスワード入力が必要かを設定します。

"√"表示時：パスワード入力が必要

"_"表示時：パスワード入力が不要

Hard Disk Virus Protect

ハードディスクのブートセクタへの書き込みを禁止する／禁止しないを設定します。

"√"表示時：禁止する　"_"表示時：禁止しない

ご参考

- パスワードの設定について詳しくは、「パスワードを設定して使用できる人を制限する」（☞134 ページ）を参照してください。

Exit メニュー

セットアップユーティリティの設定を、取り消す、初期値に戻す、設定内容に変更するなどを選んで、終了する画面です。

Exit Saving Changes

変更内容を保存して、セットアップユーティリティを終了します。

Exit Discarding Changes

変更内容を保存しないで、セットアップユーティリティを終了します。

Load Setup Defaults

セットアップユーティリティのすべての項目を初期値に戻します。

Discard Changes

セットアップユーティリティのすべての項目を前回保存した値に戻します。

Save Changes

変更内容を保存します。

すべての設定を初期値に戻す

1 **[→] キーで「Exit」メニューを選択し、[⏎] キーを押します。**

Exit メニューが表示されます。

2 **[↓] キーで「Load Setup Defaults」を選択し、[⏎] キーを押します。**

3 **「Load the default settings now?」と表示されたら、[OK] が選択されていることを確認し、[⏎] キーを押します。**

4 **[→] キーで「Exit」メニューを選択し、[⏎] キーを押します。**

Exit メニューが表示されます。

5 **「Exit Saving Changes」が選択されていることを確認し、[⏎] キーを押します。**

6 **「Save your changes and exit now?」と表示されたら、[OK] が選択されていることを確認し、[⏎] キーを押します。**

設定内容を保存してセットアップユーティリティが終了し、Windows が起動します。

ホームページを見やすくする

Liquid Surf ツールバーを使うと、Internet Explorer で表示されるホームページを以下のように表示することができます。

Liquid Surf ツールバー

- 縦に長いホームページを折り返して表示する
- 異なる 2 つのホームページを同時に表示する
- ホームページを拡大・縮小する

ご参考

- Liquid Surf ツールバーが表示されていないときは、「表示」メニューをクリックし、「ツールバー」−「Liquid Surf」をクリックして「Liquid Surf」にチェックマークを付けてください。
- Liquid Surf ツールバーの詳しい使い方は、ヘルプを参照してください。ヘルプを表示するには、インターネットに接続している状態で Liquid Surf ツールバーの をクリックし、「ヘルプ」をクリックします。「サポート」のページが表示されますので、ページ下部に表示されている「Liquid Surf Help」をクリックしてください。
- ホームページごとに Liquid Surf ツールバーの設定（プロファイル）を保存しておくと、Liquid Surf ツールバーの から登録名（プロファイル名）を選択するだけで、毎回同じ表示方法および拡大・縮小率でホームページを表示することができます。詳しくは、Liquid Surf ツールバーのヘルプを参照してください。

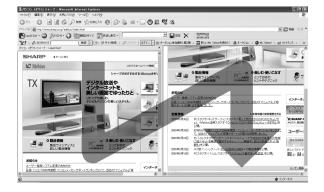
縦に長いホームページを折り返して表示する

縦に長いホームページを左右 2 画面に分割して折り返し表示することできます。

1 **Internet Explorer でホームページを表示します。**

2 **Liquid Surf ツールバーの 通常表示 または 分割表示（表示モードの選択）をクリックし、「折返し表示」をクリックします。**

画面が左右に分割され、ホームページが折り返して表示されます。

Liquid Surf ツールバーの表示モードの選択ボタンは 折返し表示 に変わります。

異なる 2 つのホームページを同時に表示する

画面を左右に分割して、異なる 2 つのホームページを同時に表示します。

1 **Internet Explorer でホームページを表示します。**

2 **Liquid Surf ツールバーの 通常表示 または 折返し表示（表示モードの選択）をクリックし、「分割表示」をクリックします。**

画面が左右に分割され、左右の画面に別々のホームページを表示できるようになります。このとき Liquid Surf ツールバーの表示モードの選択ボタンは 分割表示 に変わり、その右側に リンク方法 が表示されます。

ご参考

- 分割表示しているときは、リンク方法 をクリックしてリンク方法を変更すると、現在表示しているホームページを表示させたまま、リンク先ページを反対側の画面に表示させることができます。詳しくは、Liquid Surf ツールバーのヘルプを参照してください。
- 分割表示しているときは、左画面の操作用として（戻る）、（進む）などのボタンが追加表示されます。

ホームページを拡大・縮小する

文字や画像が小さくて見にくいときや、画面により多くの情報を表示したいときなどは、表示サイズを変更してみてください。

1 **Internet Explorer でホームページを表示します。**

2 **Liquid Surf ツールバーの（表示サイズの選択）をクリックし、拡大・縮小率をクリックします。**

選んだ拡大・縮小率で画面が表示されます。

ご参考

- すべてのホームページの内容（コンテンツ）が拡大・縮小できるわけではありません。詳しくは、Liquid Surf ツールバーのヘルプを参照してください。
- コントロールパネルの「地域と言語のオプション」で言語を変更する場合は、「地域オプション」タブと「詳細設定」タブ両方で言語設定を変更してください。言語設定が異なると、Liquid Surf のツールバーが正しく表示されません。

無線 de おしゃべりをお使いになるときは

無線 de おしゃべり（付属ソフト）を使ってパソコン同士で通信するときは、下記の手順に従って通信相手のパソコンに無線 de おしゃべりをインストールしてください。

無線 de おしゃべりは、次のパソコンに対応しています。

- 対応 OS： Microsoft Windows XP Home Edition
Microsoft Windows XP Professional
- Microsoft Windows Media Player 9 シリーズまたは Microsoft Windows Media Player 10 がインストールされているパソコン
- ワイヤレス LAN 内蔵またはワイヤレス LAN カードを取り付けているパソコン

ご参考

- 無線 de おしゃべりをお使いになるときは、「コンピュータの管理者」のアカウントでログオンしてください。「制限付きアカウント」でログオンしているときは、無線 de おしゃべりを使用できません。

無線 de おしゃべりをインストールする

このパソコンでユーティリティ CD を作成し、そのディスクを使って通信相手のパソコンに無線 de おしゃべりをインストールします。

1 ユーティリティ CD を作成します。

ユーティリティ CD の作成方法は、［メビウス活用ガイド］の「音楽や映像を楽しむ」－「他のパソコンと映像・画像・音楽を共有しよう」－「ユーティリティ CD を作成する」を参照してください。

2 相手先のパソコンの CD/DVD ドライブに、ユーティリティ CD をセットします。

3 [スタート]をクリックし、「マイコンピュータ」をクリックします。

「マイコンピュータ」画面が表示されます。

4 CD/DVD ドライブのアイコンをダブルクリックします。

5 「SOFTWARE」フォルダをダブルクリックします。

6 「MUSENDEO」フォルダをダブルクリックします。

7 「Setup」アイコンをダブルクリックします。

インストーラーが起動します。

8 画面の指示に従って無線 de おしゃべりをインストールします。

動画を配信するときは

無線 de おしゃべりを使って動画を配信するには、Windows Media エンコーダ 9 シリーズが必要です。
動画配信に使用するパソコンに Windows Media エンコーダ 9 シリーズがインストールされていない場合は、作成したユーティリティ CD（☞ メビウス活用ガイド「音楽や映像を楽しむ」－「他のパソコンと映像・画像・音楽を共有しよう」－「ユーティリティ CD を作成する」）からインストールしてください。

1 **動画配信に使用するパソコンの CD/DVD ドライブに、ユーティリティ CD をセットします。**

2 **[スタート]をクリックし、「マイコンピュータ」をクリックします。**
「マイコンピュータ」画面が表示されます。

3 **CD/DVD ドライブのアイコンをダブルクリックします。**

4 **「SOFTWARE」フォルダをダブルクリックします。**

5 **「MUSENDEO」フォルダをダブルクリックします。**

6 **「WMENCODE」フォルダをダブルクリックします。**

7 **「WMEncoder」アイコンをダブルクリックします。**
インストーラーが起動します。

8 **画面の指示に従って Windows Media エンコーダ 9 シリーズをインストールします。**

ご参考

- このパソコンには、Windows Media エンコーダ 9 シリーズがインストールされています。
- Windows Media エンコーダ 9 シリーズがインストールされているかどうか確認したいときは、次の手順に従ってください。
  ① [スタート]をクリックし、「コントロールパネル」をクリックします。
  「コントロールパネル」画面が表示されます。
  ② 「プログラムの追加と削除」をクリックします。
  ③ 「現在インストールされているプログラム」欄に「Windows Media エンコーダ 9 シリーズ」が表示されているかどうかを確認します。

  ④ 画面右上の ☒ をクリックして「プログラムの追加と削除」画面を閉じます。
  ⑤ 画面右上の ☒ をクリックして「コントロールパネル」画面を閉じます。
- お使いのパソコンの Windows Media Player9 または Windows Media Player10 で再生できない動画ファイルは配信できません。

パソコンのお手入れ

お手入れをする際は、電源を切っておいてください。

キャビネット

ほこりの出ない乾いた柔らかい布で拭きます。

通風孔

通風孔にほこりなどが付着すると、本体の換気を妨げるおそれがあります。掃除機などを使ってほこりを除去してください。

ディスプレイ／パッド型ポインティングデバイス

ほこりの出ない乾いた柔らかい布で拭いてください。汚れがひどい場合は、少量の中性洗剤を含ませて拭いてください。

- お手入れの際に、アルコール、ベンジン、シンナーなどの強い化学薬品やぬれぞうきんは使用しないでください。変形・変色の原因となります。

さくいん

記号・アルファベット

ア行

カ行

サ行

タ行

ナ行

ハ行

マ行

ラ行

ワ行

画面で見るためのマニュアル（パソコン電子マニュアル）

この製品には、画面で見るためのマニュアルがあります。
冊子のマニュアルとあわせてご覧ください。

電子マニュアルの起動のしかた

デスクトップの「パソコン電子マニュアル」をクリックします。

をクリック

パソコンの学習

楽しみながらパソコンの基本操作を学習!!

使い方を知りたい

パソコンのさまざまな使い方を紹介!!

トラブル解決

トラブルの解決をお手伝い!!

付属ソフトウェア

付属ソフトウェアの概要やお問い合わせ先を紹介!!

サポート&サービス

使い方相談や修理相談の窓口を紹介!!

最新情報はこちらから

この製品の最新情報をホームページで確認!!

取扱説明書

● パソコン電子マニュアル

パソコンの画面にも専用の
マニュアルがあります。
冊子のマニュアルとあわせ
てご覧ください。

● メビウスホームページ

http://www.sharp.co.jp/mebius/

インターネットをご利用の方は、上記のホームページもご活用ください。「メビウスホームページ」では、商品情報やQ&A、周辺機器情報、ダウンロード情報など、役立つ情報を掲載しています。

● 製品についてのお問い合わせ、修理のご相談は・・

別冊の「サポートのご案内」をご覧ください。

シャープ株式会社

本　　　　　社　〒545-8522　大阪市阿倍野区長池町22番22号
情報通信事業本部　〒639-1186　奈良県大和郡山市美濃庄町492番地

この説明書は再生紙を使用しています。

WT-N Series
Printed in China

06K IM (TINSJ4085ACZZ)①